

アジア地域におけるD A B・アジュディケーター
導入・普及のための企画検討調査
調査報告書

平成 22 年 3 月
(2010 年)

独立行政法人
国際協力機構（J I C A）

委託先
国立大学法人 京都大学
日本工営株式会社

アジア地域におけるD A B・アジュディケーター
導入・普及のための企画検討調査
調査報告書

平成 22 年 3 月
(2010 年)

独立行政法人
国際協力機構（J I C A）

委託先
国立大学法人 京都大学
日本工営株式会社

アジア地域におけるDAB・アジュディケーター
導入・普及のための企画検討調査

調査報告書

目 次

1	調査業務概要.....	1-1
1.1	調査の背景	1-1
1.2	調査の目的	1-1
1.3	調査の体制	1-1
1.4	調査の工程	1-2
2	現地調査.....	2-1
2.1	現地調査の目的	2-1
2.2	現地調査の工程	2.2
2.3	DABプロモーションセミナー	2.2
2.4	実施機関との意見交換	2-2
2.4.1	カンボジア	2-3
2.4.2	ベトナム	2-4
2.4.3	インドネシア	2-4
2.4.4	スリランカ	2-5
2.5	アンケート調査	2-6
2.5.1	概要	2-6
2.5.2	アンケート調査の結果（カンボジア）	2-7
2.5.3	アンケート調査の結果（ベトナム）	2-12
2.5.4	アンケート調査の結果（バングラデシュ）	2-17
2.5.5	アンケート調査の結果（スリランカ）	2-22
3	国内セミナー.....	3-1
3.1	DABプロモーションセミナー	3-1
3.2	アンケート調査	3-1
3.2.1	概要	3-1
3.2.2	アンケート調査結果	3-2
4	アジュディケーター育成のためのトレーニング教材	4-1
4.1	トレーニング教材作成の目的.....	4-1
4.2	教材の構成と使用方法	4-1
4.2.1	教材の構成	4-1
4.2.2	教材の使用手法	4-2

5	アジュディケーター資格審査に係る運用規定(案)	5-1
5.1	運用規定作成の目的	5-1
5.2	資格審査の実施とNL維持機関	5-1
5.3	資格審査評価委員会	5-2
5.4	資格審査応募条件	5-2
5.5	資格審査前のトレーニング	5-3
5.6	資格審査ワークショップ	5-4
5.7	NLへの認定アジュディケーター掲載	5-4
5.8	資格審査の頻度とNLの規模	5-4
5.9	NLの更新と維持	5-4
6	アジア地域におけるDAB・アジュディケーター導入・普及のためのロードマップ	6-1
6.1	ロードマップの目標と実施されるべき対応方策	6-1
6.2	MDBにおける普及実態調査	6-2
6.3	FIDIC MAにおける育成・資格審査実態調査	6-2
6.3.1	アジア地域のMAにおける育成・資格審査実態調査	6-3
6.3.2	欧州地域のMAにおける育成・資格審査実態調査	6-4
6.4	JICA DB Training Kitの有効性検証	6-4
6.5	DB普及のためのセミナーの継続開催	6-6
6.6	JICA支援によるパイロットプロジェクトの実施	6-6
6.6.1	パイロットプロジェクトの目的	6-6
6.6.2	パイロットプロジェクト実施のための準備作業	6-6
6.6.3	パイロットプロジェクトの実施	6-8
6.7	ロードマップ	6-9

【 図 表 】

表 2.1	第一次現地調査工程	2-1
表 2.2	第二次現地調査工程	2-2
表 2.3	DABセミナー参加者	2-2
表 2.4	アンケート調査の回答数	2-6
表 3.1	DABセミナー参加者（東京）	3-1
表 4.1	5日間 DB トレーニング・ワークショップのプログラム（例）	4-3
表 6.1	ロードマップの目標と解決すべき課題	6-1
表 6.2	ロードマップの目標と実施すべき対応方策	6-1
表 6.4	ロードマップにおける対応方策とJICAの支援形態	6-3
表 6.5	DAB普及セミナーの開催記録	6-5
図 2.1	セミナー参加者とアンケート回答者の内訳（カンボジア）	2-7
図 2.2	DABを導入したいか（カンボジア）	2-8
図 2.3	DABを導入したいしくない理由（カンボジア）	2-9

図 2.4	DABに対する報酬（カンボジア）	2-10
図 2.5	クレーム作成/処理の経験（カンボジア）	2-10
図 2.6	クレームの内容（カンボジア）	2-11
図 2.7	クレームの解決方法（カンボジア）	2-11
図 2.8	セミナー参加者とアンケート回答者の内訳（ベトナム）	2-12
図 2.9	DABを導入したいか（ベトナム）	2-13
図 2.10	DABを導入したい/したくない理由（ベトナム）	2-14
図 2.11	DABに対する報酬（ベトナム）	2-15
図 2.12	クレーム作成/処理の経験（ベトナム）	2-15
図 2.13	クレームの内容（ベトナム）	2-16
図 2.14	クレームの解決方法（ベトナム）	2-16
図 2.15	セミナー参加者とアンケート回答者の内訳（バングラデシュ）	2-17
図 2.16	DABを導入したいか（バングラデシュ）	2-18
図 2.17	DABを導入したい/したくない理由（バングラデシュ）	2-19
図 2.18	DABに対する報酬（バングラデシュ）	2-19
図 2.19	クレーム作成/処理の経験（バングラデシュ）	2-20
図 2.20	クレームの内容（バングラデシュ）	2-21
図 2.21	クレームの解決方法（バングラデシュ）	2-21
図 2.22	セミナー参加者とアンケート回答者の内訳（スリランカ）	2-22
図 2.23	DABを導入したいか（スリランカ）	2-23
図 2.24	DABを導入したい/したくない理由（スリランカ）	2-24
図 2.25	DABに対する報酬（スリランカ）	2-25
図 2.26	クレーム作成/処理の経験（スリランカ）	2-26
図 2.27	クレームの内容（スリランカ）	2-27
図 2.28	クレームの解決方法（スリランカ）	2-27
図 3.1	アンケート回答者の内訳（東京）	3-2
図 3.2	DABの導入について（東京）	3-2
図 3.3	DABメンバーの人数（東京）	3-3
図 3.4	アジュディケーターへの興味	3-4
図 3.5	DAB Training Courseへの参加	3-4
図 3.6	Adjudicator's Assessment Workshopへの参加	3-5
図 6.1	JICA委託調査による対応方策実施のロードマップ	6-9
図 6.2	パイロットプロジェクト実施のためのロードマップ	6-9

【 添 付 】

添付-2.1	DABセミナープログラム
添付-2.2	DABセミナー教材
添付-2.3.1	DABセミナーにおける質疑応答（カンボジア）
添付-2.3.2	DABセミナーにおける質疑応答（ベトナム）
添付-2.3.3	DABセミナーにおける質疑応答（バングラデシュ）
添付-2.3.4	DABセミナーにおける質疑応答（スリランカ）
添付-2.4.1	円借款案件実施機関との面談記録（PAS、カンボジア）
添付-2.4.2	円借款案件実施機関との面談記録（PPWSA、カンボジア）
添付-2.4.3	円借款案件実施機関との面談記録（EdC、カンボジア）

添付－2.4.4	円借款案件実施機関との面談記録 (MPMU、ベトナム)
添付－2.4.5	円借款案件実施機関との面談記録 (MPI、ベトナム)
添付－2.4.6	円借款案件実施機関との面談記録 (MOC、ベトナム)
添付－2.4.7	円借款案件実施機関との面談記録 (PLN、インドネシア)
添付－2.4.8	円借款案件実施機関との面談記録 (RDA、スリランカ)
添付－2.4.9	円借款案件実施機関との面談記録 (DER、スリランカ)
添付－2.4.10	円借款案件実施機関との面談記録 (CEB、スリランカ)
添付－2.4.11	円借款案件実施機関との面談記録 (NWSDB、スリランカ)
添付－2.5	DAB Questionnaire
添付－2.6.1	アンケート集計結果 (カンボジア)
添付－2.6.2	アンケート集計結果 (ベトナム)
添付－2.6.3	アンケート集計結果 (バングラデシュ)
添付－2.6.4	アンケート集計結果 (スリランカ)
添付－2.7.1	DABセミナー写真 (プノンペン)
添付－2.7.2	DABセミナー写真 (ハノイ)
添付－2.7.3	DABセミナー写真 (ダッカ)
添付－2.7.4	DABセミナー写真 (コロンボ)
添付－3.1	DABセミナープログラム (東京)
添付－3.2	DABセミナー教材 (東京)
添付－3.3	DABセミナーにおける質疑応答 (東京)
添付－3.4	DABアンケート用紙 (東京)
添付－3.5	アンケート集計結果 (東京)
添付－3.6	DABセミナー写真 (東京)
添付－5.1	アジュディケーター資格審査に係る運用規定 (案)
添付－6.1	パイロットプロジェクトにおけるDBの費用見積

略 語 集

ADR	:	Alternative Dispute Resolution
AJCE	:	Association of Japanese Consulting Engineers
APA	:	FIDIC Assessment Panel for Adjudicators
DAB	:	Dispute Adjudication Board
DB	:	Dispute Board
DRB	:	Dispute Review Board
DRBF	:	Dispute Resolution Board Foundation
FIDIC	:	International Federation of Consulting Engineers
ICC	:	International Chamber of Commerce
JICA	:	Japan International Cooperation Agency
MA	:	FIDIC Member Association
MDB	:	Multilateral Development Bank

第1章 調査業務概要

1.1 調査の背景

国際協力機構（JICA）では、調達業務の調和化の一環として土木工事の標準入札書類の改訂を 2009 年 6 月に行い、一般契約条件書として FIDIC（国際コンサルティングエンジニア連盟）が MDB (Multilateral Development Bank) と共同で開発した「MDB 調和化版」を採用した。「MDB 調和化版」では、契約紛争の解決プロセスとして DB (Dispute Board) が導入されており、大きな特徴となっている。

これを背景とし、円借款案件においても今後 DB の設置が増加することが考えられ、円借款借入国の大半を占めるアジア地域においてアジュディケーターの育成が円滑な案件実施のために急務となっている。¹

かかる状況下、JICA は 2008 年度に「アジア地域における DAB・アジュディケーター育成計画の企画検討調査」を実施しアジュディケーター育成のための方策検討を行った。この調査では、DB の本格導入には未だに多くの課題が残されていることが指摘されている。「供給サイド」ではアジュディケーター人材育成や資格認定機関の整備等が、また「需要サイド」では、先方実施機関やコントラクターへの理解促進等が、課題として抽出されており、DB の本格導入のためにはこれらの課題に並行的に取り組むことが重要と認識される。

これを受けて、多くの円借款プロジェクトが実施されているアジア地域 5 ヶ国を対象として、各国における DB の導入・普及に関わる問題・課題の克服にむけた方策を、より具体的に検討するために、本調査を実施することとなった。

1.2 調査の目的

本調査の目的は、2010 年度以降の円借款プロジェクトにおける DB の導入・普及への準備を行うことにあり、成果品として以下の文書を作成・提案する。

- ① DB の導入・普及へのロードマップ
- ② アジュディケーター育成のためのトレーニング教材
- ③ アジュディケーター資格審査に係る運用規定(案)

これらの目的を達成するために、国内業務に加えて 2 回の現地調査（カンボジア、ベトナム、インドネシア、バングラデシュ、スリランカ）と東京における DAB プロモーションセミナーを実施した。

¹ DAB (Dispute Adjudication Board) は FIDIC 1999 年版の各種契約条件書の中で使われている用語であるが、MDB 版では DB (Dispute Board) と変更された。DAB と DB の機能は同等である。本報告書においては、実施済みの内容を報告する場合には「DAB」を用い、トレーニング・キットの作成、トレーニング・ワークショップの実施、アジュディケーター資格審査に関する文書、DB の普及や JICA ODA プロジェクトへの導入など将来のことを記述する場合は「DB」を用いる。

1.3 調査の体制

調査は、京都大学と日本工営の共同企業体により実施され、以下の4名の団員が業務を担当した。

	担当	氏 名	所 属
1	業務主任／国際契約	大本 俊彦	京都大学
2	円借款プロジェクト監理 (1)	林 幸伸	日本工営
3	円借款プロジェクト監理 (2)	山下 佳彦	日本工営 (AJCE)
4	DAB プロセス・アドバイザー	Gordon Jaynes	京都大学 (個人)

1.4 調査スケジュール

調査は2009年11月から2010年3月の期間に実施した。調査における主なマイルストーンは以下の通りである。

- | | |
|-----------------------------------|----------------------|
| 1) 契約締結 | : 2009年11月2日 |
| 2) インセプションレポート提出 | : 2009年11月12日 |
| 3) 第一次現地調査 (カンボジア・ベトナム) | : 2009年11月18日～11月25日 |
| 4) 第一次現地調査・調査結果概要報告書提出 | : 2010年1月8日 |
| 5) 第二次現地調査 (インドネシア・バングラデシュ・スリランカ) | : 2010年1月25日～2月3日 |
| 6) 国内 DAB プロモーションセミナー (東京) | : 2010年2月18日 |
| 7) 第二次現地調査・調査結果概要報告書提出 | : 2010年2月26日 |
| 8) 調査報告書提出 | : 2010年3月19日 |

第2章 現地調査

2.1 現地調査の目的

今後、大型の円借款案件の実施が見込まれる、カンボジア、ベトナム、インドネシア、バングラデシュ、スリランカの 5 カ国において以下 3 つの項目を目的として現地調査を行った。

1) DAB プロモーションセミナーの開催

DB による契約紛争解決手法の理解を深めるために、対外援助窓口機関、円借款案件実施機関、当該国の業界団体（コンサルタント、コントラクター）、ならびに教育機関を対象としてセミナーを開催する。セミナーでは、参加者に対してアンケート調査を実施し、契約紛争に関わる課題の把握、DB の導入・普及に関する意見や要望の抽出を行う。

2) 援助窓口機関及び先方実施機関とのミーティング

「調査対象国における円借款プロジェクトへの DB の導入・普及に関する問題・課題の抽出を行い、その問題・課題の克服に向けた具体的且つ現実的な方策を検討する」ことを目的にミーティングを行う。

3) JICA 事務所での意見交換

JICA 現地事務所において、円借款プロジェクトにおける契約紛争処理の現状をヒアリングし、DAB の導入・普及に関わる意見交換を行う。

2.2 現地調査の工程

現地調査は 2 回に分けて実施した。第一次現地調査（カンボジア、ベトナム）と第二次現地調査（インドネシア、バングラデシュ、スリランカ）の工程は以下の通りであった。

表 2.1 第一次現地調査工程

日付	作業内容
11月18日（水）	移動（日本ープノンペン）
11月19日（木）	JICA事務所との面談 DABセミナー開催（プノンペン） 実施機関との面談（PAS）
11月20日（金）	実施機関との面談（PPWSA, EDF）
11月21日（土）	移動（プノンペンーハノイ）
11月22日（日）	休日
11月23日（月）	DABセミナー開催（ハノイ）
11月24日（火）	実施機関との面談（MPMU、MPI、MOC）
11月25日（水）	移動（ハノイー日本）、帰国

表 2.2 第二次現地調査工程

日付	作業内容
1月25日（月）	移動（日本－ジャカルタ）
1月26日（火）	JICA事務所との協議 実施機関との面談（PLN）
1月27日（水）	移動（ジャカルターダッカ）
1月28日（木）	JICA事務所との協議 DABセミナー開催（ダッカ）
1月29日（金）	移動（ダッカ－コロンボ）
1月30日（土）	資料整理
1月31日（日）	資料整理
2月1日（月）	JICA事務所との協議 DABセミナー開催（コロンボ）
2月2日（火）	実施機関との面談（RDA、DER、CEB、NWSDB）
2月3日（水）	移動（コロンボ－日本）、帰国

2.3 DAB プロモーションセミナー

添付－2.1 のプログラムに従い、カンボジア、ベトナム、バングラデシュ、スリランカにおいて DAB セミナーを実施した。セミナーで使用した教材を添付－2.2 に示す。

各国とも想定を上回る数の参加があり、組織別の内訳は以下の通りであった。

表 2.3 DAB セミナー参加者

機関	参加人数			
	カンボジア	ベトナム	バングラデシュ	スリランカ
政府機関	52	125	50	56
コンサルタント	12	14	1	14
コントラクター	2	2		18
国際金融機関				8
教育機関		6		1
JICA	11	10	2	8
計	77	157	53	105

各セミナーでは、参加者から活発な質問が寄せられた。質疑応答の主な内容を添付－2.3.1 から添付－2.3.4 に示す。

2.4 実施機関との意見交換

各国において、円借款事業の実施機関である組織の幹部との面談を実施した。添付－2.4.1 から添付－2.4.11 に面談の記録を示す。

各国の実施機関との面談ならびに後述するアンケート調査の結果を併せ、頻繁に聴取された意見を以下に要約する。

- 各国ともに、DB は殆ど未経験の新しい制度であり、その導入に対してまだ戸惑いを表明する意見が多い。
- DB の費用については、多くの実施機関が割高感を有している。DB の合理性は理解するものの、費用負担が最大の懸案事項であり、低額での DB 導入を実現したい、との意見が多く聞かれた。
- DAB 導入がもたらす発注者の便益を実証するために、パイロットプロジェクト実施が有効である、との意見がしばしば聞かれた。
- 適任のアジュディケーターを探すことに対して不安を感じる意見も聞かれた。
- クレーム・紛争の原因としては、1) 現場の引渡し遅れ、2) 予見不可能な物理的条件、3) 物価変動調整、4) 支払遅延、5) 変更、が多い。
- JICA に期待する事項として、DB の理解促進を図るためのセミナー、ワークショップの開催や、アジュディケーター育成のための支援を求める意見が多く聞かれた。
- 契約運用上の問題点として以下が確認された。
 - Engineer's Decision/DB's Decision の拘束力が遵守されていないケースが散見された。
 - 契約で常設 DAB (standing DB) が規定されているのに関わらず、その後の契約当事者間の協議により、設置が引き延ばされている事例がみられた。
 - 発注者側の内部部局が Engineer を兼任している事例がみられる。このようなプロジェクトでは特に DB の導入が有効と考えられる。
- DB の普及には、発注者となる実施機関のみならず政府内の調達担当部局、財政部局、法務部局、の十分な理解が必要と考えられる。

2.4.1 カンボジア

1) シアヌークビル港湾局 (PAS)

現状では、DB の必要性は強く感じていないようであるが、今後の案件については、公的支援が得られるのであれば、前向きに導入も考えうるとの意見であった。DB の費用については割高感があり、特に発注者側の負担について疑問があるようである。また、導入にあたっては、財務省 (MOEF) 等の ODA 関連機関の理解も必要であるとの意見であった。

2) プノンペン上水道局 (PPWSA)

現在、円借款案件として実施中のニロータ水道事業は (DB の導入には) 十分な規模を有するが、既に入札中であることが確認された。但し、契約条件書を調べたところ、本契約には adjudicator への紛争の付託が規定されており、この規定は FIDIC の DB 規則ではなく、英国の statutory adjudication に類似していることが確認された。カンボジアでは、一般的には DB はま

だ馴染みが薄いのが、政府は ADR（裁判外紛争解決）を推奨しており、最近のローカル調達書ではこれに準じた規定が盛り込まれているとのことであった。また、紛争を発生させないために、当事者（発注者、コントラクター、コンサルタント）間のチームワークの意識が重要であることが PPWSA より強調された。

3) カンボジア電力公社 (EdC)

現在、水力発電事業は BOT ベースで実施されていることもあり、EdC が直接の工事発注者となる案件は中小規模の送配電案件が多い。その意味からも DB は馴染みにくいとの意見であった。一般的にもカンボジアでは DB が普及しておらず、紛争解決には法律家や National Audit Authority が関与することが多いとのコメントがあった。

2.4.2 ベトナム

1) Major Project Management Unit (MPMU)

MPMU は、円借款事業であるキムリエン交差点改良事業、北タンロン都市インフラ整備事業の実施機関である。MPMU より DB の普及のためには、発注者にとってどのような便益があるのかを明確にする必要があることが強調された。また、DB の普及にはベトナム国の法的枠組（legal framework）の改変が必要となるという意見がなされたが、調査団より、多くの国において DB は仲裁や裁判規定と相反するものではないことが説明された。また、現状のクレーム処理や紛争解決プロセスにおいて、上位機関（ハノイ人民委員会）の介入があることから、DB の導入も MPMU 独自の判断では決めることが難しいとのコメントがあった。

2) 計画投資省 (MPI)

面談には Dong 副大臣も出席された。副大臣は 2009 年 5 月にホーチミンで開催された DBF (Dispute Board Foundation)主催の DB セミナーにも参加しており、DB について造詣があり、DB は発注者にとっても大きな便益をもたらす制度であることを確信している、とのコメントが得られた。今後のステップとして、パイロットプロジェクトを立ち上げ、DB のプロセスを経験し、その効果を実証することが提案された。また、adjudicator の数が少ない現状において、透明性の高い選定プロセスは DB の普及のために必須条件であることがコメントされた。adjudicator の育成については MPI の PPA (Public Procurement Agent)および CPS (Center for Procurement Support)が中心的な役割を果たせると考える、との発言があった。

3) 建設省 (MOC)

DB 導入における発注者の便益について質問があり、調査団より、工事の完成以前に紛争を解決することにより仲裁等の高額な係争費用を、高い確率で回避できることが最大の便益である、ことが解説された。さらに、紛争の予防機能も発注者にとって大きな便益となることが解説された。DB の費用については割高感が強く、大規模なプロジェクトで試行を行い、DB の有効性を実証することが必要であると思われる、との意見が得られた。

2.4.3 インドネシア

1) 国有電力公社 (PT PLN)

PLN では DB を導入し建設を実施したプロジェクトはない。従って、DB については未だあまりよく理解されていない状況にある。しかしながら、PLN は新規の円借款案件において JICA Sample Bidding Documents 2009 年改訂版を積極的に採用する意向であり、現在入札段階である、プサンガン水力発電計画では、JICA Sample Bidding Document (2009 年版) を採用し DB も導入されている。DB 費用の負担が懸案事項としてあるので、JICA からの財政支援が受けられるようなパイロットプロジェクトについては大変関心があるとの発言があった。

2.4.4 スリランカ

1) RDA (Road Development Authority)

Southern Transport Development Project では、4 つの工事パッケージがあり、FIDIC Red Book 1987 年版に DB を導入したものを使用している。DB は 3 人制であり、全てスリランカ人のアジュディケーターを雇用している。2 つのパッケージについては日本のコントラクターと契約している。この内、1 つのパッケージは DAB's decision がでたものの、合意されず現在仲裁 (ICC ルール) で係争中である。DB の裁定内容を発注者は実行していない。また、他のパッケージは 5~6 件のクレームに対し発注者・コントラクターそれぞれに有利・不利の裁定が出ているが、どれも発注者が受け入れていない。この場合も発注者に不利なもの (コントラクターへの費用の支払いを求めるもの) を実行せず、不服表明をした上で再交渉をしようとしている。

このような契約運用に対して、調査団から DB's decision は仲裁などの後続のステップで変更されない限り契約当事者を拘束し、契約当事者は DB's decision を遵守する義務があることを調査団から伝えた。

スリランカ人のアジュディケーターの報酬日額は 300~500 米ドルであるが、国家公務員の給与レベルに比べても高いと感じているとの意見が聞かれた。

また、これまでの経験から、アジュディケーターは紛争が発生してから行動を始めるケースが多く、紛争の予防機能が十分に果たされていないと感ずる、との意見が聞かれた。

2) Department of External Resources (DER), Ministry of Finance and Planning

DER は円借款案件のローン手続きや調達の段階に関わっており、DAB の運用に直接的に関わる立場にはない。DB のシステム自体は良いものと考えているが、その費用を正当化するには、過去の事例から DB がない場合とある場合のコスト・シミュレーションを行い、DAB が発注者にとって優位なものであることを確認する必要があると感ずる、との意見が聞かれた。

3) Ceylon Electricity Board (CEB)

CEB が関与する案件では、現時点で深刻な建設紛争は発生していないとの見解であった。DAB についてはそのコンセプトは良く理解できるが、CEB 案件でこれまでに DB を導入した

経験はなく。DB を導入する場合は、当面は ad-hoc DB で良いのではないかと意見が聞かれた。また、スリランカ人のアジュディケーターは未だ十分な経験を積んでいないのではないかと懸念する声が聞かれた。

4) National Water Supply & Drainage Board (NWSDB)

現在施工段階にある Secondary Town & Rural Community Based Water Supply and Sanitation Project (ADB 融資) は 16 のコントラクトパッケージからなるが、契約書は MDB 版を使用しており、3 人制 ad-hoc DB が導入されている。アジュディケーターは全てスリランカ人である。Engineer は発注者側の要員が務めている。これまで 1 件の紛争が DB に付託され、物価変動に関わるクレームであったが、最終的には仲裁に行った、という事例が聴取された。

DB のコンセプトは理解するが、問題は standing か ad-hoc か、の選択である。NWSDB のプロジェクトは小規模のものが多く、standing DB の採用には躊躇するところがある、との意見が聞かれた。

2.5 アンケート調査

2.5.1 概要

カンボジア、ベトナム、バングラデシュ、スリランカで開催した DAB セミナーにおいて、参加者に対して添付-2.5 のアンケート用紙を配布し、以下の 3 項目について調査を行った。

- 1) セミナーの評価
- 2) DB 導入についての意見
- 3) クレームの種類と処理経験

参加者総数 392 名の 56%にあたる 219 名から回答を得た。国別の回答者内訳は以下の通りである。

表 2.4 アンケート調査の回答

	国 名	回答者数 (回答率)	回答数の内訳			
			政府	コントラクター	コンサルタント	その他
1)	カンボジア	44 名(60%)	74%	5%	16%	5%
2)	ベトナム	52 名(33%)	71%	4%	8%	17%
3)	バングラデシュ	44 名(83%)	98%	-	2%	-
4)	スリランカ	79 名(75%)	55%	18%	15%	12%
	合計	219 名(57%)	72%	8%	11%	9%

2.5.2 アンケート調査の結果（カンボジア）

1) 回答者内訳

アンケートに回答した者の内訳は、政府/政府機関が 33 人と回答者全体の 75%を占めた。コントラクター、その他はそれぞれ 2 人（5%）、コンサルタントは 7 人（15%）であった。「その他」の回答率が低かった事以外は、所属団体による回答率の差はそれほどなかった。なお、「その他」は JICA 職員（日本人を含む）であるため回答が得られなかったものである。

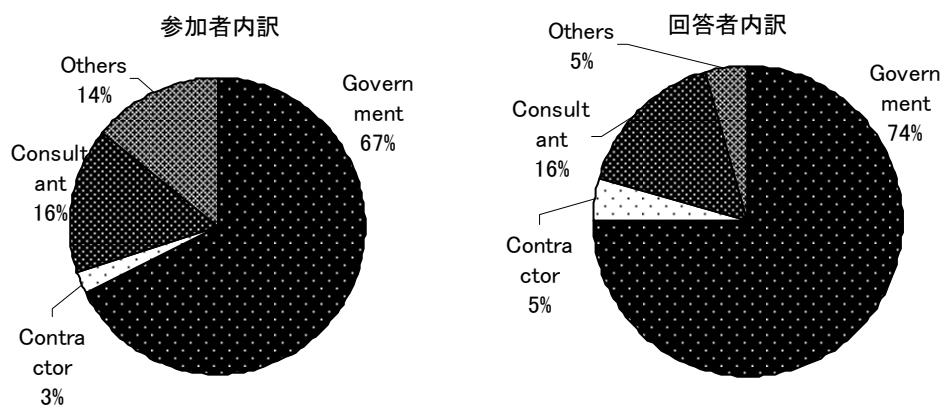


図 2.1 セミナー参加者とアンケート回答者の内訳

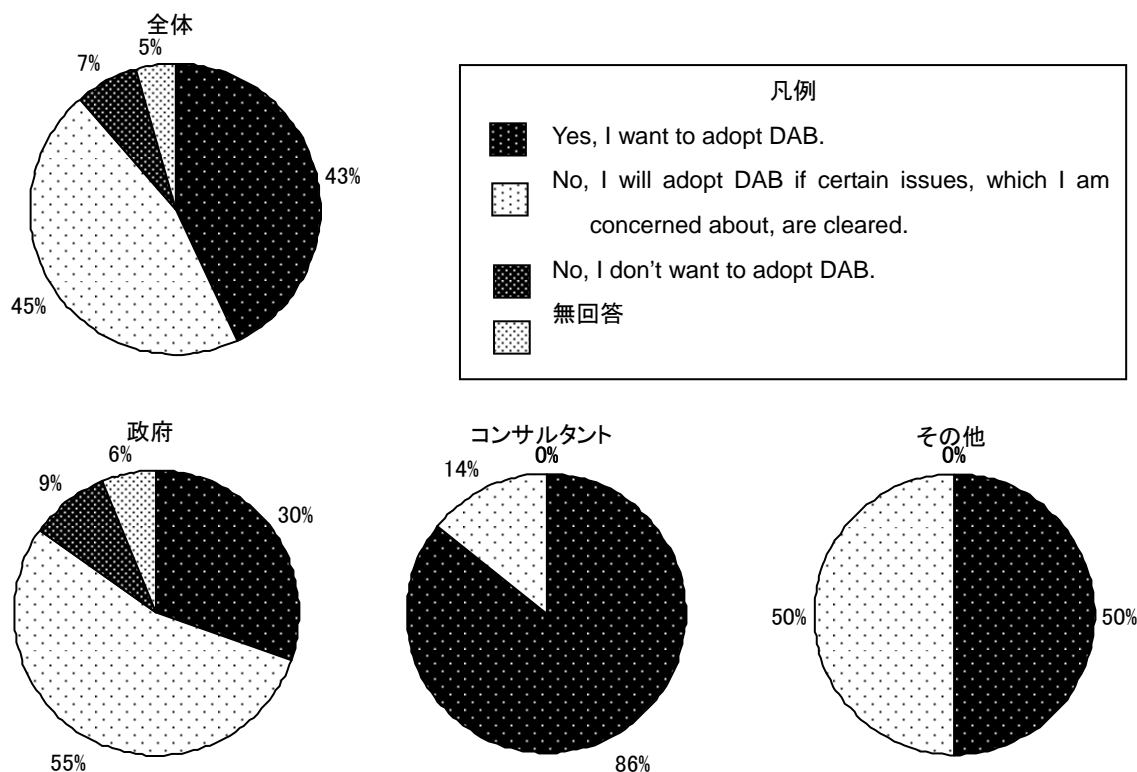
2) セミナーの印象

セミナーの印象として、「興味深い (interesting)」「役に立つ (useful)」「わかりやすい (clear and easy to understand)」という項目についてそれぞれ 5 段階 (Extremely, Very much, fair, Not very much, Not at all) で評価をしてもらった。「Extremely」を 5 点とし、「not at all」を 1 点として回答を点数に読み替え、平均を取ると「興味深い」が 3.93 点、「役に立つ」が 3.90 点、「わかりやすい」が 3.64 点となり、DB に対する関心の高さが伺われた一方、やや難しいと感じた者が多かったと考えられる。セミナーは、アンケート等の資料も含めて全て英語で行われたが、同じ内容でベトナムで行ったセミナー（ベトナム語通訳を配置した）では、各項目の点数がさほど変わらなかったことから、大きな要因は、英語の理解が難しかったことではないかと考えられる。自由回答において言語の問題の指摘や通訳を希望する意見はなかったが、英語が苦手な者はアンケートに回答しなかったという事も考えられるので、この点については今後の課題と言える。

3) DB の導入

DB の導入に対しては、「導入したい」が半数近くを占め、「懸案事項が解決されれば導入しても良い」と合わせると 9 割近くが肯定的な回答を示した。内訳を見ると、政府関係者では「導入したい」が 33 名中 10 名（30%）、「懸案事項が解決されれば導入してもよい」が 18 名（55%）、「導入したくない」が 3 名（9%）と、コンサルタントやコントラクターと比べてやや導入に否定的な傾向が見られた。コントラクターは、2 名中 2 名とも「導入したい」と回答、

コンサルタント、その他でも、全員が「導入したい」または「懸案事項が解決されれば導入したい」と回答し、導入に対して前向きな姿勢が見られる。なお、「コントラクター」と「その他」の回答は、母数がそれぞれ2名と少ないため、必ずしも全体を代表しているとは言えない点に注意が必要である。これは、以後の回答においてもあてはまる。



※コントラクターは回答者2名中2名とも“Yes”であったためグラフを省略する。

図 2.2 DAB を導入したいか

DB の導入に際して懸案となる事項、DB を導入したくない理由としては、コストや適切なアジュディケーターの確保が困難であるという回答が多かった。DB を導入したい理由として最も多かったのは、「プロジェクトにおいて紛争の発生する可能性が高い」であり、クレームやそれが紛争に発展するリスクについてはかなりの認識があると考えられる。実際、自由回答で DB に対しては否定的であるが、紛争解決の仕組みの必要性は感じているといった意見も見られた。紛争の発生の可能性という回答は、特にコンサルタントにおいて多く見られた。

また、紛争の発生の可能性に次いで多かった理由が「自国においてうまく機能すると思う」であり、コントラクターは2名中2名ともこの理由を挙げた（但し母数が少ない事に留意する必要がある）。

以上のように、コストや適切なアジュディケーターの確保といった問題はあるにしても、カンボジアにおいては DB を受け入れる素地は比較的整っていると考えられる。

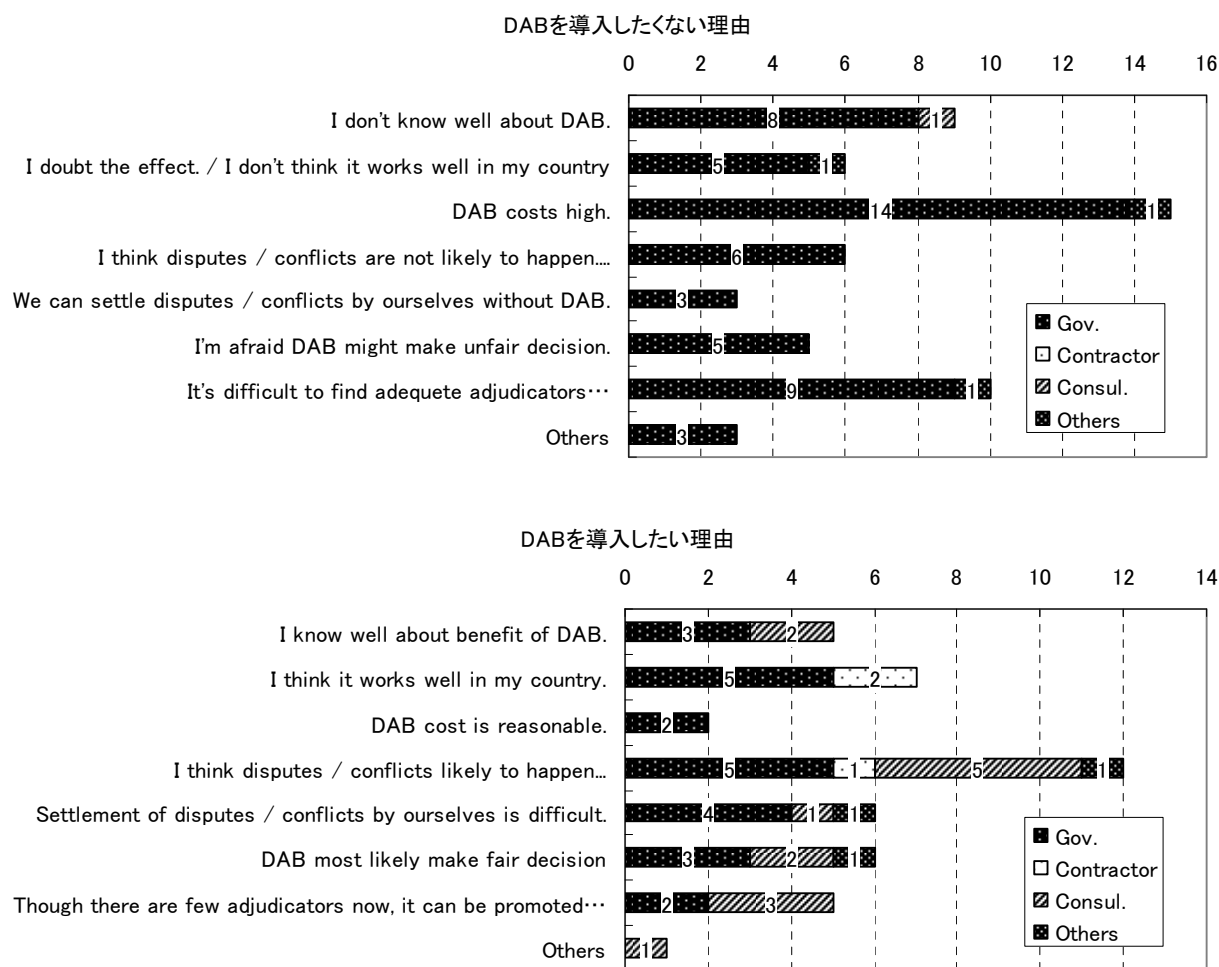
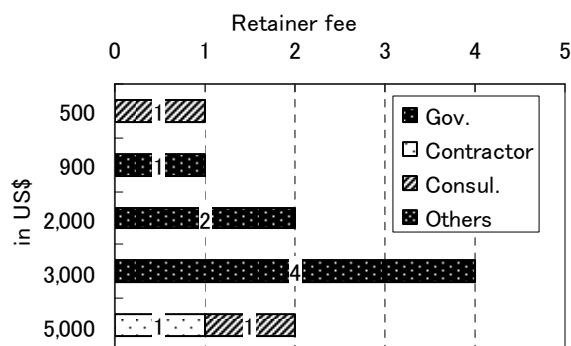


図 2.3 DABを導入したい/したくない理由

DB に対する報酬として適切と考える額は、回答の数が少なくばらつきが大きかったので一概には言えないが、国際的な標準よりは低額という考え方が多いようである。また、DB のコストを政府が負担するのは難しく、ODA 資金で負担して欲しいという意見も見られた。



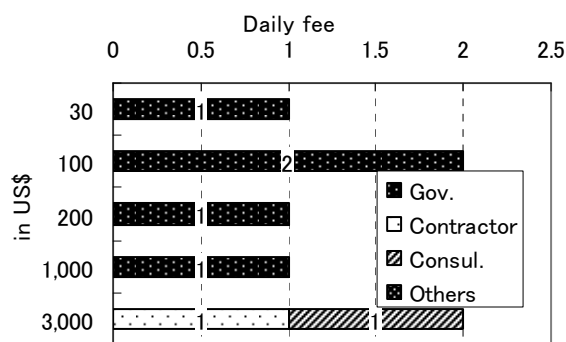


図 2.4 DAB に対する報酬

4) クレームの作成/処理の経験

クレームの作成や処理の経験については、回答のなかった 5 名を除く 39 名のうち、約 4 割が経験があると回答した。特にコントラクター、コンサルタント、その他で経験があるという回答が多かった。

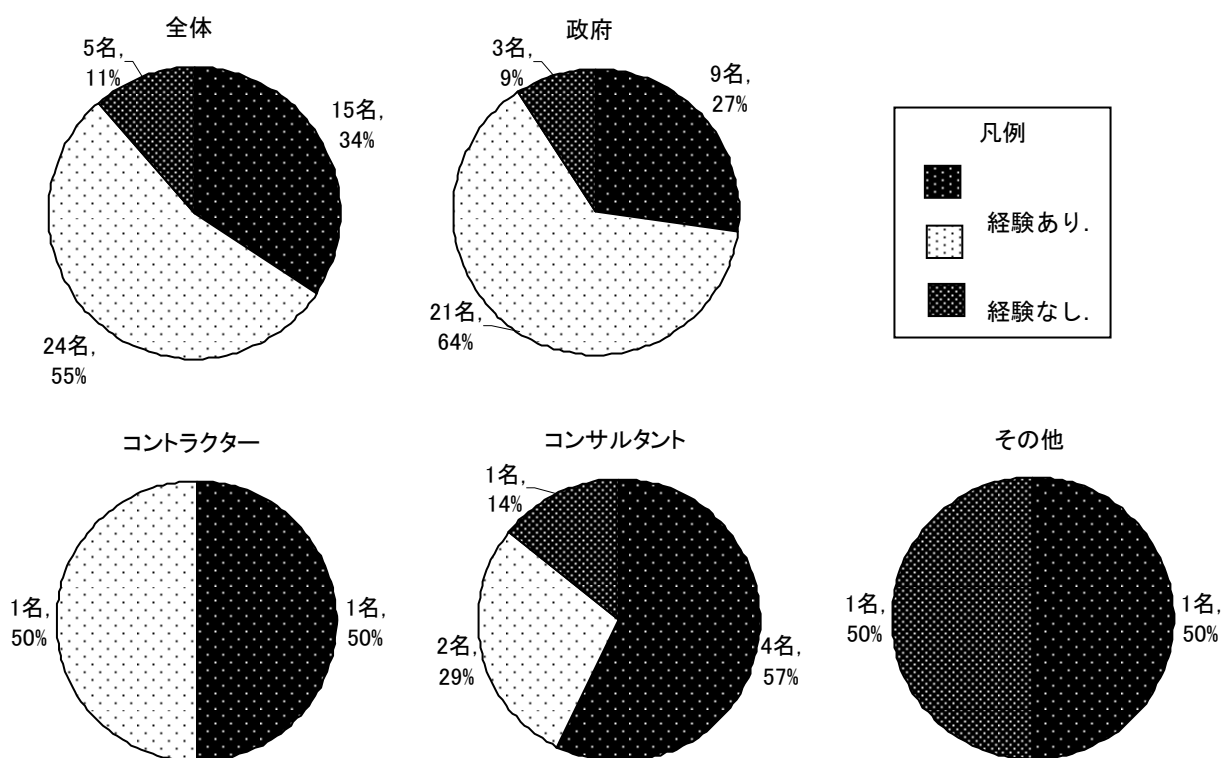


図 2.5 クレーム作成/処理の経験

クレームの種類としては、Variation が最も多く、次いで Price escalation、Unforeseeable physical

condition と続いた。解決方法は、半数以上が「相互交渉」であったが、Engineer's Decision も 3 割程度を占め、DB や仲裁、裁判という回答もわずかではあるが見られた。但し、DB はカンボジアでは例がないと聞いており、これについては問題文の意図が十分に伝わらず、誤って回答した可能性がある。なお、このような誤回答は他にも混じっている可能性があるが、全体の傾向に与える影響は十分に小さいと考えられる。

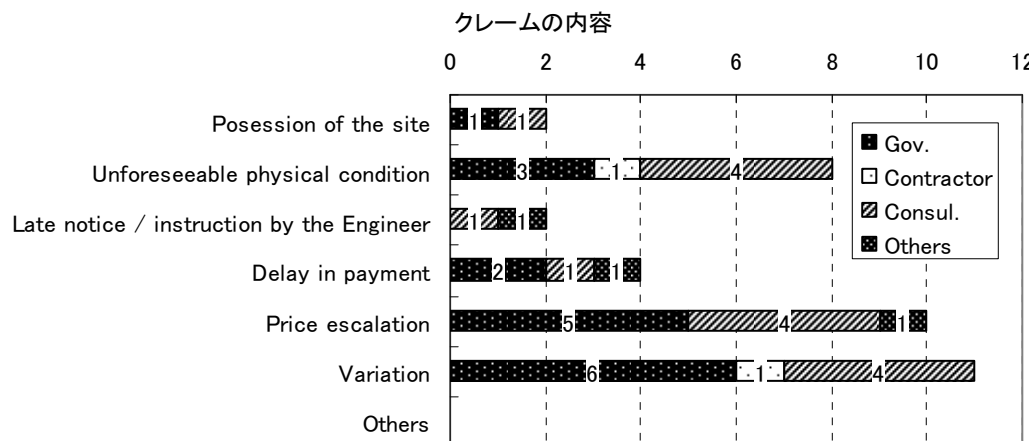


図 2.6 クレームの内容

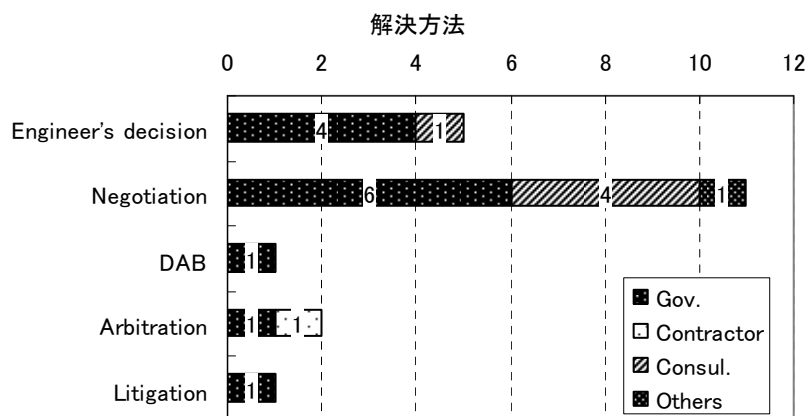


図 2.7 クレームの解決方法

クレーム処理において感じる困難としては、コストおよび時間、技術的な問題を挙げる者が多かった。

5) その他/自由回答

DB の普及に対して JICA に求める支援策としては、金銭的な支援、ローカルアジュディケーターの育成その他の支援により、低額での DB 導入を実現したいという意見が多く、「DB を導入したくない理由」でも見られた通り、コストが大きなネックとなっている事がわかる。また、「トレーニング」や技術的な支援を求める意見も多かった。「トレーニング」の内容と

しては、ローカルアジュディケーターの育成や、今回のセミナーのように DB の位置づけや効果についての理解を深めるためのもの、実際に導入するためのガイドラインのようなもの等が挙げられている。DB の導入に対して金銭面、技術面から包括的な支援が求められていると考えられる。

カンボジアにおけるアンケート調査の集計結果を添付－2.6.1 に示す。

2.5.3 アンケート調査の結果（ベトナム）

1) 回答者内訳

アンケートに回答した 52 名の内訳は、政府/政府関係機関が 38 名（73%）、コントラクター 1 名（2%）、コンサルタント 5 名（10%）、教育機関 2 名（4%）、その他 6 名（12%）であった。「その他」には JICA や民間企業が含まれると考えられるが、所属機関名の記載が政府機関（公社など）の者で「その他」にチェックしているケースが見られた。所属機関名が記載されている場合は集計の段階で修正されたが、所属機関名が無記名の者で本来「政府機関」に含まれるべき回答が「その他」に含まれている可能性は否定できないことを記しておく。

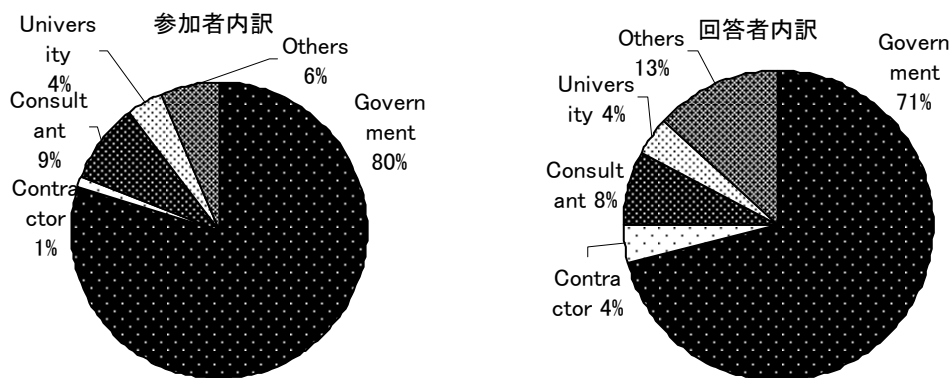


図 2.8 セミナー参加者とアンケート回答者の内訳

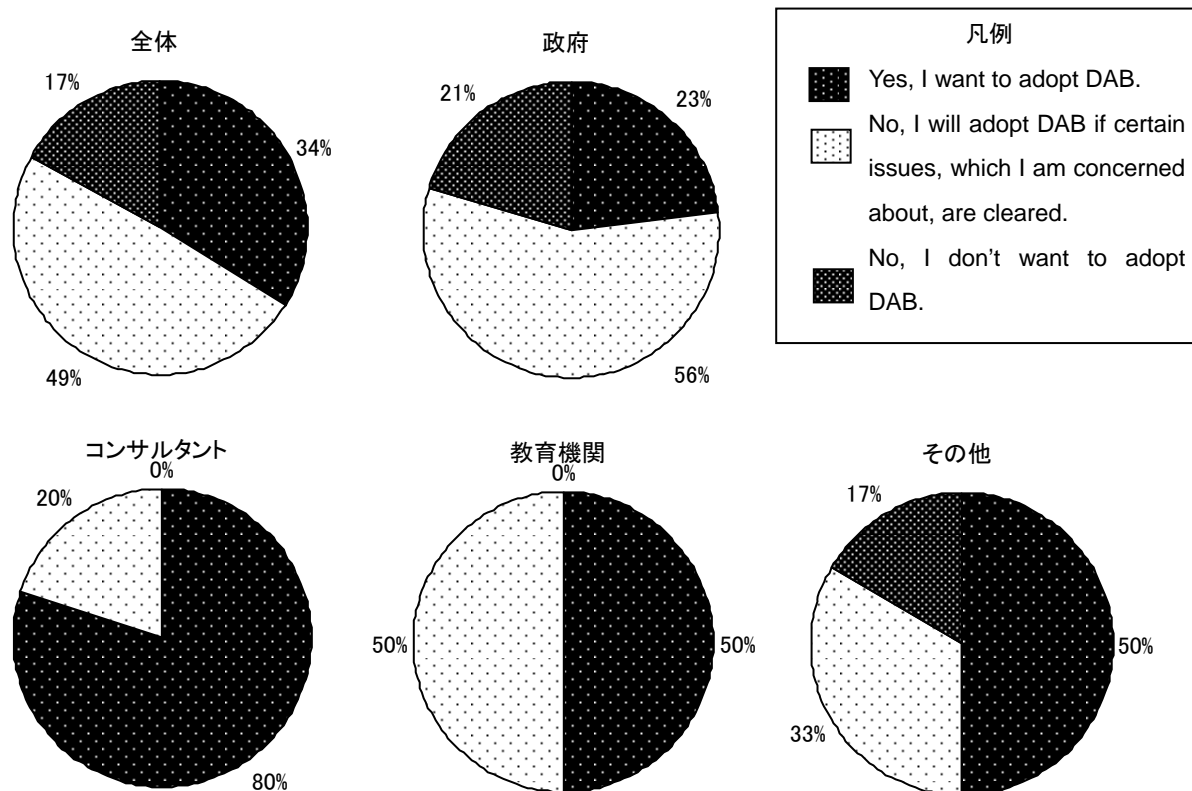
2) セミナーの印象

5 段階評価を点数に換算して平均を取ったところ、「興味深い」が 3.52 点、「役に立つ」が 3.62 点、「わかりやすい」が 3.53 点と各項目の平均ポイントに大きな差はなかった。カンボジアでは「わかりやすい」がやや低かったが、ベトナムでは現地語への翻訳・通訳を行ったため、これが参加者の理解に貢献したと考えられる。ただ、各項目ともカンボジアと比べると低く、DB に対する関心や意識はカンボジアよりも低いと考えられる。特に「興味深い」という項目

では回答のばらつきが大きく、人によって DB に対する関心に大きな差があると考えられる。

3) DAB の導入

DB の導入に対しては、「導入したい」が 34%、「懸案事項が解決されたら導入しても良い」の 49%と合わせると全体の 9 割程度が肯定的な回答であった。各回答者別の内訳を見ると、コントラクター、コンサルタント、教育機関は政府機関に比べて「導入したい」という回答が多かった。なお、コントラクターは回答者 1 名、教育機関は回答者 2 名と母数が少ないため、必ずしも全体を代表しているとは言えない点に留意が必要である。また、「その他」の中には上述の通り、政府関係機関の回答が含まれる可能性がある。



※コントラクターは回答者 1 名（“Yes”と回答）であるためグラフを省略する。

図 2.9 DAB を導入したいか

懸案事項としてはコストや適切なアジュディケーターの確保の問題の他に、「DB の効果に疑問を感じる、ベトナムでは DB がうまく機能しない」という回答が目立った。自由回答欄でも、「法的枠組みに従ったガイドラインが必要」「（法曹）関係機関との対立が生じないよう調整が必要」という意見がかなり見られ、ベトナムの法・政治制度の中で DB を運用する事に困難を感じている事が伺われる。社会主義国家という政治形態が影響しているとも考えられるが、一方で、DAB の理解を促進するためのセミナー等の開催を求める意見も多く、DB に対する理解の不足から来ている部分もあると考えられる。但し、DB を導入したくない理由として

「DB についてよく知らない」という理由を挙げる者は少なかった。

DB を導入したい理由としては、カンボジアと同様「プロジェクトにおいて紛争が生じる可能性が高い」が最も多く、「当事者間での紛争解決が難しい」「DB が最も公正な判断を下す」「DAB の効果についてよく理解している」と続いた。「自国でうまく機能すると思う」という回答は比較的少なかった。

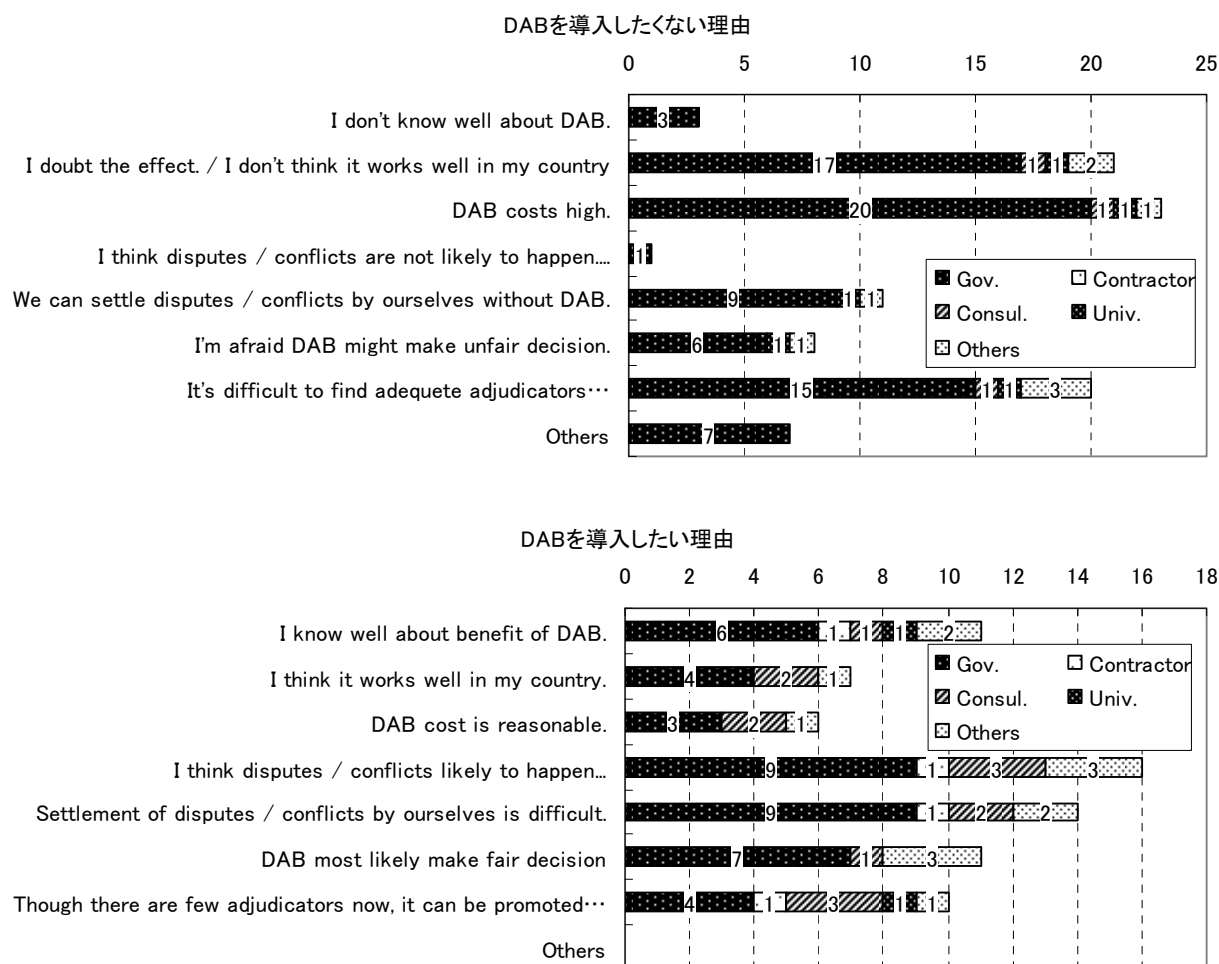


図 2.10 DAB を導入したい/したくない理由

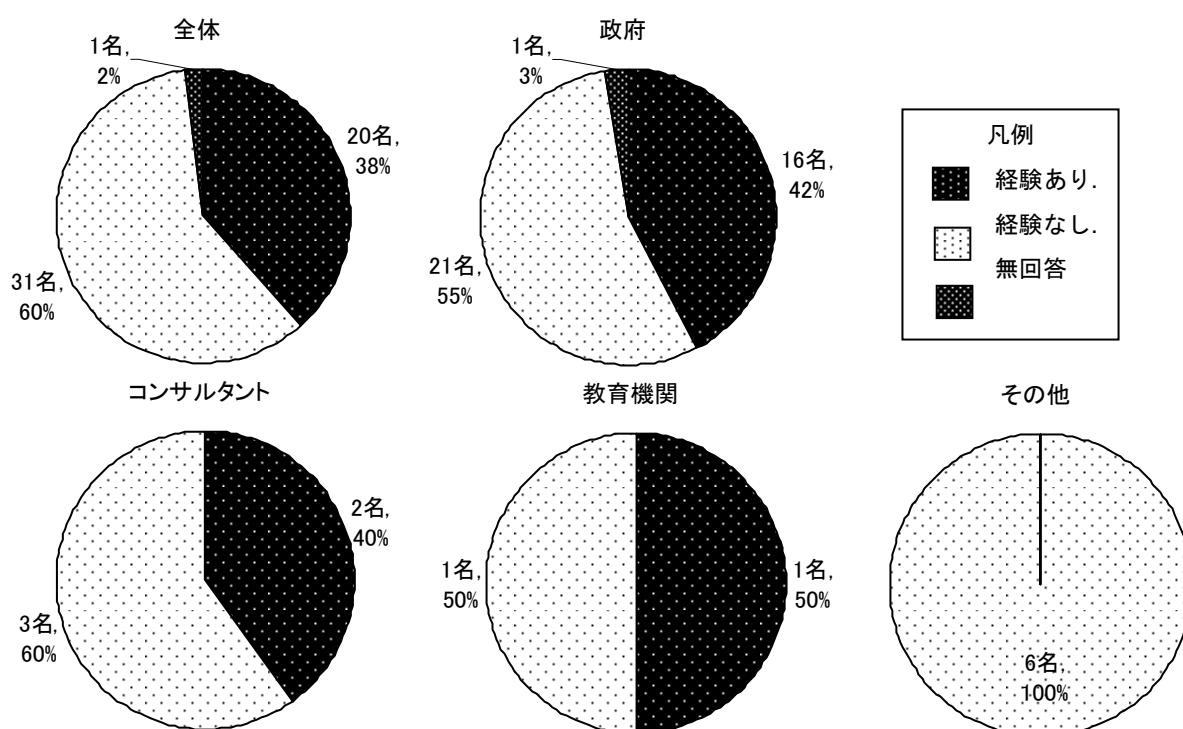
DB に対する報酬として適切と考える額は、回答の数が少ない上にばらつきが大きく、はっきりとした傾向を読み取る事はできなかったが、カンボジアよりも高額な回答が多く、国際的に標準とされる額でも受け入れられる可能性があると考えられる。数字以外の回答として、「ベトナムの規定に従うべき」という意見が複数見られたほか、「プロジェクトの規模により決定する」「関与した紛争の数に従う」といった意見も見られた。また、DB の資金は発注者が負担するのではなく Loan agreement に含めるべきという意見もあった。

Retainer fee (US\$)		(Average: 13,500 US\$)				
	Total	Gov.	Contractor	Consul.	Univ.	Others
1,000	1					1
3,000	1	1				
5,000	1	1				
10,000	1	1				
12,000	1	1				
50,000	1	1				
Daily fee (US\$)		(Average: 1,350 US\$)				
	Total	Gov.	Contractor	Consul.	Univ.	Others
200	2	2				
2,500	2					2

図 2.11 DAB に対する報酬

4) クレームの作成/処理の経験

クレームの作成・処理の経験があるという回答は、カンボジアと同程度の 4 割程度であった。



※コントラクターは、回答者 1 名（経験ありと回答）であったためグラフを省略する

図 2.12 クレーム作成/処理の経験

クレームの内訳は Possession of the site が最も多く、Unforeseeable physical condition、Price

escalation と続いた。また、解決の方法は相互交渉が大多数を占めた。

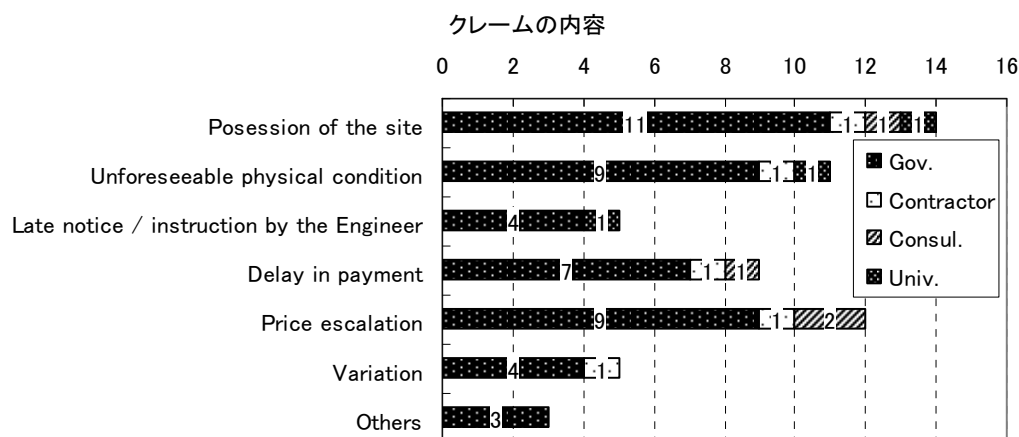


図 2.13 クレームの内容

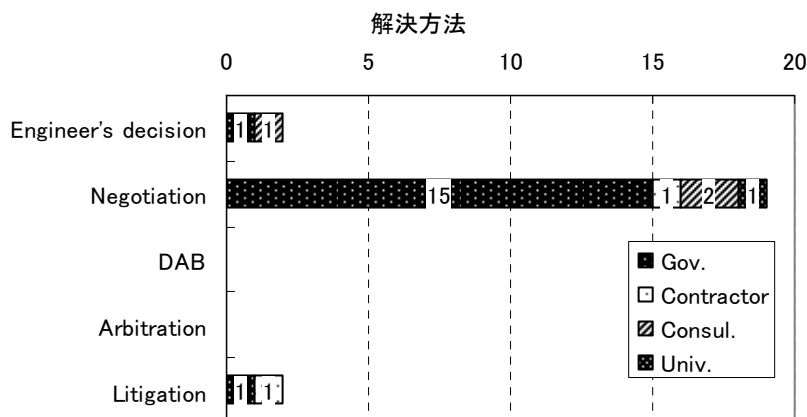


図 2.14 クレームの解決方法

クレーム処理において感じる困難としては、言葉の問題（英語やテクニカルターム等）とコストを挙げる意見が多く、他に契約書の条項が不明瞭、時間がかかる、交渉が難しい等という意見があった。少数回答として、規則（Regulation）の改訂、当事者（発注者）に決定権限がなく、上部機関からの承認を得ないといけない、など、ベトナムの政治システム上の困難を挙げる回答が見られた。

5) その他/自由回答

DB の促進に関して JICA に求める方策としては、コストの負担、DB をより深く理解するための教育機会、DB のトレーニングやプロジェクトのマネジメントに関するトレーニングの実施、ベトナムの規則に沿った DB ガイドラインの作成、関係機関との調整などのシステム上のサポート、パイロットプロジェクトの実施、という意見がそれぞれ複数見られた。特に、ベトナムのコンサルタント協会である VECAS から、「VECAS 等の機関を通じて、ベトナム人コン

サルタントの専門家の育成をサポート（教材や講師）するべき」という意見があり、JICA がアジュディケーターのトレーニングを行う際に、現地機関としての協力が得られると期待される。VECAS 等の機関を通じてベトナム人アジュディケーターを育成してほしいという意見は、政府からも出された。

ベトナムにおけるアンケート調査の集計結果を添付－2.6.2 に示す。

2.5.4 アンケート調査の結果（バングラデシュ）

1) 回答者内訳

アンケートに回答した 44 名のうち 43 名（98%）は政府/政府関係機関で、その他にはコンサルタントが 1 名（2%）であった。なお、参加者のうち「その他」は JICA の職員であったため、回答がなかったものである。

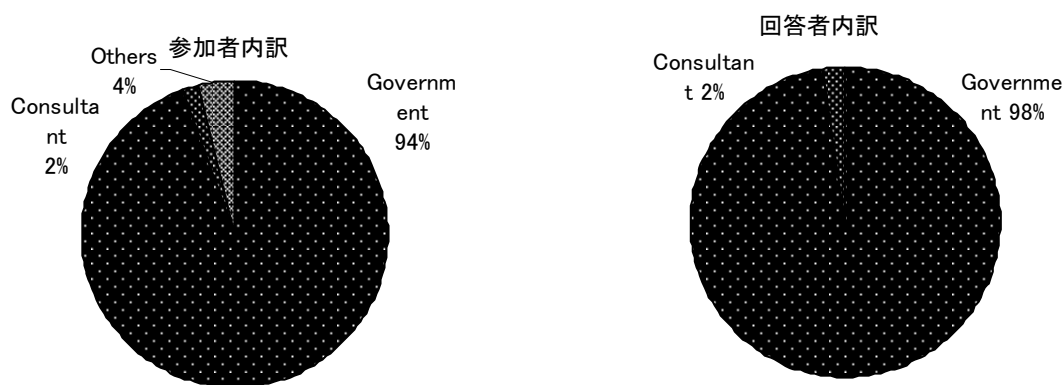


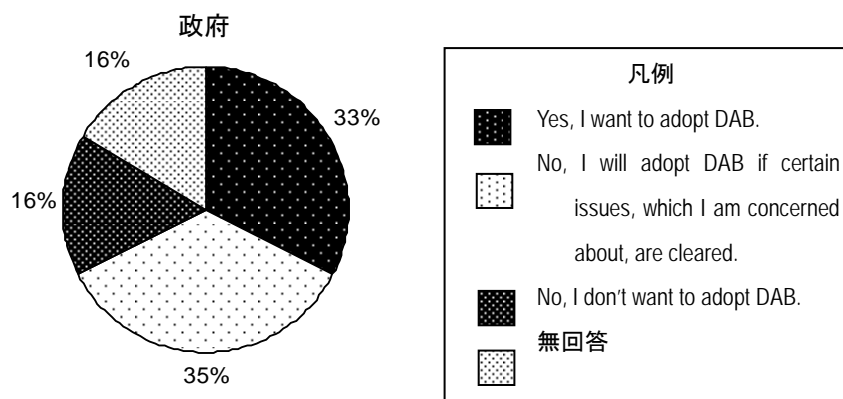
図 2.15 参加者とアンケート回答者の内訳

2) セミナーの印象

5 段階評価を点数に換算して平均を取ったところ、ところ、「興味深い」が 3.83 点、「役に立つ」が 3.74 点、「わかりやすい」が 3.69 点となり、各項目の平均ポイントに大きな差はなかったものの、「役に立つ」、「わかりやすい」が「興味深い」と比べて低い結果となった。

3) DAB の導入

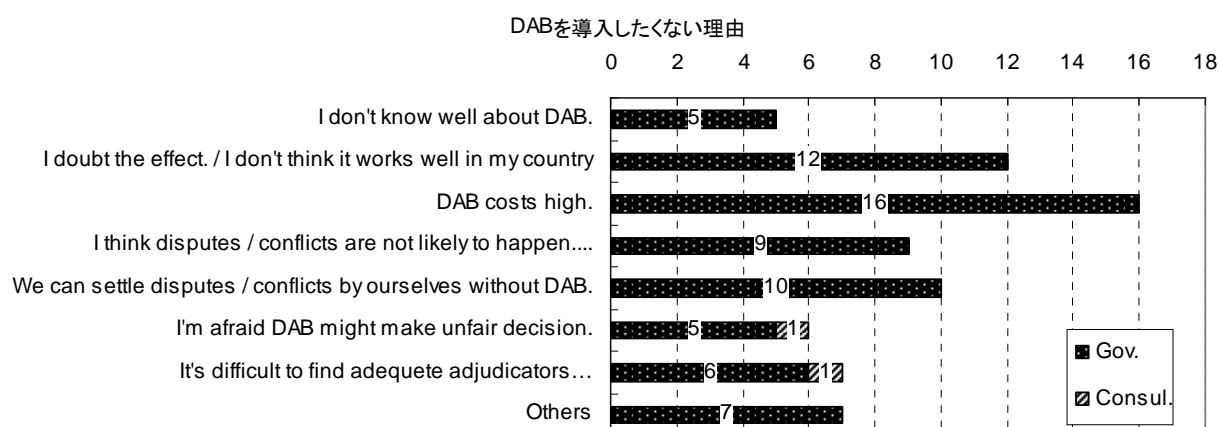
DAB の導入に対して、政府機関の者では「導入したい」が 14 名（33%）、「懸案事項が解決されたら導入しても良い」が 15 名（35%）となった。回答のなかった 7 名を除く 36 名に対する割合はそれぞれ 39%、42%で、合わせて 8 割程度が肯定的な回答であった。コンサルタント（1 名）は、「導入したくない」と回答した。



※回答者の 98% が政府/政府関係機関であるため、それ以外のグラフは省略する

図 2.16 DAB を導入したいか

DB を導入したくない理由、懸案事項（複数回答）としては、「コストがかかる」という回答が最も多く、「効果に疑問を感じる」、「DAB がなくても自分達で紛争を解決できる」、「プロジェクトにおいて紛争はあまり発生しないと思う」と続いた。「適切なアジュディケーターを確保するのが難しい」という回答は、他の国（スリランカ、カンボジア、ベトナム）と比べて少なかった。最大の理由（1 項目のみ選択）として挙げられたのは「コストがかかる」が最も多く、「DAB を導入したくない/懸案事項が解決されれば導入してもよい」と回答したものの 6 割以上がこの項目を選択した。一方で、DB を導入したい理由としては、「自国でうまく機能すると思う」と「プロジェクトにおいて紛争の発生する可能性が高い」が最も多く、導入したいと考えているものとそうでない者間で DB の効果や紛争発生の可能性についての認識が大きく異なると考えられる。



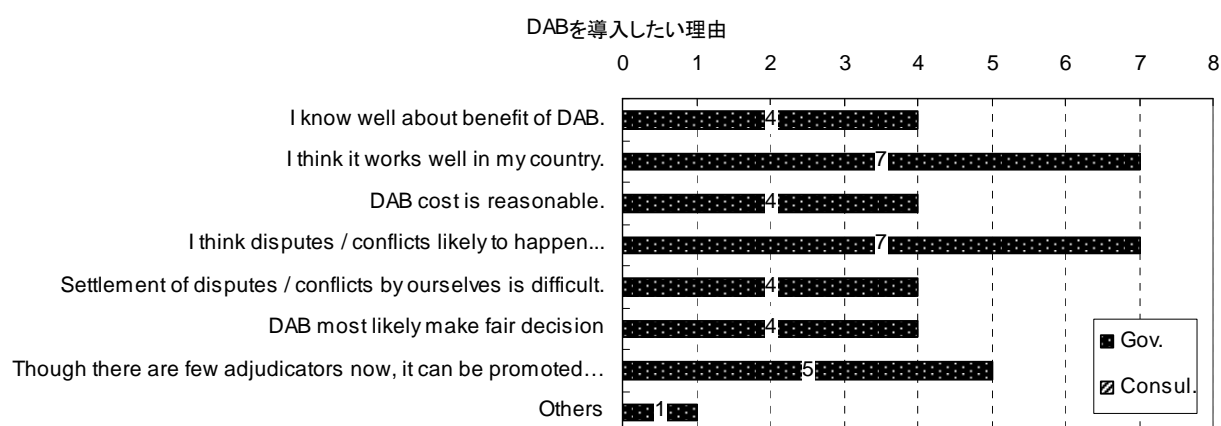


図 2.17 DAB を導入したい/したくない理由

DB に対する報酬として適切と考える額は、回答の数が少ない上にばらつきが大きく一概には言えないが、Retainer Fee は 5,000 ドル以下の回答と 30,000 以上の回答との 2 つに大きく分かれた。また、Daily Fee は、5,000 ドル以下の回答が多く、半数以上が 1,000 ドル以下の金額を示した。

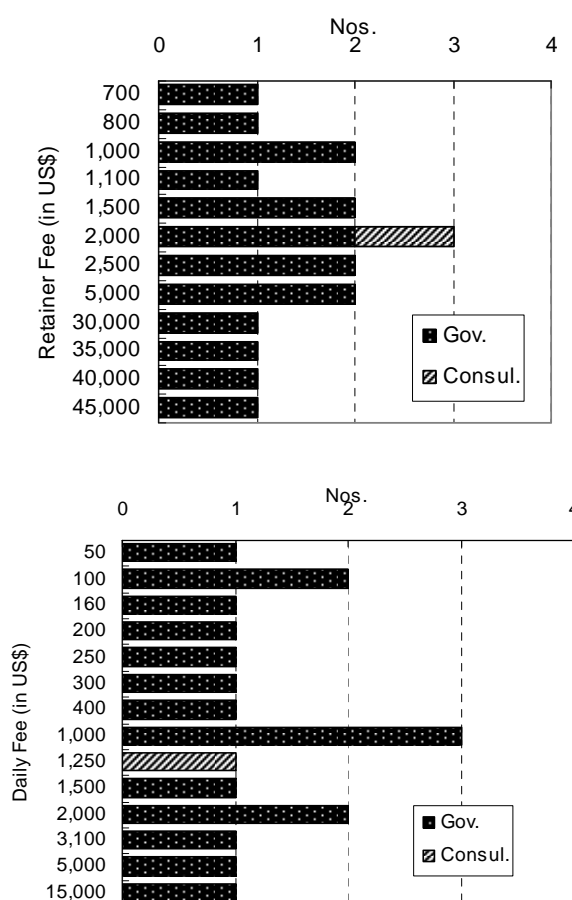
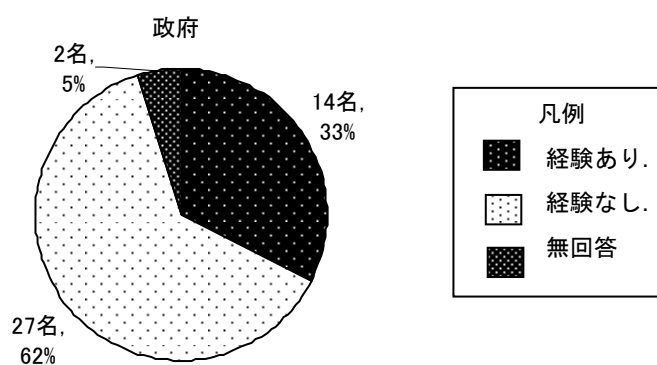


図 2.18 DAB に対する報酬

4) クレームの作成/処理の経験

政府機関の者では、回答のなかった 2 名を除く 41 名のうちの 14 名（約 34%）がクレーム処理の経験があると回答した。コンサルタント 1 名は、クレーム処理の経験があると回答した。



※回答者の 98% が政府/政府機関であるため、それ以外のグラフは省略する。

図 2.19 クレーム作成/処理の経験

クレームの内訳は Price escalation が最も多く、次に多かったのは Variation であった。クレームの解決方法として最も多かったのは「相互交渉」であるが、その割合は他の国と比べて低く、クレーム処理の経験があると回答した者の半数に満たなかった。反面、Engineer's Decision、仲裁、裁判という回答が比較的多かった。

クレーム処理において感じる困難としては、時間、費用、交渉、契約の理解、文書の不足などが挙げられた。

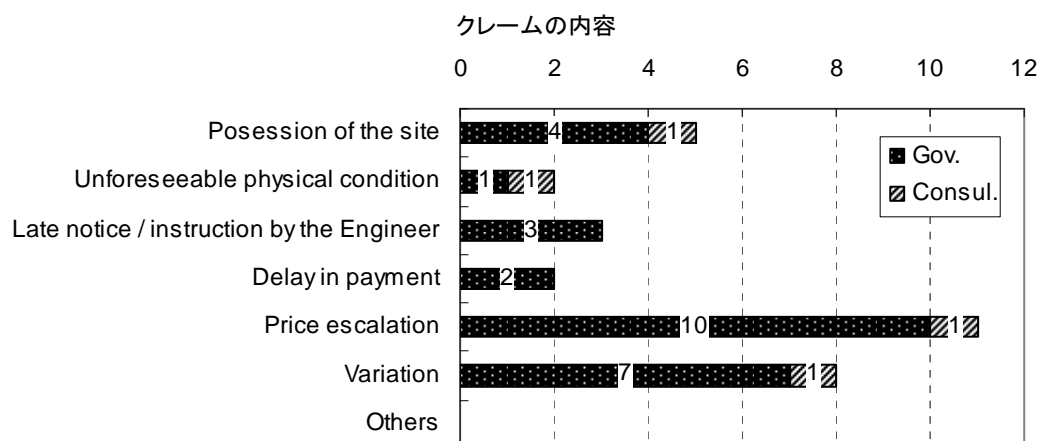


図 2.2011 クレームの内容

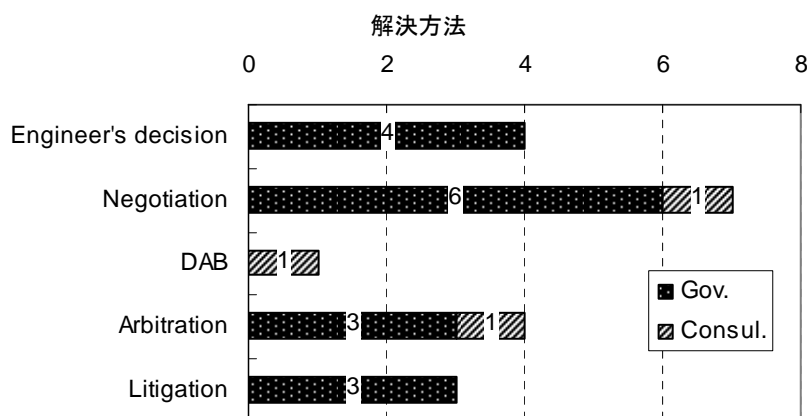


図 2.21 クレームの解決方法

5) その他/自由回答

DAB の普及に対して JICA に求める方策としては、セミナーの開催を挙げる者が多く、そのほとんどが発注者やコントラクター向けの理解促進セミナーで、アジュディケーターの育成を求める意見は少なかった。また、DB の報酬を ODA で負担する事や、DB の報酬をもっと安くするといった金銭的な支援を求める意見も多かった。この他に、契約や JICA の調達手続きなどに DB を含める、ルールやガイドラインを整備する、などという意見がそれぞれ複数見られたほか、パイロットプロジェクトの実施、アジュディケーターリストの整備という意見もあった。

バングラデシュにおけるアンケート調査の集計結果を添付-2.6.3 に示す。

2.5.5 アンケート調査の結果（スリランカ）

1) 回答者内訳

アンケートに回答した者の内訳は、政府/政府機関（公社など）が 43 人と回答者全体の 55% を占めた。その他は、コントラクター14 人（18%）、コンサルタント 12 人（15%）、教育機関 1 人（1%）、その他 9 人（11%）であった。「その他」の多くは ADB や WB などのドナー機関であった。所属機関による回答率の差はあまりなく、どの機関からも平均して回答が得られた。

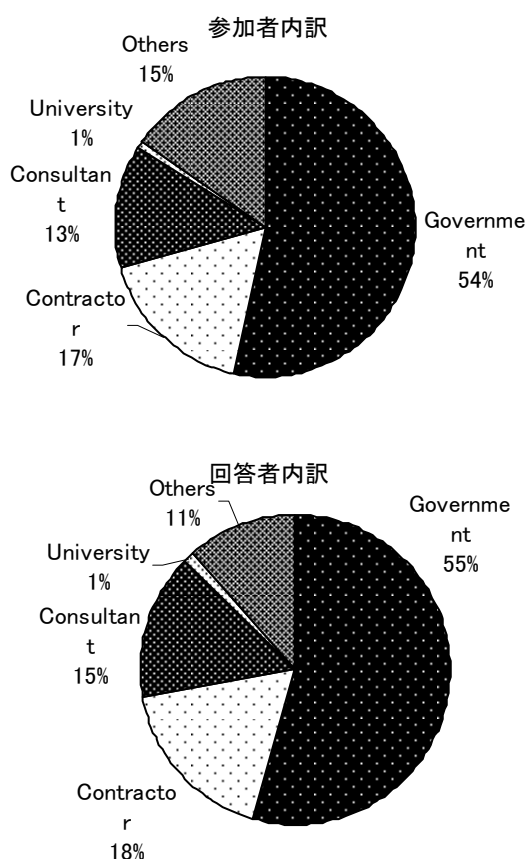


図 12.22 セミナー参加者とアンケート回答者の内訳

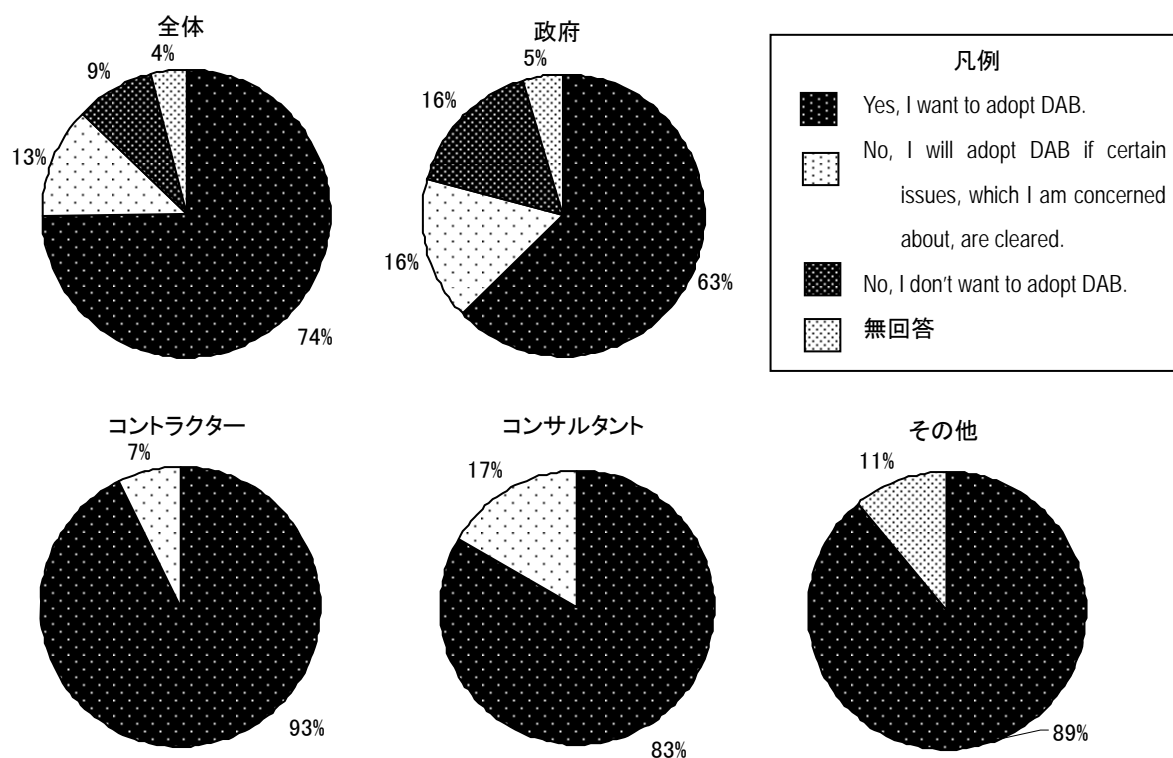
2) セミナーの印象

5 段階評価を点数に換算して平均を取ったところ、「興味深い」が 3.91 点、「役に立つ」が 3.99 点、「わかりやすい」が 4.04 点と、いずれも高い点数となり、DB に対する関心の高さが伺われた。特に「役に立つ」と「わかりやすい」のポイントが高く、参加者の期待に十分に答えるような内容だったのではないかとと思われる。

3) DAB の導入

DB の導入に対しては、「導入したい」が全体の約 3/4 を占め、「懸案事項が解決されれば導入しても良い」と合わせると 9 割近くが肯定的な回答を示した。「導入したくない」という

回答は政府機関で 43 名中 7 名（16%）見られたが、それ以外のコントラクター、コンサルタント、教育機関、その他（ドナーなど）ではゼロだった。政府機関では、それ以外と比べて「導入したい」という回答の割合は少なかったが、それでも 6 割以上の者が「導入したい」と回答した。スリランカでは既に DB がある程度普及しており、関係者の理解や認識が比較的深いことや、現在導入されている DB に対しても肯定的な印象があり、それらが回答に反映されているのではないかと考えられる。



※教育機関は回答者 1 名（“Yes”と回答）であったためグラフを省略する。

図 2.23 DAB を導入したいか

DAB を導入したい理由（複数選択）としては、「プロジェクトにおいて紛争の発生する可能性が高い」が最も多く、「DB が最も公正な判断を下す」、「DB の効果についてよく知っている」と続いた。また、「その他」の回答の中にも「the Engineer は発注者寄りである」と、DB の公正性を挙げるものが 2 票（いずれもコントラクター）あった。さらに、最大の理由（1 項目のみ選択）として選ばれたのは「DB が最も公正な判断を下す（14 票/“Yes”と回答した者の 24%）」と「プロジェクトにおいて紛争の発生する可能性が高い（12 票/同 20%）」の 2 つが特に多く、この 2 つが DB 導入の大きな動機になっていると言える。

DB を導入したくない理由としては、「コストがかかる」が最も多く、「効果に疑問を感じる」「適切なアジュディケーターを見つけるのが困難」が続いた。「その他」という回答には、

「政治家（上位機関のことか）が DB の Decision を否認する可能性がある」「コントラクターが DB に賄賂を渡し有利な判断を出させる可能性がある」「契約にない（個人的には導入しても良いと思う）」「契約が全て（DB なしで）完了している」「プロジェクトの規模が小さい」などがあつた。スリランカでは、ローカルの人材がアジュディケーターとしてかなり活用されているが、質、数ともにまだ十分とは言えないのではないかとと思われる。

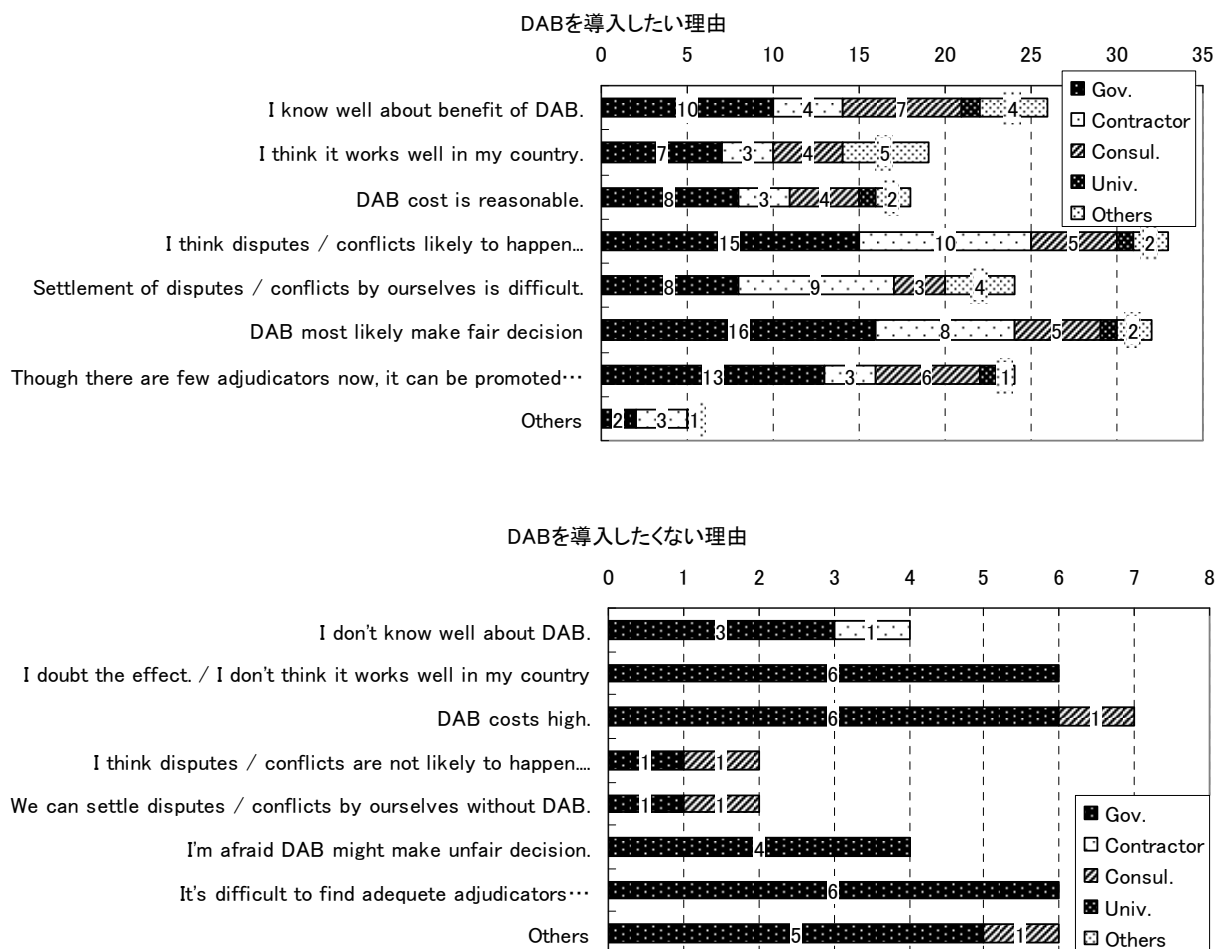


図 2.24 DAB を導入したい/したくない理由

DB に対する報酬として適切と考える額は、Retainer Fee としては 2,000 ドル以下、Daily Fee としては 1,000 ドル以下の回答が多く、国際的に標準とされる額よりやや低額の回答が多かった。全体の平均は、Retainer Fee が 2,168 ドル、Daily Fee は 491 ドルであった。

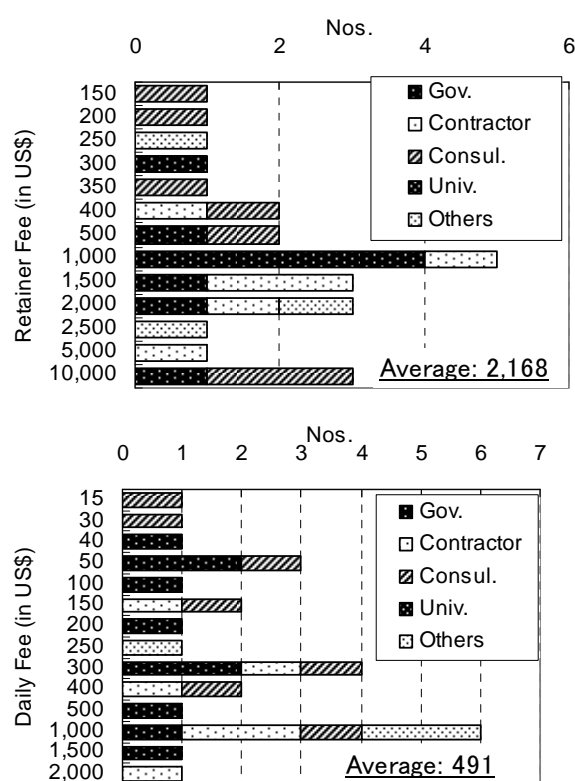


図 2.25 DAB に対する報酬

4) クレームの作成/処理の経験

クレームの作成や処理の経験については、回答のなかった 6 名を除く 73 名のうち、約 6 割が経験があると回答した。回答した者の所属による違いはそれほど大きくなく、どの機関でも概ね同程度クレームに直面した機会があるようである。なお、「その他」に含まれるドナー機関は、直接クレームに対応したわけではない（融資プロジェクトにおけるクレームと考えられる）との注釈があった。

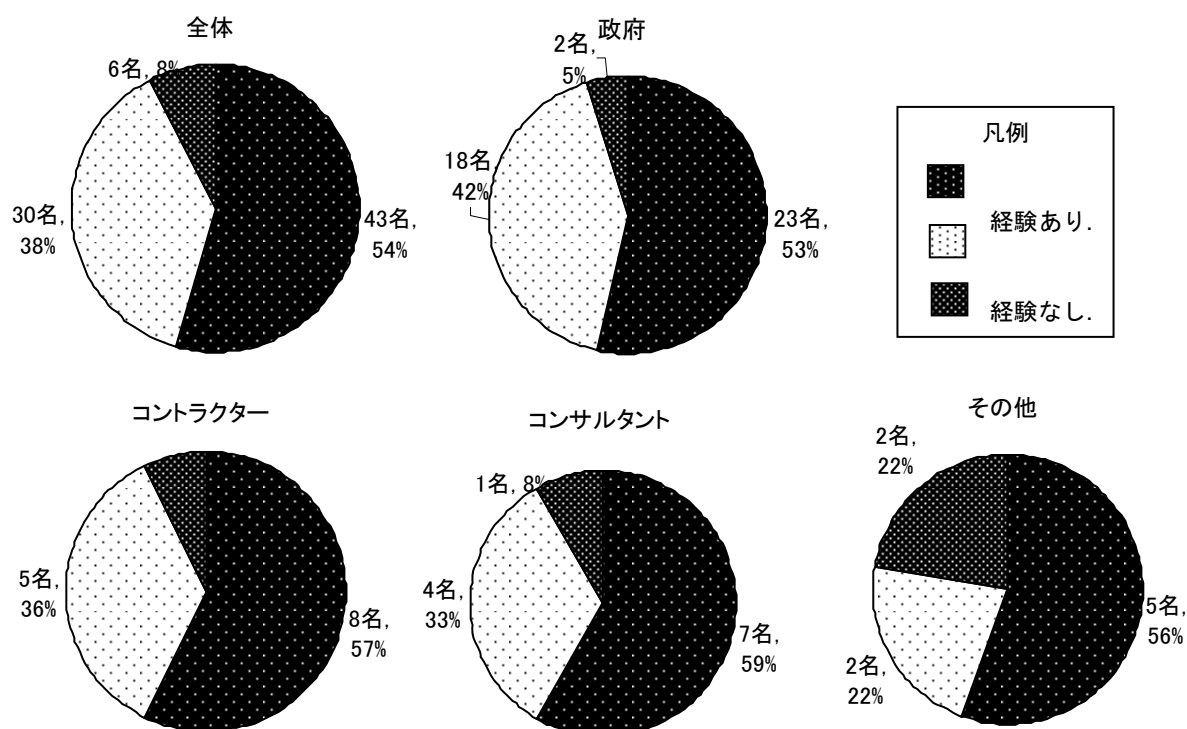


図 2.26 クレーム作成/処理の経験

クレームの種類としては、Variation と Unforeseeable physical condition の2つが特に多かった。「その他」には、施工の遅れ (Suspension of work) などがあつた。解決方法は、「相互交渉」が最も多かったが、Engineer's Decision も多く、「クレームの経験あり」と回答した43名のうちの約半数が Engineer's Decision を挙げた。DB や仲裁という回答も比較的多く、「DAB の判断が出たが、発注者が不服を申し立てている」というコメントもあった。

クレーム処理において感じる困難としては、文書や記録が不十分という回答が多かった。その他には不明瞭な契約や契約の解釈の対立、技術面、交渉、時間の問題、関係者が DAB の Decision に従わないという回答がそれぞれ複数見られた。

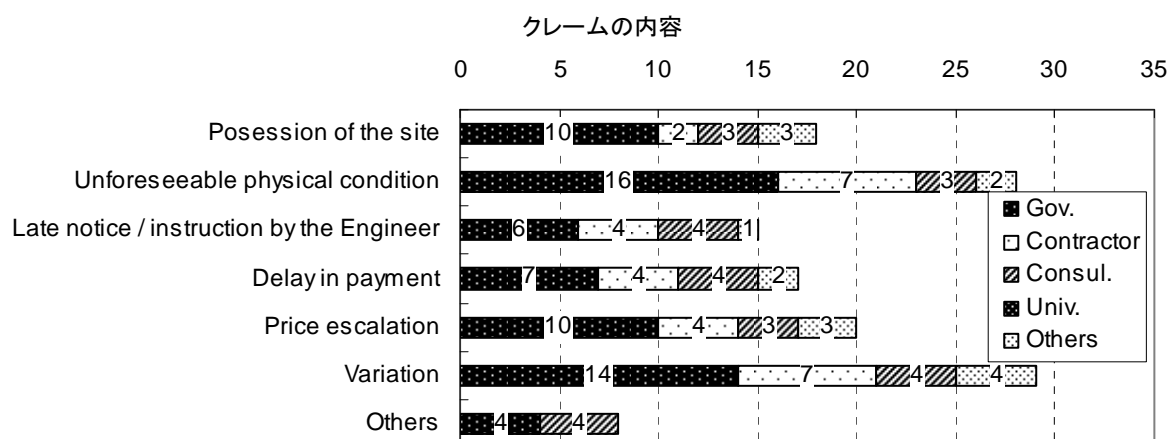


図 2.27 クレームの内容

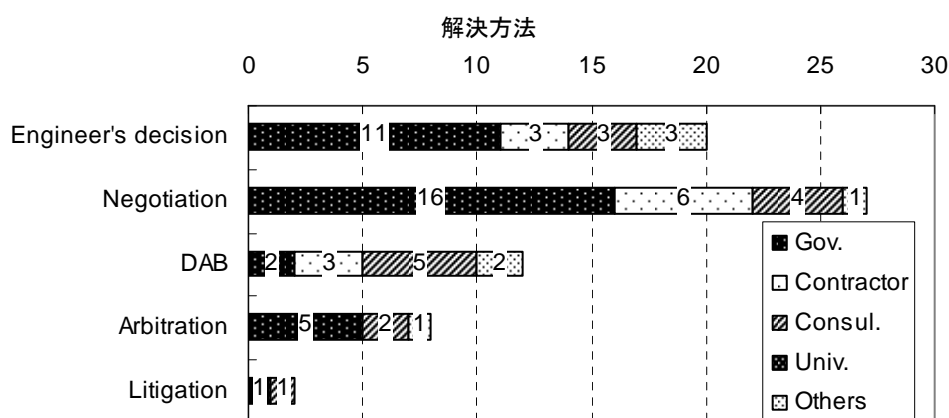


図 2.28 クレームの解決方法

5) その他/自由回答

DB の普及に関して JCIA に求める方策としては、セミナーやワークショップ等の教育機会を挙げる者が多かった。これには発注者やコントラクター等の関係機関の DB の理解の促進を目的とするもの、アジュディケーターを育成するものの両方が含まれる。スリランカでは DB はかなり普及しているが、一方で DB のプロセスについて十分な理解がなされていないために判断が実行されなかったり、ローカルのアジュディケーターの経験や能力が不足している事もあるのではないかと考えられる。また、セミナーの内容に関して、より多くの実務的な経験や事例を求める意見が複数見られた。

この他には、コスト面のサポート（DB への報酬や、より安価に DB を利用できる環境づくりなど）、JICA の調達手引きやガイドラインなどの関連文書に DAB の条項を明記する事などが挙げられた。また、アジュディケーターの育成や普及活動を目的とする機関を、ICTAD（スリランカ建設産業研修・振興研究所）を母体として設立する事を提案する意見もあった。

スリランカにおけるアンケート調査の集計結果を添付-2.6.4 に示す。

第3章 国内セミナー

3.1 DAB プロモーションセミナー

以下の項目を目的として、2010 年 2 月 18 日に東京において DAB セミナーを実施した。

- 1) DAB/DB の概要の説明
- 2) 現地調査の報告
- 3) アジュディケーター育成に関わる計画概要の説明
- 4) アンケート調査の実施

セミナーには、主として本邦のコントラクターならびにコンサルタントが参加し、その内訳は以下の通りであった。

表 3.1 DAB セミナー参加者

組織	参加者数
コントラクター	31
コンサルタント	25
法律事務所	1
建設関連協会	8
JICA	5
その他	3
計	73

セミナーのプログラムならびに配布資料を添付－3.1 と添付－3.2 に示す。

セミナーでは、参加者から活発な質問が寄せられた。質疑応答の主な内容を添付－3.3 に示す。

3.2 アンケート調査

3.2.1 概要

DAB セミナーにおいて、参加者に対して添付－3.4 のアンケート用紙を配布し、以下の 2 項目について調査を行った。

- 1) DB 導入についての意見
- 2) アジュディケーター育成に関わる意見

参加者総数 73 名の 80%にあたる 58 名から回答を得た。

3.2.2 アンケート調査結果

1) 回答者内訳

アンケートに回答した 58 人の内訳は、コントラクターが 32 人、コンサルタントが 10 人、その他 7 人であった。「その他」の内訳は、公益法人、業界団体、弁護士などであった。

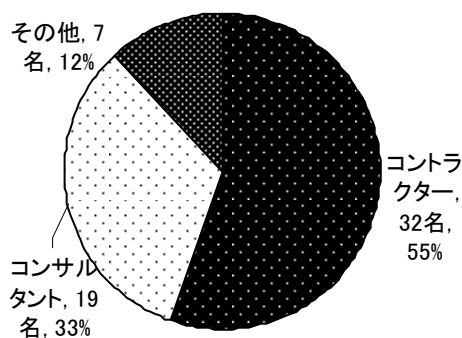


図 3.1 アンケート回答者の内訳

2) DAB の導入に対する意見

今後の JICA 融資の国際プロジェクトへの DB の導入について、原則的に導入すべきと回答した者は、回答全体の約 2/3 にあたる 38 名であった。また、ある条件を満たす案件について導入すべきであると回答したのは、回答全体の 1/3 にあたる 20 名であった。導入は歓迎しないという回答はなく、DAB の導入に対して積極的な意向が見られた。特に、「その他」では全員が「原則的に導入すべき」と回答した。

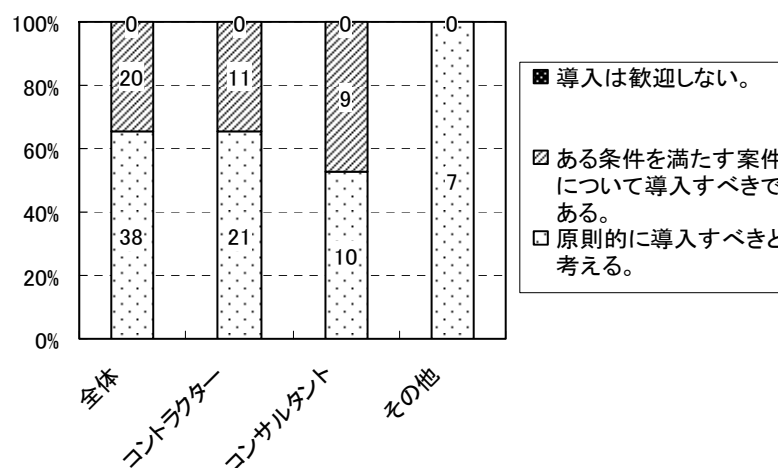


図 3.2 DAB の導入について

導入すべき理由としては、紛争の予防、効果的な解決、それにより結果的にローコストでのプロジェクト運営が可能となるという意見が多かった。このほか、契約履行やプロジェクトの実施における公平性の確保、クレーム処理に要する時間や労力の低減、エンジニアの負担の軽減といった理由が見られた。公平性の確保という理由はコントラクターに多く、現在の契約やその履行が片務的になっていると感じている者が多いのではないかと考えられる。

また、「ある条件を満たす案件について導入すべきである」と回答した者の導入の条件としては、工事金額や工事内容、発注者の費用負担の担保、当事者の合意といった意見が多かった。

3) DAB メンバーの人数

DAB の人数は、原則的に 3 人制とすべきという回答が全体の約 2/3 を占めた。理由としては中立性/公正性の担保が圧倒的に多く、他には（発注者、コントラクターの両方から 1 名ずつメンバーを選出できるため）双方の意見を反映できる、当事者が納得しやすい、法務・エンジニアの両方が必要という意見などがあつた。

1 人制にすべき条件としては、工事の金額や規模、内容によるという意見が多かった。

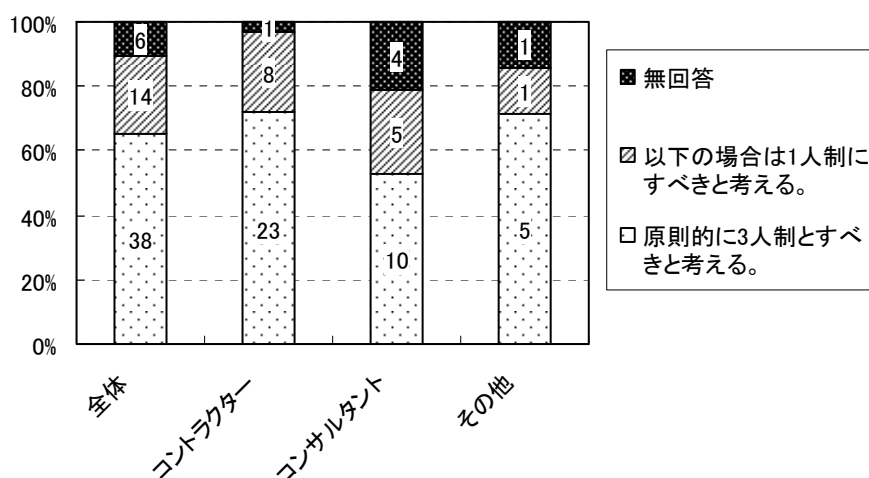


図 3.3 DAB メンバーの人数

4) アジュディケーターへの興味

アジュディケーターの業務をやってみたい、興味があると回答したのは、全体の約 6 割にあたる 33 名であった。コンサルタントでは 7 割近く、コントラクターでは 6 割以上がやってみたい、興味があると回答した。

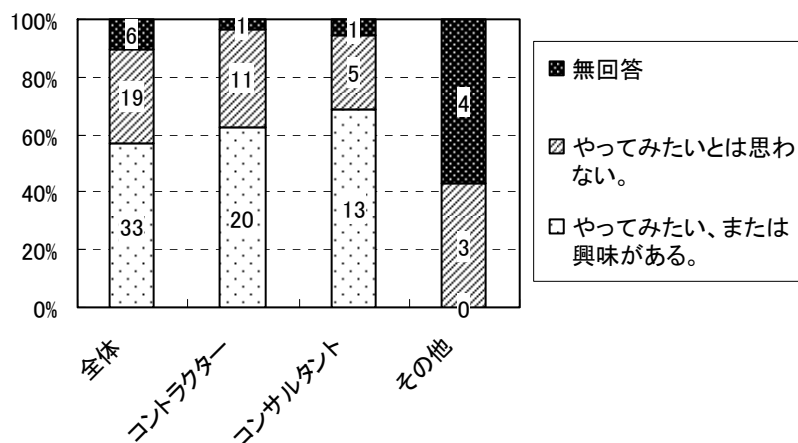


図 3.4 アジュディケーターへの興味

DB Training Course への参加については、参加したい、条件付きで参加したいという意見が全体の 6 割以上を占めた。コンサルタントですぐにでも参加したいという意見が、コントラクターでは条件付きで参加したいという意見が多かった。参加の条件としては、参加費用や時間という意見が多かった。また、アジュディケーターとなる事が目的ではなく、コントラクターやコンサルタント（エンジニア）としての業務において、DB の知識が役に立つとの見解もあった。

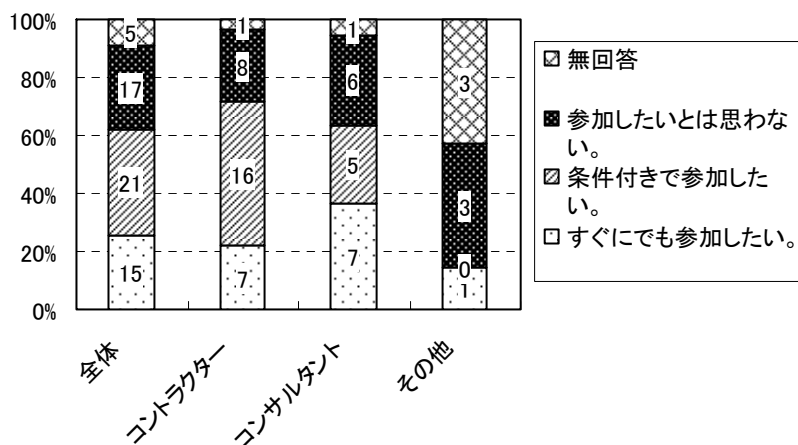


図 3.5 DAB Training Course への参加

Adjudicator's Assessment Workshop については、全体の 6 割弱が、すぐにでも参加したい、あるいは条件付きで参加したいと回答した。参加の条件として費用を挙げる者は、Training Course と比べると少なかった。

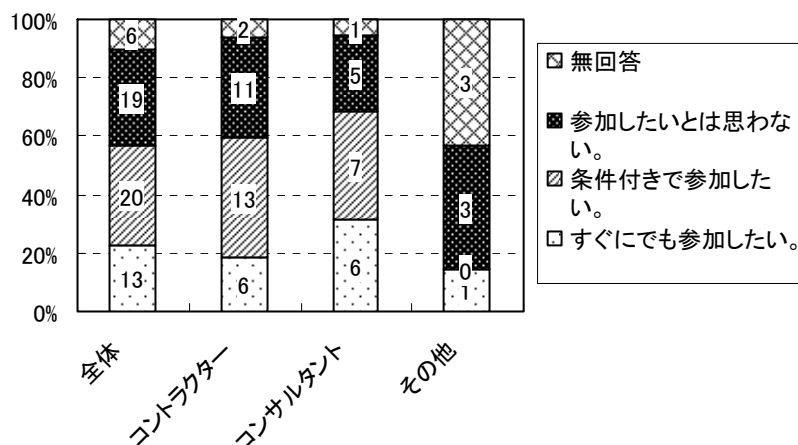


図 3.6 Adjudicator's Assessment Workshop への参加

5) その他/自由回答

DB の導入に対しては、コスト面での問題を挙げる意見が多かった。これには、DB の費用やその効果、負担源を明確にする、JICA による（円借款や技協などの）支援をする等という DB の費用負担に関するものと、アジュディケーターのフィー自体を下げる事とが含まれる。後者には、ローカルアジュディケーターの育成が大いに関係すると思われる。また、DB の判定の執行性の確保や発注者（当事者）の理解、合意形成を課題として挙げる意見、メンバーの選定や判定の公正性に疑問を呈する意見もあった。このほか、DB はエンジニアの負担を軽減するという意見がある一方で、DB が導入されるのはエンジニアの信頼が落ちているためだ、あるいは DB とエンジニアとは対立する立場に置かれるととらえる意見もあり、この点についてはまだ理解が十分に行き渡っていないと言える。

その他意見としては、セミナーの内容について、さらに詳細な話、具体的な事例を求める意見があった。DB の導入やセミナーに対しては概ね肯定的な意見が多かった。

今回のセミナーや、その他のアジュディケーター育成/審査のセミナーに対しては、すぐにアジュディケーターとして活躍したいと考える者以外にも、コントラクターやエンジニアとしての仕事に DB の知識が必要と考える者の参加も多いと考えられる。彼らのように、当面はアジュディケーターの仕事をする意思がない者でも、将来的にアジュディケーターとして活躍する可能性があり、このような者を対象とするセミナーは、短期的にはプロジェクト関係者の契約マネジメント能力の向上、長期的には潜在的なアジュディケーターの増加につながる。従って、今すぐにアジュディケーターを目指す者のみならず、幅広い層を対象に数多くのセミナーを実施する事が望まれる。

東京におけるアンケート調査の集計結果を添付－3.5 に示す。

第4章 アジュディケーター育成のためのトレーニング教材

4.1 トレーニング教材作成の目的

トレーニング教材は、DB メンバーを務めるために必要となる知識と実務を教育するための DB トレーニング・ワークショップにおいて使用される。調査団の調査によれば、FIDIC 本部においても類似の教材は開発されておらず、トレーニング教材（本調査報告書 - 別冊）は本調査業務において一から作成した。DB トレーニング・ワークショップへの参加には、アジュディケーター資格審査ワークショップ参加の要件（添付-5.1 の付属書 - 1 の 2 項）から、「7) DB トレーニング・ワークショップの修了」という条件を除く全項目を満たすことを応募の要件とする。

教材は、研修生用教材に加えて、講師用教材（Trainer's Version）を用意した。Trainer's Version では講師への注意書きが主要ポイントごとに与えてある。また、ケース・スタディーを行う際の参考シナリオを附属した。

4.2 教材の構成と使用方法

4.2.1 教材の構成

教材は「JICA DB Training Kit」と題し、コース・プログラム、テキスト、プレゼンテーション用パワーポイント・スライドのコピー、添付資料等からなる。以下に全体の構成の概要を示す。

- Acknowledgement : DB 規則や記事の転写、抜粋の掲載等を許可いただいた個人や団体への謝辞、本教材作成に貢献した個人への謝辞
- Preface : JICA による本教材への前書き
- A Sample Programme : この教材を用いて実施するトレーニング・ワークショップのプログラムの例示
- 研修生用教材 : 教材本体
- 添付資料 : プレゼンテーション用パワーポイント・スライドのコピー
現場訪問レポートや「裁定」の例
FIDIC の DAB 契約合意書
FIDIC 契約条件書、MDB 契約条件書などの抜粋
ICC DB 規則
その他法律家の記事
- 講師用教材 : 教材本体（参考シナリオ付）

4.2.2 教材の使用方法

本トレーニング教材は、表 4-1 に示す 5 日間のワークショップを想定して作成されている。講師は、自らの DB メンバーとしての経験を十分に生かして仮想シナリオを作成し、ケース・スタディーをプログラムに組み込むことが求められる。想定するワークショップの概観を以下に示す。

- 講師： 3 名。FIDIC President's List に登録されている DB 経験者が適任である。
- 研修者： 最多で 24 名（3 名/1DB x 8 DBs）程度。参加資格者は「DB アジュディケーター資格審査応募規定(案)」を満たす者（添付－5.1 の付属書－1 参照）。
- ワークショップ： トレーニング教材に含まれているテキストを網羅する講義、Q&A、討議を通して DB メンバーに必要な知識と実技を身につけさせる。講師は仮想シナリオを作成し、研修者にケース・スタディーを行なわせる。これらは研修者をグループ分けして行なうものとする。
- 宿題： 毎日宿題を課し、提出義務のあるものについては、研修者は翌朝までに仕上げて提出する。ワークショップにおいて要求される CV の準備は自分を DB メンバーとして有能で、経験が豊富であることを魅力的に表現する練習となる。講師はこれを添削し、ワークショップ中に返却する。模擬ヒアリングの準備はグループごとに行なう。「裁定」は各参加者が DB 議長のつもりで書く。
- 修了書： ワークショップを修了した者には、ワークショップの実施主体より修了書を授与する。

表 4-1 5 日間 DB トレーニング・ワークショップのプログラム(例)

日		プログラム	トレーニングの目的	トレーニングの手法
1 日目	午前	講師・受講者自己紹介 DB の概略紹介 <ul style="list-style-type: none"> • FIDIC とは何か • DB とは何か • 仲裁規則 	FIDIC の歴史、業務等の認識 DB の歴史と概念の復習 最終紛争解決の意味とコストの認識	座学(PPT 使用)、講義形態(Q&A)、全体討議
	午後	DB の設置 <ul style="list-style-type: none"> • 手続 • DB メンバーの資格 • アジュディケーター・リスト DB のコスト	DB の設置に関する契約上の手続き、DB メンバーに要求される資格等の理解、存在するアジュディケーター・リストの利用法の熟知、DB のコスト・コンポーネントの理解。	座学(PPT 使用)、講義形態(Q&A)、全体討議
	宿題	自己の経歴書の作成演習。	受講者が DB アジュディケーターとしての自己アピールをするための経歴書作成。	講師はワークショップ中に添削して研修者に返却する。
2 日目	午前	DB の運営 (1) <ul style="list-style-type: none"> • 現場訪問 • DB ミーティング • 現場視察 • 潜在的紛争問題に関する非公式な聞取り 	DB の運営全般にわたる実務の認識、各行程における注意点の指摘と考察。	座学(PPT 使用)、講義形態(Q&A)、全体討議
	午後	DB の運営 (2) <ul style="list-style-type: none"> • 現場訪問レポート • 現場訪問間の期間中に DB メンバーに提供すべき書類や情報(月報、アップデート工程表、クレーム・ノーティス、その他重要な手紙等) 	DB の運営全般にわたる実務の認識、各行程における注意点の指摘、考察。	座学(PPT 使用)、講義形態(Q&A)、全体討議
	宿題	模擬 DB 付託ヒアリングの準備	仮想シナリオに基づく紛争の付託(両契約当事者のポジション・ペーパーを与えられる)の整理。	研修者が 3 人 1 組の DB に分かれ、グループワーク

日		プログラム	トレーニングの目的	トレーニングの手法
3 日目	午前	DB の運営 (3) <ul style="list-style-type: none"> 付託、付託の時間的制限 付託時の提出書類 ヒアリング ヒアリング記録 	付託に関する手続き、書類の意味の理解。ヒアリングの進め方の習熟、ヒアリングの記録方法の理解。	座学(PPT 使用)、講義形態(Q&A)、全体討議
	午後	DB の運営 (4) 受講者による模擬ヒアリング	ヒアリングのルール、進行、参加者の役割の理解等。困難な場面での対応法の会得。	研修者が 3 人 1 組の DB に分かれる。そのうちの 3 組で実施。第 1 組は DB、第 2 組は発注者、第 3 組はコントラクターとしてロールプレー 他の 3 組ずつで繰り返す。
	宿題	模擬ヒアリングの続行	同上	同上
4 日目	午前	DB の運営 (5) <ul style="list-style-type: none"> DB「[裁定]」の目的 DB「[裁定]」の構造 DB メンバーの意見が異なる場合 	「裁定」の目的、構造、書き方の習熟、満場一致を目指す努力の必要性の理解。	座学(PPT 使用)、講義形態(Q&A)、全体討議
	午後	「裁定」が出された後 <ul style="list-style-type: none"> 「和解合意」期間 DB「裁定」の執行性 	「裁定」が出された後の、受諾や拒否によるその後の手続きの違い。和解合意への努力の理解。「裁定」の執行性に関する法的解釈、実行されない場合の救済法の理解。	座学(PPT 使用)、講義形態(Q&A)、全体討議
	宿題	模擬ヒアリングの「裁定」原稿の準備	「裁定」作成実習	研修者一人ひとりが DB 議長のつもりで「裁定」を作成する。
5 日目	午前	模擬ヒアリングの「裁定」の復習・討議	「裁定」の評価、一人ひとりの「裁定」を他者が批評。	グループ討議
	午後	模擬ヒアリングの「裁定」の復習・討議 修了	「裁定」の評価、講師による講評 修了書の授与	座学、講義形態(Q&A)、全体討議

第5章 アジュディケーター資格審査に係る運用規定（案）

5.1 運用規定作成の目的

アジア地域における JICA ODA 融資プロジェクトへの DB 導入を促進するためには、アジア地域内の国籍を持つアジュディケーターを増員することが不可欠であると考えられる。アジア地域における FIDIC Member Association（MA）あるいは大学等の機関がアジュディケーターの認定を行い、National List of Approved DB Adjudicators（NL）を常備し、プロジェクトからの要請に応える体勢を整えることが望まれる。本報告書ではこれらの機関を「資格審査実施機関」と称する。

添付-5.1 に示す「アジュディケーター資格審査に係る運用規定（案）」は、資格審査実施機関が、今後アジュディケーター候補者の資格審査を行い、最終的に合格者をその NL に掲載するプロセスを具体化するために作成された。

運用規定（案）の作成にあたり、検討を行った事項を以下に解説する。

5.2 資格審査の実施と NL 維持機関

円借款借入国（6 か国）で実施した DAB セミナー、円借款プロジェクトの実施機関等における聞き取り調査、ならびに FIDIC President's List of Approved Dispute Adjudicators の評価委員会の実例に基づいて検討を行なった結果、アジュディケーターを NL という形で資格認定することが最適と考えられる。

この結論に達した理由は以下のとおりである。

- FIDIC 本部は現在約 50 人を掲載している President's List of Approved Adjudicators を保持しているが、これを大幅に増やして全世界のプロジェクトをカバーする意思はない。
- 補完策として FIDIC 本部は、各国の MA に国別 NL を作ることを奨励しており、そのための参考資格条件を提示している。
- この方針に従って一部のヨーロッパの MA には、すでに NL を備えたところ、トレーニングや資格審査の準備に入ったところがある。
- しかしながら、アジアでは各 MA ともまだ NL の準備にも入っていない状況にある。

しかしながら、アジア地域の全ての国の MA が NL 設置に賛同するとは限らず、また実施能力があるとは言えない現状にある。代替策としては、アジアにある大学等の既存組織において資格審査と NL（或いはアジア・リストまたは広域リスト（仮称））の維持が可能であれば、それらの組織がその役割を担うことも考えられる。この場合広域リストと NL が重複

するが、問題はないと考えられる。また、同一国に複数の資格審査機関が存在しても問題はない。（たとえば、英国においては、ICE（Institution of Civil Engineers）と ACE（Association for Consultancy and Engineering）がそれぞれに資格認定とリスト維持を行っている。）

5.3 資格審査評価委員会

アジュディケーターの資格審査を適切に行うためには、資格審査の実施主体の中に評価委員会を設置する必要がある。

しかしながら、アジュディケーター育成の対象としているアジアの国においては、資格審査をする能力と経験のある人材が欠如している。したがって、当面は審査に携わる評価委員会（APA）には FIDIC 評価委員会（FIDIC APA: FIDIC Assessment Panel for Adjudicators）若しくは FIDIC President's List of Approved Adjudicators のアジュディケーターから人材を登用する必要があると考えられる。将来的に、NL の DB アジュディケーターが育成された段階では、これらアジュディケーターが APA を務めることも可能となろう。

5.4 資格審査応募条件

アジュディケーターになるための資格審査に応募するための条件を、添付－5.1「アジュディケーター資格審査に係る運用規定（案）」の付属書－1 に示す。

FIDIC は、英国の MA（ACE: Association for Consultancy and Engineering）が作成した資格審査応募条件を参考とした NL 用の応募条件を提示している。付属書－1 に示した応募条件では、必須ではないと考えられる条件を緩和し、さらにアジア諸国の特性などを考慮して FIDIC の応募条件案に対して以下の変更を加えた。

	応募条件	変更点
1	専門家賠償責任保険の加入	DB 契約ではアジュディケーターの損害賠償責任を求めているため、保険加入条件は削除した。
2	コンサルタント契約の知識と経験の保有	特に必要性が認められないため削除した。
3	継続教育の証拠提出の義務	継続教育を受けることが困難である国も存在することから要件から除外した。本条件は個別に検討する。
4	自国語での言語能力	国際的プロジェクトを念頭においているので、英語能力を求める等の修正を加えた。（*）
5	学歴・職歴・職業上のしかるべき資格	国によって制度が異なるので特定した基準は設けていない。本条件は個別に検討する。（**）

応募条件を満たす人材は、基本的にはコンサルタントやコントラクター出身のエンジニア、建設契約に携わる政府機関・融資機関のスタッフ経験者、数量積算士（QS: Quantity Surveyor）、ならびに建設契約を専門とする弁護士等であると考えられる。応募書類の審査は後述の APA（評価委員）が行い、資格審査実施機関に報告・推薦する。

(*) 英語の能力は TOEFL や TOEIC の得点などにはよらない。評価ワークショップにおける筆記試験により書く能力、ロール・プレーと面接によって話す能力、コミュニケーション能力を判断する。

(**) 日本を例にとっても言えば、専門学校、高専、短期大学等出身者であっても十分な工事契約経験、紛争解決経験等があれば必ずしも大学卒業でなくとも適格者とみなされる。英国の QS も大学出身ではないが、ふさわしい経験の持ち主が沢山いる。したがって、書類審査、評価ワークショップでの試験と面接によって APA が合議によって判断する。

5.5 資格審査前のトレーニング

資格審査前のトレーニングは 2 段階で実施される事が推奨され、これらトレーニングの修了を資格審査受審の要件とする。

最初のトレーニングは、FIDIC 建設工事の契約条件書 MDB 調和化版（MDB 版）の理解に焦点を当てる。アジュディケーター資格審査の受審希望者の中には、FIDIC1999 年版を使用した経験を十分に積んだ者がいるかもしれないが、1999 年版と MDB 版には多くの重要な違いがあるため、受審希望者は全員、審査に先立ち MDB 版に関するトレーニングを受ける必要がある。トレーニングプログラムは、FIDIC がそのコンテンツを定めている“Module 1: Practical Use of FIDIC Contracts”及び“Module 2: Management of Claims and the Resolution of Disputes”に準拠したものが適切であると考えられる。コースの期間は 4 日間が想定される。Module-1 および Module-2 のトレーニングは、FIDIC に登録している研修プロバイダーが主に欧州や中東で頻繁に開催している。また、日本においては、JICA が円借款案件実施機関職員ならびに JICA ナショナルスタッフを対象に 2010 年 2 月に開催している。JICA では、2010 年度に本トレーニングをインドネシア、ベトナム、日本において継続実施することを計画している。

審査前の 2 つ目のトレーニングは、DB (Dispute Board) に焦点を当てる。アジュディケーター資格審査の受審希望者の多くは、DB についてはほとんど実務経験を持たないと考えられる。従って、本トレーニングにより DB を適切に運営するための特別な研修機会を提供する。本トレーニングでは、本調査で策定されたトレーニング教材 (JICA DB Training Kit) が使用される。コースの期間は 5 日間が想定される。本トレーニングへの参加者は、アジュディケーター資格審査の受審希望者にほぼ絞られると考えられるので、本トレーニングは資格審査実施主体若しくは FIDIC や DRBF のような DB 関連団体が開催することが適切であると考えられる。

5.6 資格審査ワークショップ

資格審査ワークショップは FIDIC President's List of Approved Adjudicators の 3 日間方式を採用する（添付－5.1 参照）。FIDIC MDB 版の契約条件の知識をテストするための選択問題、仮想シナリオに基づくケース・スタディーを通じて、MDB 版契約条件の解釈の能力、DB プロセスの精通度を判定する。また、同様に仮想シナリオに基づくケース・スタディーを通じて、契約当事者や他の DB メンバーとのコミュニケーション能力、契約上の潜在的な問題点を抽出する能力を判定する。また、同様にケース・スタディーを通じて、DB の議長、或いは 1 人制 DB としての「裁定（Decision）」作成能力（「裁定」が備えるべき要件の満足度、契約適用能力、文章力）を評価する。さらに、個別インタビューによって英語によるコミュニケーション能力を判定する。

5.7 NL への認定アジュディケーター掲載

APA は資格審査実施機関により選任された中立・独立の第 3 者パネルである。APA は資格審査によって NL に掲載することがふさわしいと考える候補者を資格審査実施機関に推薦するが、最終的には資格審査実施機関が認定アジュディケーターを決定し NL に掲載する。

5.8 資格審査の頻度と NL の規模

これまでに実施した円借款借入国における調査の結果、資格審査に合格する力量のある候補者の数は各国とも必ずしも多くない。したがって資格審査は、必要に応じて開催国以外の隣国からも参加者を募り、20 名程度を一回のシリーズ（運用規定 3 項の中の最初の 2 つのフェーズ）として審査する。尚、近隣国からの参加者が資格審査を通過した場合は、合格者の NL への掲載は参加者の国籍のある国の NL 維持機関が行うものとする。（資格審査の頻度、認定アジュディケーターの増員予測、JICA の支援等については 6 章ロードマップにおいて記述する。）

5.9 NL の更新と維持

APA は定期的に NL の見直しを行い、資格審査実施機関に対してリストの更新を勧告する。資格審査実施機関は APA の勧告に基づきリストの更新を決定する。NL の更新は、例えば FIDIC President's List of Approved Adjudicators に倣って 3 年毎に行う。APA は、前回の更新以降の、業務に関わる研修実績、DB における活動実績、MDB 版に基づく契約に関わった経験、関連する書籍や論文の発表などの報告に基づいて更新の判断をする。引き続き NL に掲載するか否かの判断は、まず本人が DB メンバーとして業務につく意思があり、業務につくことが可能な健康状態にあることを基本とする。そのほかの上述の条件については、実績や経験を積む機会のあるなし等、地域によって異なるので、画一的な要求項目を定めることはあまり意味がなく、個々の APA が判断することとする。

第 6 章 アジア地域における DAB・アジュディケーター導入・普及のためのロードマップ

6.1 ロードマップの目標と実施されるべき対応方策

ロードマップの目標を、1) アジア地域におけるアジュディケーターの育成と増員、及び 2) 円借款プロジェクトへの DB の導入、の 2 項目に設定すると、解決すべき課題はこれまでの調査結果に基づき以下の通り整理される。

表 6-1 ロードマップの目標と解決すべき課題

目標	課題
アジア地域におけるアジュディケーターの育成と増員	1) 現時点では DB アジュディケーターを担える人材が不足している。 2) DB アジュディケーターを教育するための研修機会が少ない。 3) DB アジュディケーターの国別リスト (NL) の作成が未だ進展していない。
円借款プロジェクトへの DB の導入	1) 円借款案件実施機関、コントラクター、コンサルタント共に DB に対する理解が未だ十分ではない。 2) 特に、実施機関において DB のコスト負担を懸念する意見が多く、DB の導入によってもたらされる発注者の便益を実証する必要がある。 3) 円借款における DB 導入時のディスバースフローが未確立である。

また、これら課題を解決するために今後実行されるべき対応方策は、以下の通り 6 項目に要約することが出来る。

表 6-2 ロードマップの目標と実施すべき対応方策

目標	対応方策
アジア地域におけるアジュディケーターの育成と増員	1) FIDIC MA における育成・資格審査実態調査 2) アジア地域におけるトレーニング・ワークショップの実施 3) アジア地域における DB アジュディケーターの資格審査の実施と認定（実施・認定体制の確立を含む）
円借款プロジェクトへの DB の導入	1) MDB における DB 導入実態調査 2) JICA 支援によるパイロットプロジェクト実施 3) DB 普及のためのセミナーの継続開催

これらの対応方策は早期に実施されるべきであり、JICA の関与と支援が得られるならば、その実施は確実に促進されるものと考えられる。

JICA の関与の形態としては、1) JICA が委託調査により支援する方法と、2) JICA が主導的に実施する方法、の二つの手法が考えられ、具体的には以下の通り対応方策を分類すること

が可能である。

表 6-3 ロードマップにおける対応方策と JICA の支援形態

支援形態	対応方策
JICA 委託調査による実施	1) MDB における DB 導入実態調査 2) アジア地域の MA における育成・資格審査実態調査 3) 欧州地域の MA における育成・資格審査実態調査 4) JICA DB Training Kit の有効性検証（トレーニング・ワークショップ及び DB アジュディケーター資格審査の実施に連動） 5) DB 普及のためのセミナーの継続開催
JICA 主導による実施	1) JICA 支援によるパイロットプロジェクトの実施

以下の節では、表 6-3 で抽出された個々の対応方策の概要を提案する。

6.2 MDB における DB 導入実態調査

FIDIC レッドブック MDB 版は 2005 年に発行され、世界銀行、アジア開発銀行をはじめとする 9 つの国際金融機関の標準入札書類で利用されている。MDB 版の採用から、既に 5 年が経過していることから、現時点では多くの MDB プロジェクトにおいて DB が導入されているものと想定される。本調査では、MDB が融資するプロジェクトにおける DB の導入実績とその効果を把握するために、以下の要領で調査を行う。

- 1) 調査対象機関：世界銀行、アジア開発銀行、欧州開発復興銀行
- 2) 調査項目：
 - DB 導入に関わるポリシー
 - 建設契約における DB 導入の実態
 - DB 導入による効果
 - DB 導入における問題点と課題
 - DB 経費のディスパースメントの方法
 - アジュディケーターの育成に関わる活動
 - 選定された DB メンバーのリソース

6.3 FIDIC MA における育成・資格審査実態調査

5.2 節で述べたとおり、FIDIC では FIDIC MA（Member Association）がアジュディケーターの NL（National List）を作成し維持することが、アジュディケーターの育成および増員のための現実的な手段であるとして、MA に NL の作成を推奨している。また、同じく 5.2 節で述

べたとおり、MA がこのような役割を担い難い国では、大学などの機関が、MA の役割を代行することも可能であると考えられる。

アジア地域の開発途上国における DB 導入の促進を図るには DB コストの低減策が必要と考えられ、このためにもアジア地域におけるアジュディケーターの育成と増員は不可欠である。しかしながら、アジア地域では DB アジュディケーターの国別リスト (NL) の作成が未だ進展していない。その一方で、欧州などの先進国では、DB のトレーニングや資格審査の準備に入り、既に NL を備えた国もある。

アジア地域や欧州など先進国における FIDIC MA における育成・資格審査実態調査を実施することは、今後のより具体的な DB 育成策の立案のために有用であると考えられる。

6.3.1 アジア地域の MA における育成・資格審査実態調査

FIDIC のアジア太平洋地域における会員協会連合である ASPAC (Asia-Pacific Member Associations) には現在、下表に示す 20 か国の FIDIC MA が加盟している。

表 6-4 ASPAC 加盟協会の概要

	国名	MA 名称	MA 略称	加盟企業数	会員数
1	Australia	Association of Consulting Engineers Australia	ACEA	238	16,000
2	Bangladesh	Bangladesh Association of Consulting Engineers	BACE	26	680
3	China	China National Association of Engineering, Consultants	CNAEC	305	18,566
4	China, Hong Kong	Association of Consulting Engineers of Hong Kong	ACEHK	-	4,024
5	China, Taipei	Chinese Association of Engineering Consultants, Taipei, China	CAEC	34	2,353
6	India	Consulting Engineers Association of India	CEAI	-	26,746
7	Indonesia	National Association of Indonesian, Engineering Consultants	INKINDO-TEKNIK	273	922
8	Iran	Iranian Society of Consulting Engineers	IRSCE	-	1,856
9	Japan	Association of Japanese Consulting Engineers	AJCE	99	5,250
10	Korea	Korea Engineering and Consulting Association	KENCA	-	3,448
11	Malaysia	Association of Consulting Engineers Malaysia	ACEM	-	580
12	Nepal	Society of Consulting Architectural and Engineering Firms	SCAEF	-	43
13	New Zealand	Association of Consulting Engineers New Zealand (Inc.)	ACENZ	168	9,000
14	Pakistan	Association of Consulting Engineers Pakistan	ACEP	88	2,646
15	Philippines	Council of Engineering Consultants of the Philippines	CECOPHIL	25	1,498
16	Singapore	Association of Consulting Engineers Singapore	ACES	-	1,840
17	Sri Lanka	Association of Consulting Engineers, Sri Lanka	ACESL	-	1,185
18	Thailand	Consulting Engineers Association of Thailand	Out of FIDIC 2008	-	-
19	Vietnam	Vietnam Engineering Consultant Association	VECAS	98	3,267
20	Uzbekistan	Uzbek Association of Consulting Engineers	UZACE	-	-

オセアニアを除くこれらの国の中で、DB アジュディケーターの供給基地としてのポテンシャルを有する国は、日本、フィリピン、スリランカ、インド、香港、シンガポールであると考えられる。香港とシンガポールは円借款供与国ではないが、国際商事仲裁の仲裁地として指定されることも多く、DB アジュディケーターの潜在的候補者が数多く存在するとも考えられる。インド、スリランカでは国内プロジェクトにおいてすでに BD を運用し始めており、候補者が多く存在すると考えられる。また、フィリピンではコンサルティング・エンジニア協会（CECOPHIL: Council of Engineering Consultants of the Philippines）と DRBF の名の下にセミナー、トレーニングを実施し、リスト作りに前向きであり、候補者の供給も可能であると考えられる。当調査では、NL 作成・維持の体制構築に向けての現況調査を以下の要領で実施する。

- 1) 調査対象国：日本、フィリピン、スリランカ、インド、香港、シンガポール
- 2) 調査項目：
 - アジュディケーターの育成に関わる活動内容
 - アジュディケーターの資格審査の現況と将来展望
 - DB 育成・資格審査実施上の課題
 - JICA 支援策の必要性和有効性検討

6.3.2 欧州地域の MA における育成・資格審査実態調査

当調査では、アジュディケーターの育成や資格審査を実行に移している他の先進国における取組みを把握し、アジア地域でのアジュディケーター育成計画に応用するために、以下の要領で現地調査を行う。

- 1) 調査対象国：ドイツ、ポーランド
- 2) 調査項目：
 - アジュディケーターの育成に関わる活動内容
 - アジュディケーターの資格審査の方法
 - National List の運用方法
 - 登録アジュディケーターの活動実態

ドイツでは FIDIC MA である *VerbandBeratender Ingenieure* (the German Federation of Consulting Engineers) が最近資格審査規定を策定し、セミナーとトレーニング・コースを開催する計画を有するとの情報を得ている。

また、ポーランドでは MA である SIDR が NL を策定し現在 28 名が掲載されている。FIDIC のウェブサイトから閲覧可能である。

6.4 JICA DB Training Kit の有効性検証

本調査において開発された、DB アジュディケーターの研修教材（JICA DB Training Kit）な

らびに資格審査運用規定(案)はアジュディケーター育成のためのツールであるが、実際の使用を通してこれらツールの有効性を検証することは、これらツールの利用を波及させてゆくために必要なステップであると考えられる。

JICA DB Training Kit の有効性検証は、JICA 支援の下で以下要領によりトレーニング・ワークショップを開催し、研修者に対する教育効果を測ることで可能となると考えられる。

- 1) 開催地：日本
- 2) 開催期間：5 日間
- 3) 研修者数：約 10 名
- 4) 研修者募集方法：建設関連協会からの推薦
- 5) 研修者の参加資格：DB アジュディケーター資格審査応募規定（添付 5-1）に適合する者
- 6) 講師：FIDIC President's List に登録されている DB 経験者を含む 3 名

研修者は、引き続き実施される資格審査を受審することが求められ、資格審査の結果を分析することにより JICA DB Training Kit の有効性を推し量ることが可能である。

参加者の募集方法については、日本の建設関連協会（AJCE、OCAJI 等）からの推薦を想定する。2010 年 3 月に東京で開催した DAB 普及セミナーにおける意識調査では、6 割を超える参加者がトレーニングコースへの参加に積極的な意向を示しており、参加者の募集には大きな問題は生じないものと予想される。

資格審査は、FIDIC MA または大学のような機関が自律的に実施することが、プロセスの持続性を確保するためにも必要であるが、本検証過程においては JICA の資金面での支援を供与することが、プロセスを早く軌道に乗せるためにも望ましいと考えられる。また、この資格審査では、本調査において策定された資格審査運用規定(案)の実効性についても検証が可能となる。

さらに、アジア地域においては先進的な取組みとなるトレーニング・ワークショップと資格審査を先ず日本で開催することは、日本がこの分野において先導的な役割を果たし、その過程で得られた教訓をアジア地域に伝播できるという意味からも、有意義であると考えられる。

資格審査を、年に 1 回のペースで実施し、平均合格者数を 5 名と仮定すると、5 年後には約 25 名の DB アジュディケーターが NL に掲載されることになる。このような取組みがアジア地域の複数の国で実行されるならば、5 年後には 50 名以上のアジュディケーターがアジア地域に存在することになり、円借款プロジェクトにおける DB 普及にも大きく貢献できることになろう。

6.5 DB 普及のためのセミナーの継続開催

JICA では、本調査を含めこれまで日本を含むアジア 7 カ国において DAB 普及セミナーを実施した。参加者数は平均で約 100 名であり、各国共に DB に対して高い関心があることが確認されている。

表 6-5 DAB 普及セミナーの開催記録

	国	実施日	参加者数
1	インド	2008 年 8 月 22 日	16
2	フィリピン	2008 年 8 月 28 日	111
3	カンボジア	2009 年 11 月 19 日	77
4	ベトナム	2009 年 11 月 23 日	157
5	バングラデシュ	2010 年 1 月 28 日	53
6	スリランカ	2010 年 2 月 1 日	105
7	日本	2008 年 7 月 11 日(京都) 2008 年 7 月 18 日(東京)	132
	合計		651

DB は、新しい紛争解決の手法であることから、DB の普及を促すためには発注者、コントラクター、コンサルタント、法曹界などへのプロモーション活動を継続的に行うことは大変に効果的かつ不可欠であると考えられる。また、本調査で実施した DB セミナーにおいても、セミナーを今後とも提供することを期待する意見が多く聞かれた。従って、DB セミナーを以下の要領にて継続的に開催することを提案する。

- 1) セミナー開催候補国：インドネシア、ベトナム（ホーチミン）、パキスタン
- 2) セミナー対象者：円借款案件関連省庁、円借款案件実施機関（発注者）、コントラクター、コンサルタント、法曹界、MDBs
- 3) セミナー内容：
 - DB の基礎
 - DB の実際
 - アジュディケーターの育成と資格審査について（本調査の成果品の紹介）

セミナーの資料は、これまでの調査における実施機関との面談や DB セミナーで多く質問の寄せられた事項（2.2 章、2.3 章、3.1 章を参照）を反映して作成するものとする。

6.6 JICA 支援によるパイロットプロジェクトの実施

6.6.1 パイロットプロジェクトの目的

パイロットプロジェクトは以下の目的のために、JICA の主導により実施することを提案する。

- 1) DB を建設契約に導入することによりプロジェクトが円滑に実施され、結果として発注者の便益が増大することを実証すること
- 2) DB のコストを JICA が負担することにより、実施機関の DB 導入に対する障壁を軽減すること。

6.6.2 パイロットプロジェクト実施のための準備作業

パイロットプロジェクトの実施のためには、準備作業として以下の検討を行う必要がある。

- 1) パイロットプロジェクトのニーズ確認
今回の調査において、円借款案件実施機関からパイロットプロジェクトを期待する意見が多く聞かれたが、そのニーズと効果について再確認を行う。
- 2) 援助資金導入の方法検討
援助資金の導入について、実施面での制度的課題検討、DB メンバーの選定方法、DB メンバーとの契約方法、ならびに資金の流れを検討する。

DB メンバーの選定と契約については、現時点では以下の代替案が考えられる。

	内容	特徴
代案 - 1	DB メンバーの選定、メンバーとの契約は JICA が行なう。	JICA による資金の提供に伴い、DB メンバーの選択、契約を一貫して行えば手続きが簡明。 当事者にとって他者から与えられた DB であるため、切実さ、真剣さが希薄になる可能性がある。
代案 - 2	DB メンバーの選定、メンバーとの契約は当事者（実施機関とコントラクター）が行なう。	代案 - 1 に比べて、当事者が自分たちの選んだ DB として真剣さ、切実さが増す。
代案 - 3	上記代案 1 及び 2 に対して、契約工期に基づくリターナー、4 ヶ月に 1 回の定期的現場訪問のコストは JICA が支援する。工期が延長した場合と DB に紛争の付託が発生して追加的に発生したコストは契約当事者が折半する。	JICA の資金提供部分の大きさがかなりの精度で確定できる。 当事者には、紛争の DB への付託を減らし、工期内に契約を完了させるインセンティブが働く。

尚、パイロットプロジェクトにおける DB 費用の概算見積もりを添付 6-1 に示す。

- 3) 案件選定の方法検討

パイロットプロジェクト選定のためのクライテリアおよび決定方法を検討する。

現時点では、以下の簡易クライテリアが考えられる。

- (1) 案件の規模：契約金額が 100 億円以上
100 億円以下では DB コストが契約金額の 1%以上となり割高感がある。
 - (2) 案件の開発ステージ：契約条件書がこれから準備されるプロジェクト
発注者がパイロットプロジェクトとして位置付ける」ことを合意する必要がある、
DB の費用負担方法やメンバー選定の方法等を建設契約書に規定する必要がある
ことから、契約条件書がこれから準備されるプロジェクトであることが望ましい。
 - (3) 案件の特性：地下条件等に起因する紛争が起こりやすいプロジェクト
本調査において、クレーム・紛争の原因としては、1) 現場の引渡し遅れ、2)
予見不可能な物理的条件、3) 物価変動調整、4) 支払遅延、5) 変更、が多いこ
とが確認された。クレーム・紛争が起こりやすいプロジェクトを選ぶことによっ
て、DB による紛争の予防・早期解決を実証する機会が増える。
 - (4) 案件の工期：3 年以上
工期が長いほど、工期の各段階における DB の機能を検証する機会が増える。上
記の契約金額の規模と案件の特性を勘案すると工期は3年以上が適当と考えられ
る。
- 4) 案件選定
上記のクライテリアに基づきパイロットプロジェクトのショートリストを作成し、最
終的に実施機関との合意に基づき案件を選定する。

6.6.3 パイロットプロジェクトの実施

パイロットプロジェクトの実施にあたっては、プロジェクト関係者（発注者、コントラクター、コンサルタント、JICA）は以下の点について留意する必要がある。

- FIDIC President's List 又は National List から適格なアジュディケーターを選定すること。
- 契約調印と同時に DB を設置する常設 DB (standing DB) として DB の紛争予防機能を十分発揮させること。
- DB の効果を十分に発揮させるとともに、プロジェクトの進捗に応じた DB のコスト・ダウンを検討すること。
- 資格審査が実施されて新しい「認定アジュディケーター」が誕生しているケースにおいては、認定アジュディケーターに実地研修 (Mentoring) を行うことによって、アジュディケーター育成が可能になる。
- 国や案件特性の異なる複数のプロジェクトにおいて、併行的にパイロットプロジェクトを実施することで、精度の高い有効性検証が可能となる。

6.7 ロードマップ

JICA 委託調査により実施される今後の対応方策は、平成 22 年度に以下の工程で実施することが提案される。

	作業項目	2010										2011					
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	
1	MDB実態調査																
2	アジア地域のMAにおける育成・資格 審査実態調査																
3	欧州地域のMAにおける育成・資格審 査実態調査																
4	JICA DB Training Kitの有効性検証																
	1) FIDIC契約トレーニング （Module 1 and 2）																
	2) DB トレーニング																
	3) 資格審査																
5	DB普及のためのセミナーの継続開催																

図 6.1 JICA 委託調査による対応方策実施のロードマップ

また、パイロットプロジェクトは以下の工程で実施することが想定される。

	作業項目	2010				2011				2012				2013			
		I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV
1	準備作業		■														
2	パイロットプロジェクトの選定			■													
3	DBの導入									■	■	■	■	■	■	■	■
4	円借款案件の工程																
	1) 入札書類作成	■	■	■	■												
	2) 入札				■	■	■	■	■								
	3) 入札評価・契約					■	■	■	■								
	4) 施工									■	■	■	■	■	■	■	■

図 6.2 パイロットプロジェクト実施のロードマップ

添 付

Japan International Cooperation Agency (JICA)

DAB (Dispute Adjudication Board) Seminar

Phnom Penh, Cambodia

Date : November 19, 2009

Time : 14:00 – 17:15

Venue : Phnom Penh Hotel

Seminar Programme

13:00 – 14:00	Registration	
14:00– 14:05	Opening Remarks	Professor, Dr. Toshihiko OMOTO, Kyoto University
14:05 – 14:35	The Position of DAB in FIDIC Conditions of Contract	Yukinobu HAYASHI, General Manager, Nippon Koei Co., Ltd
14:35 – 15:35	The Practice of Dispute Boards	Professor, Dr. Toshihiko OMOTO, Kyoto University
15:35 – 15:50	Coffee Break	
15:50 – 17:15	Open Discussion and Qs & As	

Japan International Cooperation Agency (JICA)

DAB (Dispute Adjudication Board) Seminar

Hanoi, Vietnam

Date : November 24, 2009

Time : 14:00 – 16:10

Venue : Hanoi Daewoo Hotel, Orchid Room

Seminar Programme

13 : 30 - 14 : 00 Registration

14 : 00 - 14 : 05 Opening Remarks

Toshio NAGASE, Senior Representative, JICA Vietnam Office)

14:05 – 14:35 The Position of DAB in FIDIC Conditions of Contract

Yukinobu HAYASHI, General Manager, Nippon Koei Co., Ltd.

14:35 – 15:35 The Practice of Dispute Boards

Professor, Dr. Toshihiko OMOTO, Kyoto University

15:35 – 16:05 Open Discussion and Qs & As

16:05 – 16:10 Closing Remarks (JICA)

Toshio NAGASE, Senior Representative, JICA Vietnam Office)

Japan International Cooperation Agency (JICA)

DAB (Dispute Adjudication Board) Seminar

Dhaka, Bangladesh

Date : January 28, 2010

Time : 14:00 – 17:00

Venue : Pan Pacific Sonargaon

Seminar Programme

13:30 – 14:00 Registration

14:00 – 14:35 The Position of DAB in FIDIC Conditions of Contract
Yukinobu HAYASHI, General Manager, Nippon Koei Co., Ltd.

14:35 – 15:35 The Practice of Dispute Boards
Professor, Dr. Toshihiko OMOTO, Kyoto University

15:35 – 15:50 Coffee Break

15:50 – 17:00 Open Discussion and Qs & As

Japan International Cooperation Agency (JICA)

DAB (Dispute Adjudication Board) Seminar
Colombo, Sri Lanka

Date : February 1, 2010

Time : 14:00 – 17:00

Venue : Hilton Colombo Residence

Seminar Programme

13:30 – 14:00	Registration
14:00 – 14:35	The Position of DAB in FIDIC Conditions of Contract Yukinobu HAYASHI, General Manager, Nippon Koei Co., Ltd
14:35 – 15:35	The Practice of Dispute Boards Professor, Dr. Toshihiko OMOTO, Kyoto University
15:35 – 15:50	Coffee Break
15:50 – 16:20	ADR and DRB practice in Sri Lanka Tilak P. Kolonne, Director, VFORM Consultants Private Limited
16:20 – 17:00	Open Discussion and Qs & As

About Speakers

Toshihiko Omoto, Dr.Eng.

Dr/MSc/BSc (Civil Eng) MSc (Const Law & Arb)

Toshihiko Omoto is a First Class Civil Engineer in Japan and a Chartered Civil Engineer in UK, holding Master's and Doctor's Degrees in Civil Engineering awarded by Kyoto University, Japan, and Master's Degree in Construction Law and Arbitration awarded by King's College, University of London. He has over 35 years experience in the construction industry, including 30 years experience in the international projects. He worked for a major Japanese contractor for 25 years, for 15 years of which, he was involved in resolution of engineering and construction disputes, both by amicable settlement negotiations and by arbitration. In year 2000, he began his independent consultancy, specializing in dispute resolution. He has worked in 25 countries, representing and/or advising owners, contractors and insurers.

In 2006, he became a full time Professor at the Graduate School of Management (MBA) of Kyoto University and is the Head of Center for Research in Business Administration of MBA. He is a Fellow of the Chartered Institute of Arbitrators, UK, and currently serves as a Neutral; a Dispute Board Member, an arbitrator and a mediator. He is the Japan Representative of the Dispute Resolution Board Foundation and the Senior Advisor of the Japan Chapter of the Chartered Institute of Arbitrators. He regularly lectures on construction law and dispute resolution at several universities in Japan. He also authors frequently papers for publication in professional and academic journals.

Yukinobu Hayashi

General Manager, PPP Project Department, Nippon Koei Co., Ltd.

Yukinobu Hayashi has over 30 years of professional experience in project management for various types of infrastructure development projects in Asia, Middle East, Africa and Latin American countries. Since his graduation from University with a B. Sc. in mechanical engineering in 1977, he has been working for Nippon Koei Co., Ltd. He has involved in construction planning and scheduling, project cost estimate, tender document preparation, tender evaluation, and assessment of contractual claims for the projects undertaken by the firm.

He has a deep understanding on construction contracts especially FIDIC. As a member of Association of Japanese Consulting Engineer (AJCE), he has drafted Japanese versions of FIDIC contracts including Red Book 1999, Yellow Book 1999 and FIDIC Contract Guide.

Japan International Cooperation Agency

DAB PROCESS PROMOTION SEMINAR

セミナー教材

1. Position of DAB in FIDIC Conditions of Contract
2. Practice of Dispute Boards
3. Adjudication/ DAB practice in Sri Lanka¹

February 2010

¹ スリランカにおけるセミナーでのみ使用



DAB Process Promotion Seminar

Position of DAB in FIDIC Conditions of Contract

JICA

(Japan International Cooperation Agency)

Yukinobu Hayashi
Nippon Koei Co., Ltd

JICA DAB Seminar 2010

2

Topics

- ☐ JICA Procurement Documents
- ☐ Dispute Settlement Procedures in FIDIC Contracts
- ☐ Basic Knowledge of DAB/DB in FIDIC Contracts
- ☐ Differences between FIDIC Red Book 1999 and MDB Edition in Relation to DAB/DB



JICA DAB Seminar 2010
© Y. Hayashi 2010

3

JICA Documents related to Procurement of Works

1. Guidelines for Procurement under Japanese ODA Loan (2009)
2. Sample Bidding Documents
 - Prequalification Documents (2007)
 - **Procurement of Works (June 2009)**
 - Supply and Installation of Plant and Equipment (2006)
 - Civil Works – Smaller Contract (2000)
3. Guide Book and Check List
 - Handbook for Procurement under Japanese ODA Loans (2009)
 - Evaluation Guide for Prequalification and Bidding (2007)
 - Check List for One Sided Contracts (2006)

(All available at JICA WEB site)



JICA DAB Seminar 2010
© Y. Hayashi 2010

4

JICA Sample Bidding Documents - Works

- ☐ Current version
 - Issued in June 2009
 - General Conditions : FIDIC RedBook MDB harmonised edition
 - DAB (DB) : standard
- ☐ Old version
 - issued in 1999
 - General Conditions : FIDIC RedBook 1987 (4th Edition)
 - DAB: optional



JICA DAB Seminar 2010
© Y. Hayashi 2010

ADR (Alternative Dispute Resolution) and DAB

- Arbitration
- Mediation
- Conciliation
- Dispute Board*1
 - Dispute Review Board
 - Dispute Adjudication Board (or Dispute Board)
 - Combined Dispute Board

*1: Classification of ICC-Dispute Board Rule 2004



Dispute Board

- Dispute Review Board, DRB
 - DRB issues recommendations.
- Dispute Adjudication Board, DAB
 - DAB issues decisions.
 - called as DB (Dispute Board) in MDB edition
- Combined Dispute Board, CDB
 - CDB issues recommendations.
 - however, CDB may issues decisions, if any Party (Employer and Contractor) so requests. The CDB has the power to do so even if the other party objects.



Types of DB

- Full-term (standing) DB
 - appointed just after conclusion of the construction contract
 - periodical site visit regardless of dispute
 - adopted in Red Book 1999 and MDB edition
- Ad-hoc DB
 - appointed after occurrence of dispute
 - adopted in Yellow Book 1999 and Silver Book 1999

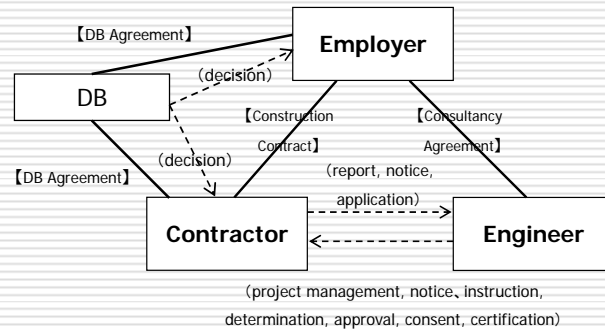


Comparison : Full-term and Ad-hoc DB

	Full-term	Ad-hoc
Total DB cost	higher	lower
Function of dispute prevention by DB	Yes	No
Time for issuing decision after dispute	short	long



Three Party System and DB in FIDIC



JICA DAB Seminar 2010
© Y. Hayashi 2010

Dispute Settlement Procedures in FIDIC Contracts

Red Book 1987

- The Engineer makes determination of claim and decision of dispute
- Same in Yellow Book 1987

Red Book 1999 and MDB edition

- The Engineer makes determination of claim, and DB makes decision of dispute
- Same in Yellow Book 1999

Silver Book 1999

- The Employer makes determination of claim, and DB makes decision of dispute



JICA DAB Seminar 2010
© Y. Hayashi 2010

Why DB is introduced in FIDIC Documents

1. FIDIC Questionnaire Survey in 1996

Question 16: Engineers' impartiality

Engineers are rarely impartial in exercising their powers under a contract

%	1	2	3	4	5	n
Cons	6	4	8	45	37	71
Cont	30	38	13	16	3	104
Client	12	19	12	31	27	26
Civil	22	32	14	19	14	79
Com	17	18	10	34	20	122
Tot	19	23	11	28	18	201

Engineers are usually impartial in exercising their powers under the contract

Question 17: Direction of engineers' partiality

Engineers typically favour the Contractor in administering contracts

%	1	2	3	4	5	n
Cons	1	4	39	46	8	71
Cont	1	2	16	38	42	104
Client	0	0	23	58	19	26
Civil	0	1	29	43	27	79
Com	2	3	23	44	28	122
Tot	1	2	25	44	27	201

Engineers typically favour the Employer in administering contracts



JICA DAB Seminar 2010
© Y. Hayashi 2010

Why DAB is introduced in FIDIC Documents

Question 18: Engineer as dispute settler

Generally, it is a bad idea to incorporate terms which call upon the Engineer to settle disputes between the Employer and the Contractor

%	1	2	3	4	5	n
Cons	7	8	7	34	44	71
Cont	26	28	4	27	15	104
Client	27	8	4	12	50	26
Civil	15	27	5	27	27	79
Com	22	13	5	28	32	122
Tot	19	18	5	27	30	201

Generally, it is a good idea to incorporate terms which call upon the Engineer to settle disputes between the Employer and the Contractor

Question 19: Adjudicator as dispute settler

Someone other than the Engineer should be first line Adjudicator(s) in the event of disputes

%	1	2	3	4	5	n
Cons	14	10	6	25	45	71
Cont	30	24	3	23	20	104
Client	31	4	0	23	42	26
Civil	20	27	6	19	28	79
Com	27	10	2	27	34	122
Tot	24	16	3	24	32	201

The Engineer is the best person to be the first line Adjudicator in the event of disputes



JICA DAB Seminar 2010
© Y. Hayashi 2010

Why DAB is introduced in FIDIC Documents

Question 20: Decisions of adjudicators

An Adjudicator, or a formal adjudication board, should make recommendations, rather than decisions

%	1	2	3	4	5	n
Cons	13	17	4	23	44	71
Cont	15	19	8	24	34	104
Client	12	19	8	27	35	26
Civil	16	20	9	27	28	79
Com	12	17	5	22	43	122
Tot	14	18	6	24	37	201

An Adjudicator, or a formal adjudication board, should make decisions, rather than recommendations

2. It is often said that:

- 1) the Engineer is paid by the Employer
- 2) playing dual roles is very difficult
- 3) disputes are sometimes related to the design made by the Engineer
- 4) might be difficult to overturn Engineer's determination previously made



Why DAB is introduced in FIDIC Documents

3. The Engineer would be required to obtain Employer's approval before taking some actions under the Contract.

【In MDB Version】

- a) determination of EOT and/or additional cost under Cl. 4.12 [Unforeseeable Physical Conditions]
- b) instructing Variation exceeding specified amount
- c) approving proposal for Variation submitted by the Contractor
- d) specifying the amount payable in each of the applicable currencies



Requirement on Engineer's Determination

- ❑ to be fair (unbiased) and professional
- ❑ with proper interpretation of the Contract
- ❑ after due consultation with the Employer and Contractor



These requirements remain unchanged from
FIDIC Red Book 1987 version.



FIDIC Contract Provisions related to DB (1)

(Conditions of Contract for Construction)

20 Claims, Disputes and Arbitration

- 20.1 Contractor's Claims
- 20.2 Appointment of DB
- 20.3 Failure to Agree DB
- 20.4 Obtaining DB's Decision
- 20.5 Amicable Settlement
- 20.6 Arbitration
- 20.7 Failure to Comply with DB's Decision
- 20.8 Expiry of DB's Appointment



FIDIC Contract Provisions related to DB (2)

(Documents for Employment of DB)

- ☐ General Conditions of Dispute Board Agreement
- ☐ Procedural Rules
- ☐ Dispute Board Agreement



20.2 Appointment of DB

- ☐ The DB shall comprise, as stated in the Contract Data, either one or three suitably qualified persons.
- ☐ In case of 3-member DB, each Party nominate one member for approval of the other Party, if they fail to jointly appoint the DB.
- ☐ The first two members shall recommend and the Parties shall agree upon the third member, who shall act as a chairman.
- ☐ If an adjudicator list is provided in the Contract and agreed by the Parties, the member shall be selected from the list.
- ☐ DB's fee and expense shall be evenly paid by both Parties.
- ☐ If both Parties so agree, they can jointly seek opinion of DB at any time.



20.3 Failure to Agree DAB

- ☐ If Parties can not appoint DB member or agree DB member, an entity or official named in the Contract Data shall appoint member(s).
- ☐ Such appointment shall be final.
- ☐ The two Parties evenly share the remuneration of appointing entity or official.



20.4 Obtaining DB's Decision (1)

- ☐ Either Party may refer the dispute in writing to DB, if a dispute arises in connection with the Contract or execution of the Works including any dispute as to any certificate, determination, instruction, opinion or valuation of the Engineer.
- ☐ Both Parties shall make available to the DB related information and access to the Site.
- ☐ Within 84 days after receiving such reference, DB shall give its decision. The decision shall be binding on both Parties, unless and until it shall be revised in the amicable settlement or arbitral award.



20.4 Obtaining DB's Decision (2)

- ❑ If either Party is dissatisfied with DB's decision, either Party may give notice to the other Party of its dissatisfaction within 28 days and intention to commence arbitration.
- ❑ If DB has given its decision and no notice of dissatisfaction has been given by either Party within 28 days, then the decision shall become final and binding upon both Parties.



General Conditions of Dispute Adjudication Agreement(1)

- ❑ This agreement is a tripartite agreement among the Employer, the Contractor and DB member.
- ❑ The DB member shall warrant that he shall be impartial and independent of the Employer, the Contractor and the Engineer.
- ❑ When appointing the member, the both Parties relied upon the member's representation that he/she is:
 - experienced in similar work
 - experienced in contract documentation
 - fluent in the language for communication



General Conditions of Dispute Adjudication Agreement(2)

- ❑ The DB member shall be paid as follows:
 - monthly retainer fee
 - daily fee
 - expenses (travel expense, hotel, telephone, etc.)
 - taxes in the Country
- ❑ The retainer fee shall be reduced by 1/3 after Taking-Over Certificate is issued.
- ❑ The Contractor shall pay DB member's invoice in full and shall apply to the Employer for reimbursement of 1/2 of the amount.



Procedural Rules

- ❑ The DB shall visit the site at the interval of not less than 70 days and not more than 140 days, unless otherwise agreed by the Parties.
- ❑ The purpose of site visit is to enable the DB to become and remain acquainted with the progress of the Works and of any actual or potential problems or claims, and ,as far as reasonable, to endeavour to prevent potential problems or claims from becoming dispute
- ❑ The DB shall prepare a report before leaving the site.
- ❑ If any dispute is referred to the DB, the DB shall:
 - act fairly and impartially, giving the Parties a reasonable opportunity of putting his case and responding to the other's case,
 - adopt procedures suitable to the dispute, avoiding unnecessary delay or expense



Differences between FIDIC Red Book 1999 and MDB (1)

- ❑ In MDB version, the Board is called as DB (Dispute Board), not DAB (Dispute Adjudication Board)
- ❑ In MDB version, if the Engineer does not respond to the claim within the timeframe specified in the Contract, any of the Parties may consider that the claim is rejected by the Engineer and any of the Parties may refer to DB in accordance with SC 20.4.
- ❑ In MDB version, essential requirements to the members, i.e. experience in similar works and contractual documents, and communication capability are spelled out in SC 20.2, besides DB General Conditions.



Differences between FIDIC Red Book 1999 and MDB (2)

- ❑ Appointment procedure of DB in MDB version:
 - The Parties should first consider together who shall serve as the DB.
 - The first two members recommend the third member who will act as a chairman.
- ❑ In MDB version, the reduction of retainer is 1/3 rather than 1/2.
- ❑ In MDB version, the following text is added in respect of purpose of the site visit by DB:
 - "as far as reasonable, to endeavour to prevent potential problems or claims from becoming dispute"

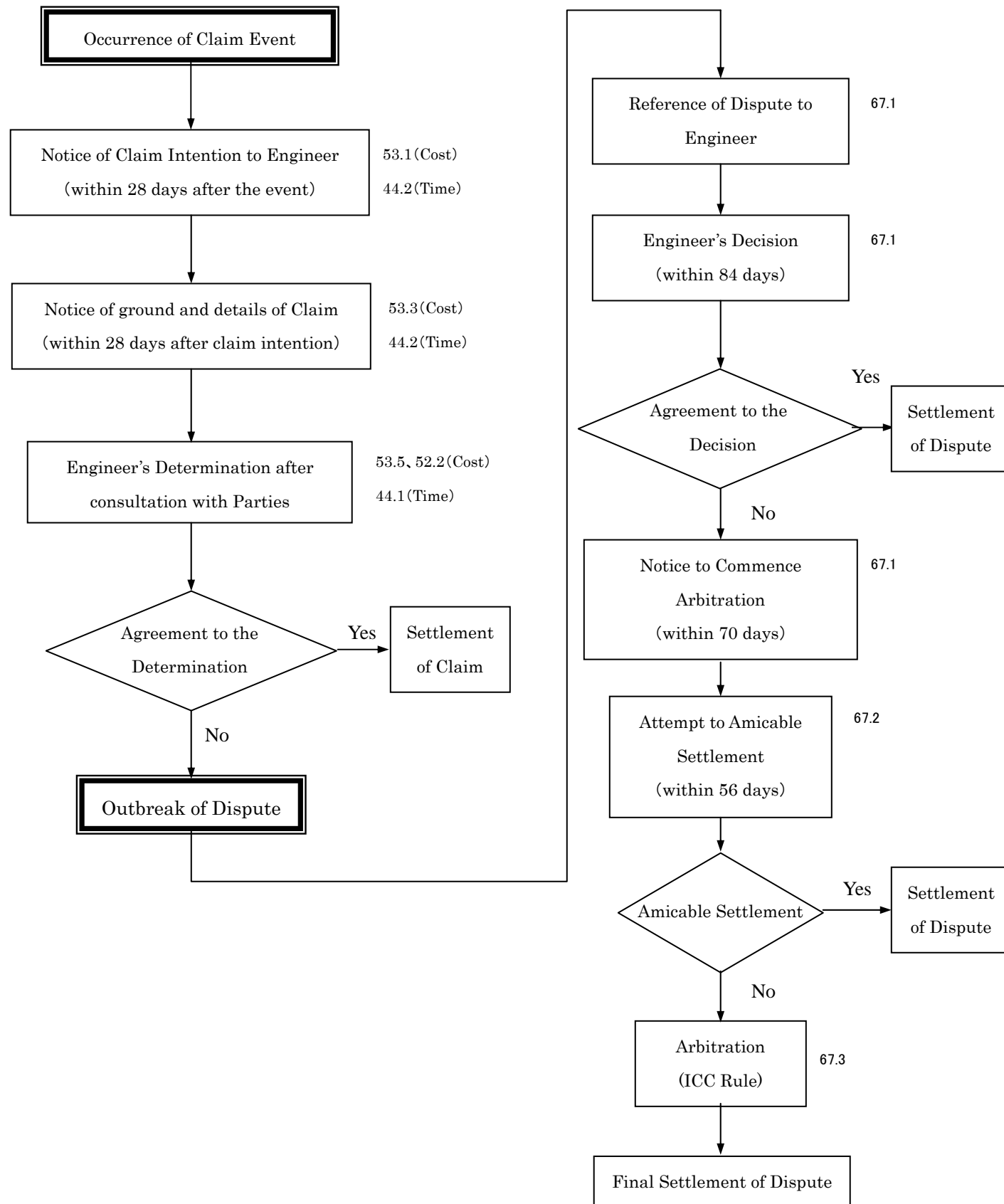


The End

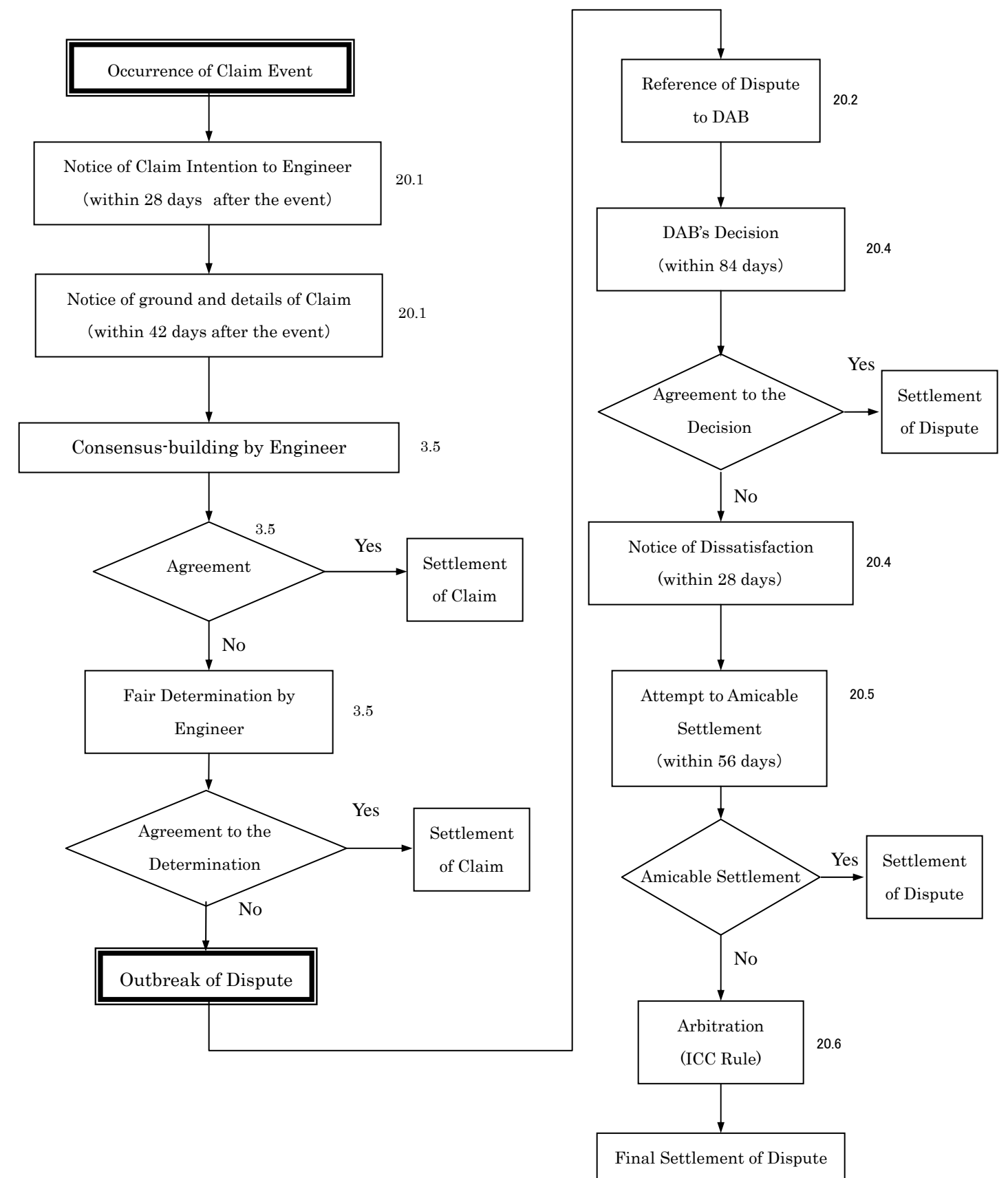
Thank you !!



Attachment-1 Procedure of Claim and Dispute Settlement (FIDIC Red Book 1987)



Attachment-2 Procedure of Claim and Dispute Settlement (FIDIC Red Book 1999 and MDB)





DAB Process Promotion Seminar

Practice of Dispute Boards

JICA

(Japan International Cooperation Agency)

Professor Toshihiko Omoto, Dr.Eng.
Graduate School of Management,
Kyoto University

JICA DAB Seminar 2010

© Toshihiko Omoto 2010

Today's Topics: Dispute Boards

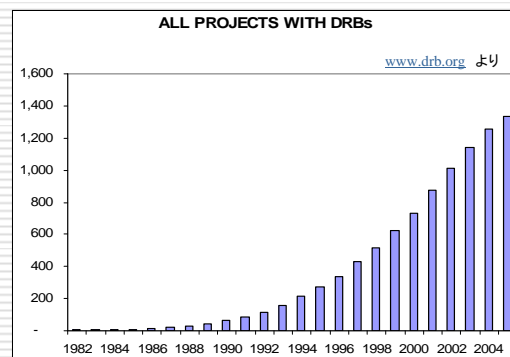
- ☐ Present State of DB's Dissemination
- ☐ Operation of DB
- ☐ Effects of DB
- ☐ Costs of DB
- ☐ Examples of DB



JICA DAB Seminar 2010

© Toshihiko Omoto 2010

Present State of DB's Dissemination DRBF's Report



JICA DAB Seminar 2010

© Toshihiko Omoto 2010

The Present State of DB's Dissemination DRBF's Report

- ☐ Reported projects are almost in USA
- ☐ DB is widely used in public sectors
 - California: The authority of transportation
 - Florida: The authority of transportation
 - Seattle: Metro
 - Alaska: The authority of electricity
 - Federal government: The ministry of energy
- ☐ DRB used in 1,200 projects in 2005
 - 1.2 references/ project to DRB
 - 2% of references to arbitration/litigation
 - 1% of above resolved before award/judgment



JICA DAB Seminar 2010

© Toshihiko Omoto 2010

The Present State of DB's Dissemination outside the USA

- ❑ **Urtan Hydropower Project (China)**
 - US\$2 billion: 3,300 MW
 - 40 references to DAB, no claim to arbitration
- ❑ **Hong Kong International Airport**
 - US\$ 15billion
 - 6 references to DAB, 1 to arbitration, upheld
- ❑ **Katse Dam (South Arfica)**
 - US\$2.5 billion
 - 12 references to DAB, 1 to arbitration, upheld
- ❑ **Docklands Light Railway, UK**
 - US\$500 million
 - No reference to DAB
- ❑ **Saltend Private Gas Turbine Power Plant, UK**
 - US\$200 million
 - No reference to DAB
- ❑ **Many, Many more!**



JICA DAB Seminar 2010
© Toshihiko Omoto 2010

Operation of DB

Difference Between Other Means of Dispute Resolution

- ❑ DB is established before disputes take place
- ❑ Selection of DB members is agreed by both parties
- ❑ DB provides on-site dispute resolution
- ❑ Preventing disputes from taking place or escalating to formal disputes
- ❑ Early settlement of disputes
- ❑ DB provides regular Site visits and documents review to remain conversant with project development
- ❑ DB is more like part of project management, rather than means of dispute resolution
- ❑ Key to a successful DB; DB members to gain trust and regards for their neutrality, impartiality and capability



JICA DAB Seminar 2010
© Toshihiko Omoto 2010

Operation of DB

Qualifications of DB members

- ❑ **FIDIC/MDB Harmonized Edition Rules**
 - Language ability
 - experience in the kind of Work
 - experience in interpreting contract documents
 - Availability for site visits
 - Impartial and independent of contracting parties and Engineer
 - no interest financial or otherwise with contracting parties and Engineer and with the contract itself
- ❑ **Engineers or lawyers?**



JICA DAB Seminar 2010
© Toshihiko Omoto 2010

Operation of DB

Selection of DB Members/Establishment of DB

- ❑ Each party nominate one for the other party's approval, two members nominate the third member for both parties' approval
→ Chairperson
(The chairperson should be of different nationality from the two contracting parties.)
- ❑ The parties can make the selection together with the Engineer.
- ❑ DB members can be selected from a ballot of several candidates.
- ❑ Qualifications can be set down in advance (Example)
 - Selecting from FIDIC President's List
 - 2 Engineers + 1 Lawyer (chairperson)
 - 1 member shall be experienced in TBM tunneling work



JICA DAB Seminar 2010
© Toshihiko Omoto 2010

The Operation of DB

Information to be disclosed in making DB contracts

- ❑ Records of any professional or personal relationships with any director, officer or employee of the Employer, the Contractor or the Engineer, and any previous involvement in the overall project of which the contract forms part
- ❑ Records of any employment as a consultant or otherwise by the Employer, the Contractor or the Engineer
- ❑ Besides, information about the warranty on the impartiality and independence from the Employer, the Contractor and the Engineer



JICA DAB Seminar 2010
© Toshihiko Omoto 2010

Operation of DB

Example of Disclosure

- ❑ In this case, the candidate had been employed by one of the parties until 10 years ago for 7 years then no involvement since then
- ❑ The candidate warrants his independence on the party

Vice President
Company Ltd.

Dear Sir,

Th Project
Appointment of DAB

Thank you for your letter dated [] inviting me to provide a statement of availability to serve on a DAB to be constituted under this Contract.

I have reviewed the your letter and am pleased to advise you of my availability to serve on a DAB for this Contract and that, on the basis of the Project information contained in that letter,

1. I have no financial interests with, and am independent of the Parties and the Engineer.
2. I am familiar with the Conditions of Contract.
3. I am fluent in the language of the Contract.
4. I have extensive experience in the type of work that is being undertaken.

I understand that you have obtained my CV from the list of approved adjudicators published by FIDIC.

As a matter of disclosure, the Parties and the Engineer should be made aware that between the years 1990 and 1997 I was employed in [] as the position of Contracts Manager for the Far east. As part of the duties in that position I prepared Joint Venture Agreements and Subcontracts for projects on which [] was involved, often tendered for contracts in joint venture with [] and on at least one occasion subcontracted work to this Company. The last involvement of this nature was 13 years ago in 1995 in connection with the [] Hydroelectric Project in []. I left the employ [] in 1997 have not had contact with [] since that time and consider that any previous involvement with this Company will not affect my independence should I be selected to serve as a member of the DAB for this Project.

Thank you for this consideration and I look forward to hearing back from you.



JICA
© Toshihiko Omoto 2010

Operation of DB

Three-Party Agreement

- ❑ **Three-Party Agreement**
 - Signatures of the 3 parties
 - ❑ Each Member
 - ❑ Two Parties
 - Assignment of DAB procedures
 - ❑ Retainer Fee
 - ❑ Daily Fee

DISPUTE BOARD AGREEMENT

PROJECT

Employer: _____ Contractor: _____ Member: _____

Whereas the Employer and the Contractor have entered into a contract (Specifically the "Contract Documents" for the "_____")

herein after referred to as the "Contract") and desire jointly to appoint the Member to act as one of the three persons who are jointly called the "DB";

The Employer, Contractor and Member jointly agree as follows:

1. The conditions of this Dispute Adjudication Agreement comprise the "General Conditions of Dispute Adjudication Agreement" and "Procedural Rules" that are in Volume I, Section VII, pages 106 to 114 of the Contract, all other terms of the Contract that apply to the work of the DB, and the following provisions. In those provisions words and expressions shall have the same meanings as are assigned to them in the General Conditions of Dispute Adjudication Agreement.
2. In accordance with Clause 6 of the General Conditions of Dispute Adjudication Agreement, the Member shall be paid as follows:
A retainer fee of _____ per month,
plus a daily fee of _____ per day.
3. In consideration of these fees and other payments to be made by the Employer and the Contractor in accordance with Clause 6 of the General Conditions of Dispute Adjudication Agreement, the Member undertakes to serve, as described in this Dispute Adjudication Agreement, as one of the three persons who are jointly to act as the DB.
4. The Employer and the Contractor jointly and severally undertake to pay the Member, in consideration of the carrying out of these services, in accordance with Clause 6 of the General Conditions of Dispute Adjudication Agreement.
5. This Dispute Adjudication Agreement shall be governed by the law of the Contract.

SIGNED by: _____ SIGNED by: _____ SIGNED by: _____

for and on behalf of the Employer as for and on behalf of the Contractor as the Member

Date: _____ Date: _____ Date: _____



JICA DAB Seminar 2010
© Toshihiko Omoto 2010

Operation of DB - Acquaintance With the Project

First Site Visit

- ❑ **Logistics**
 - Basis: the DB should be seen as a member of the project team
 - Introduction of DB members (The participation of the head office?)
 - Participants' roles in the DB meeting
 - Confirmation of contract documents
 - ❑ Contract Agreement/Conditions of Contract/Bills of Quantities/Drawings/Programme/other relevant documents
 - Secure contract documents for DB
 - ❑ One set of copies on the site
 - ❑ An A-5 sub-sized version for each DB individual
 - Building of communication network
 - Arrangements & Preparations (Arrangement of hotel, vehicles, meeting rooms and equipments)
 - Deciding the date of Site Visits (based on the expected progress of the project)



JICA DAB Seminar 2010
© Toshihiko Omoto 2010

Operation of DB-Acquaintance With the Project First Site Visit (continued)

□ Discovering potential disputes areas

- Seeds of problems planted at bidding, contract negotiation and signing stage
 - Incompletion in the changed or added terms
- Problems appear right after signing of the contract
 - Corporation registration
 - Work permit
 - Issues in relation to local labors or subcontractors
 - Problems of Importing and exporting materials and equipments
 - Delay of preceding construction
 - Delay of drawing issuance
 - Delay in mobilization

□ Establishing Problem Solving Project Team

- for the project
- Documentations (Claims) come later



JICA DAB Seminar 2010
© Toshihiko Omoto 2010

Operation of DB - Acquaintance With the Project Site Visits

- Frequency: Every 3~4 months
- Length-of-stay: No shorter than three days
 - Day 1: Site inspection
 - Day 2: Hearing
 - Employer, Contractor, Engineer
 - The persons concerned besides the parties (If necessary, the subcontractors, the designer etc.)
 - Day 3: Site Visit Report
 - Draft and Review/Correction
 - Signing and Distribution before leaving Site
 - Deciding the date of next Site Visit



JICA DAB Seminar 2010
© Toshihiko Omoto 2010

Site Visit Agenda (6 – 10 July 2008)

Date	Time	Place	Contents	Responsible	Participants
Monday 7	08:00	Hotel	DB picked up to Site I Briefing & tour	Mr. X	DB, Emp, Cont. Eng
	12:30	Site Office	Lunch	Mr. Y	DB, Emp, Cont, Eng
	13:30		Tour to Site II & III	Mr. X	DB, Emp, Cont, Eng
	18:30	Camp Canteen	Dinner & to Hotel	Mr. Y	DB, Emp, Cont, Eng
Tuesday 8	09:00	Hotel	DB picked up to Site I Emp office for meeting	Mr. X	DB, Emp, Cont, Eng, Sub A&B
	12:30	Site Canteen	Lunch	Mr. Y	DB, Emp, Cont, Eng, Sub A&B
	13:30 18:30		Afternoon session & to Hotel	Mr. X	DB, Emp, Cont, Eng, Sub A&B
Wednesday 9	09:00	Hotel	DB picked up to Site office & prepare report		DB
	16:00		Deliver/review of report & to Hotel	DB	DB, Emp, Cont, Eng, Sub A&B



JICA DAB Seminar 2010
© Toshihiko Omoto 2010

Operation of DB-Acquaintance With the Project Work Between Site Visits

- Sending of Documents
 - Monthly reports
 - Main Variations
 - Claim Notices/Submissions
 - Updated Programme
 - Important Letters other than claim related
- Methods of Sending
 - File sending service
 - Opening of ftp:// sites



JICA DAB Seminar 2010
© Toshihiko Omoto 2010

Methods of Sending (Sample)

- Put on to the web site →



- Use file sending service
such as www.yousendit.com etc.

(Not expensive, free up to 100MB)



JICA DAB Seminar 2010
© Toshihiko Omoto 2010

Effects of DB Dispute Resolution

- Disputes that cannot be solved among the parties and engineers are referred to DB (Referral)
- DB being well informed of progress/contractual issues
 - Taking advantage of regular Site Visits
 - Voluminous documents and formal presentation unnecessary (Simple Position Papers suffice)
 - Solves disputes at the site level
 - Legal representatives are unnecessary (Should lawyers be permitted to participate?)
 - Swift decisions
- Claims and disputes will not be left unsolved
 - The progress of construction will not be hindered
 - Disputes will not escalate
 - Collaborative relationship is established and maintained between the parties (for the project)



JICA DAB Seminar 2010
© Toshihiko Omoto 2010

Effect of DB Prevention of Disputes

□ Effects of Site Visits

- The first Site Visit
 - Identifying, and efforts for solving, the problems appeared before and right after the signing of the contract
 - Discovering potential dispute areas and promoting dispute prevention
- Site Visits
 - Discovering problems and efforts for dispute prevention
 - Sometimes technical advices are also available (sensitive to the parties' obligation)
 - Improvement of the relationships (individuals and groups) among the parties, the Engineer and other concerned persons
 - Make use of the influence to the third person (subcontract, designer, relevant government offices and others departments)
 - Helps maintaining parties' integrity



JICA DAB Seminar 2010
© Toshihiko Omoto 2010

Effect of DB Prevention of Disputes (continued)

- DB to be kept informed between Site Visits
 - Sensing the parties' changes in attitude and provide advices about improvement
 - Improving understanding of the contract by Q&A
- Informal/advisory opinion
 - DB obtains the trust on neutrality and fairness through Site Visits etc.
 - Informal/advisory opinions are easy to be accepted.



JICA DAB Seminar 2010
© Toshihiko Omoto 2010

Effect of DB Informal/advisory opinion

□ Informal/Advisory Opinion

- DB is not a consultant
- But, DB may give advice under the parties' mutual agreement
- No binding effect (neither on the two parties/Engineer nor on DB)
- Can become base for negotiations between the parties
- Disputes are settled before escalating
- Is not equal to DRB's recommendation

□ For example

- Incompletion in the changed or added terms: Adjustment of interpretation and making of new draft
- Advice on solution that involves the third party (such as the subcontractor)



JICA DAB Seminar 2010
© Toshihiko Omoto 2010

The cost of DB FIDIC's Explanation

□ Retainer

- If required, a business trip to the Site within 28 days is possible
- DB members are to be conversant with the situation of the site, and maintain the related documents.
- Covers office expenditure and other costs

□ Daily Fee

- Daily fee for site visit
- Days of stay + maximum two days for each way for travel
- Days needed for documents reviewing for the referral

□ Reasonable expenses such as airfare, hotel fee etc.



JICA DAB Seminar 2010
© Toshihiko Omoto 2010

Cost of DB Difference Between FIDIC 1999&MDB Edition

□ About the Retainer Fee During the Warranty period

- 1999: "shall be reduced by 50%"
- MDB: "shall be reduced by one third"

□ About the Retainer/Daily Fee, when no description in the contract, and agreement cannot be reached between the parties

- 1999: No description
- MDB: the "appointing entity/official" may make the decision



JICA DAB Seminar 2010
© Toshihiko Omoto 2010

Cost of DB: ICSID ([International Centre for Settlement of Investment Disputes](http://wwwICSID.org))'s Rule

□ FIDIC: Fee by ICSID can be agreed

Adjudicators Fees
FIDIC does not recommend fees scales for either adjudicators or for the administration for adjudicators. An indication of acceptable terms and conditions is provided by the World Bank's International Center for Settlement of Disputes (ICSID) - see *Memorandum of Fees and Expenses for ICSID Arbitrators*, 8 March 2004 - that applies for members of Arbitral Tribunals constituted under the ICSID Convention.

□ ICSID's Rule: US\$3,000/day

Fees and Expenses of Conciliators, Arbitrators and *ad hoc* Committee Members
3. In addition to receiving reimbursement for any direct expenses reasonably incurred, conciliators, arbitrators and *ad hoc* Committee members are entitled to receive, unless otherwise agreed between them and the parties, a fee of US\$3,000 per day of meetings or other work performed in connection with the proceedings, as well as subsistence allowances and reimbursement of travel expenses within limits set forth in Administrative and Financial Regulation 14.



JICA DAB Seminar 2010
© Toshihiko Omoto 2010

Cost of DB

Payment to DB members

- Retainer
 - Payment of three months in advance
 - If no special mutual agreement, no change for 24 months
- Daily Fee/Actual expenses such as the travel expenses
 - Right after the end of the Site Visit
- Methods of payment
 - The Contractor pays 100% at first
 - Reimbursement of 50% through progress payment
 - In other words, the Employer can pay by loans



JICA DAB Seminar 2010
© Toshihiko Omoto 2010

Cost of DB

Cost-effectiveness

- Project without DB - 1
 - The exchange of letters is a heavy work, hindering problems from being solved
 - Each one pursues his own profit
 - The contracting parties/Engineer don't get along well with each other
 - Claims are left unsolved
 - Tiny disputes may also escalate (global claims, additional problems of interest and exchange rates)
 - Production and assessment of claim packages



JICA DAB Seminar 2010
© Toshihiko Omoto 2010

Cost of DB

Cost-effectiveness (continued)

- Project without DB - 2
 - Production and assessment of claim packages
 - Additional costs for lawyers, experts and employees (for long time)
 - Enormous cost occurs even if there is no litigation or arbitration
 - Disputes arise between the Employer and the Consultant on the additional cost of claim assessment/evaluation work



JICA DAB Seminar 2010
© Toshihiko Omoto 2010

Cost of DB

Cost-effectiveness – (continued)

- Project without DB - 3
 - More enormous cost occurs if disputes escalate into litigation and arbitration (lasts for years)
 - (Example) Japan:
5 lawyers for each side
 - (Example) International:
2 Barristers+3 Solicitors for each side
2 Experts (1 geologist + 1 consulting firm)



JICA DAB Seminar 2010
© Toshihiko Omoto 2010

Cost of DB

Cost-effectiveness (Continued)

□ Projects with DB

- The cost of DB will be no more than the cost estimated by experienced Employer/Engineer and Contractor for production and assessment of claim packages
- Prevention of gambling in contract management, improvement of certainty
 - Prevention of irrational assessment by the Employer/Engineer
 - Engineer acts fairly and reasonably
 - Prevention of the Contractor's unjustified claims
 - Helps maintaining integrity of the parties
 - Stability of bidding price



JICA DAB Seminar 2010
© Toshihiko Omoto 2010

Cases of DB

Cases of DAB, Example of wisdom

□ Water-supply tunnel project in China

- JBIC loans
- 13 times of site visits from Mar 2003 to Mar 2007
- The defect liability period ended in Feb 2008
- **The DAB contract was extended from Mar 2008 to the end of final discharge of all obligation**

□ Selecting of DAB members

- The Employer: A Japanese engineer (FIDIC President's List, advised by Japanese consulting firm)
- The Contractor: An American engineer (DRBF President)
- The Chairman: International construction lawyer (FIDIC President's List, American)
 - Recommended by co-members' agreement
 - Chosen by the agreement between the parties



JICA DAB Seminar 2010
© Toshihiko Omoto 2010

Cases of DB

Cases of DRB, Example of wisdom

□ Port construction project in Madagascar

- World Bank (20%) and private co-financing
- Site visits were discontinued after the third time
- **However, retainer contract being maintained**

□ Selecting of DB members

- Parties agreed to select from FIDIC President List
- The Employer and the Contractor agreed on the selection, with assistance by the Engineer



JICA DAB Seminar 2010
© Toshihiko Omoto 2010

Cases of DB

Cases of DRE (One-person DRB)

□ Japan

- A gas turbine plant operation and maintenance (o/m) contract for 15 years
- Apply DRE (Dispute Review Expert) or One Person Dispute Review Board for the last 10 years
- Meetings are held once every three months
- No retainer fee, but documents review/drafting recommendation etc. will be paid by hourly rate

□ Selecting of the Experts

- A mediation was held on the fifth year of the contract under the ADR rule of ICC
- **After the mediation concluded successfully, the Neutral was selected for the DRE**



JICA DAB Seminar 2010
© Toshihiko Omoto 2010

Practice of Dispute Board

Than you for your
attention

The End



JICA DAB Seminar 2010
© Toshihiko Omoto 2010

Dispute Boards

Resolution and Avoidance of Disputes in Construction Contracts

Dr.Eng. Toshihiko Omoto*

1. Concept and History

Construction contracts are typical of incomplete contracts because it is not possible to describe all contingencies which may, or may not, occur during the course of construction. To cope with those contingencies, most standard forms of construction contracts provide rules for 1) Risk Sharing, 2) Variation (Change) and 3) Dispute Resolution. A mere difference of opinions of the parties in the interpretation of the contract documents often develops to a serious dispute. If the parties fail to settle the dispute by negotiation, they may go to arbitration or litigation. Every party wants to avoid arbitration or litigation because they know arbitration and/or litigation take time and need substantial expenditure. Moreover, in arbitration and litigation, the relationship between the parties gets worse and the project cannot be completed successfully (and someone will lose face in the end!).

The best way to resolve disagreement is to prevent it from becoming a formal dispute. The primary duty of a Dispute Board (“DB”) is to avoid disagreements becoming disputes. Making a decision or “Recommendation” is a secondary role of the DB.

A DB is made up of three (or one depending on the size and complexity of a project) members who are experienced in and knowledgeable about the type of the construction, interpretation of contract documents and the DB process and are absolutely independent and impartial. A DB is set up at the outset of a project and the DB Members are to be given the Contract Documents such as Conditions of Contract, Drawings, Specifications and Programme so that the Members can be conversant with the project. The DB visits the Site regularly, say quarterly, to meet the Site people and to observe the progress and problems, if any, of the project. Between the Site visits, the Engineer or the Parties send the DB Members the Monthly Progress Report, Claim Notices and other important correspondence to keep the Members informed. The DB is part of the construction team who assists the parties in avoiding claims and settling disputes by amicable negotiations. If the parties fail to settle disputes, they are referred to DB for determination. Since the DB members are familiar with the contract documents and the Site operation and progress of the project, it will not take much time to judge the

* Professor, Graduate School of Management, Kyoto University, Head of Center for Research in Business Administration, omoto.toshihiko@nifty.com

dispute. Even if the determination is rejected by one or both parties, it will be the basis for further negotiation in an amicable manner. Thus, the benefit of DB is prevention of disputes and early settlement of disputes without embedding adversarial attitudes.

The concept of DB was established during the use of “a four-person joint consulting board” in the Boundary Dam and Underground Powerhouse Complex Project in the mid-1960s in Washington State and the tunnelling industry first used the DRB (Dispute Review Board) process in 1975 during construction of the second bore of the Eisenhower Tunnel in Colorado. It was an overwhelming success; The DRB heard three disputes during construction and the DRB Recommendations were accepted. All parties were pleased at the end of the project. In 1980 World Bank promoted a DB (then called “Claims Board”) on El Cajon project in Honduras, which was also successful¹. In 1995 World Bank Standard Bidding Document published modified FIDIC² conditions which deleted the usual provision of the “Engineer’s Decision”, giving this task to a DRB.

2. Statistics

The graph, **Fig-1**, shows the statistics of the use of DB from 1982 to 2004. The readers may recognize how DB process has grown over the last decade. Please note that the statistics was made mainly based on the reports from North America and it is assumed that more projects have used DB internationally under FIDIC Conditions of Contract.

In three mega projects, Channel Tunnel/Train/Terminal (UK-France), Hong Kong Airport (HK) and Ertan Hydro Project (PRC), DBs were used successfully.

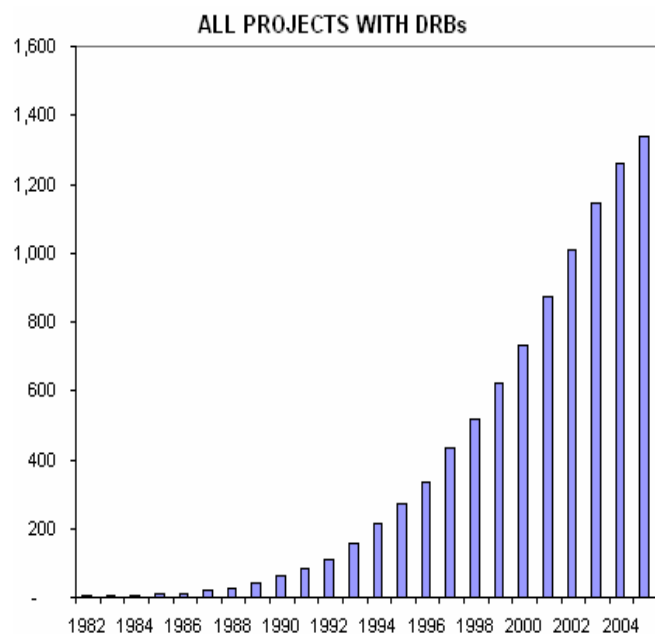


Fig-1

¹ The late Mr. Al Mathews, who was involved in both Boundary Dam and Eisenhower Tunnel projects, persuaded the Contractor and the Government to use a DB in El Cajon project. He was the founder and the first Chairman of the Dispute Resolution Board Foundation (DRBF), Seattle, Washington, USA

² Fédération Internationale des Ingénieurs-Conseils (International Federation of Consulting Engineers)

3. DRB, DAB and CDB

There are three principal types of DBs, the Dispute Review Board (“DRB”), the Dispute Adjudication Board (“DAB”) and the Combined Dispute Board (“CDB”).

(1) DRB

The DRB has been, and is, used in the US widely for these three decades and the dominant form there. Internationally the World Bank also provided for DRBs in the January 1995 and subsequent editions of its Standard Bidding Document, *Procurement of Works*, and continued use until the May 2000 editions, when it adopted the DAB type. The DRB continues in use under ICC Dispute Board Rules. The DRB issues a Recommendation. Either party may express its dissatisfaction with the Recommendation by issuing a notice then the parties may continue negotiations or a party can invoke arbitration or go to court (arbitration is most commonly used in the international business transaction). If no party expresses dissatisfaction within a specified time, the Recommendation becomes binding. It is said that a Recommendation of DRB does not “dictate” to the parties and therefore, is more likely to be the basis for amicable settlement without jeopardizing the parties’ good relationship.

(2) DAB

The DAB issues a decision on the matter of dispute, which is binding on the parties as soon as it is issued. It currently is the most common form of DB used in international construction contracts. The parties must comply with it without delay notwithstanding a party’s expression of dissatisfaction. Depending on the DAB provisions in the conditions of contract, the parties may renegotiate the issues, or the unsatisfied party may invoke arbitration immediately. Even if objected to, the decision of the DAB is binding until and unless the parties agree otherwise or the arbitral tribunal decides differently. Some people argue that DAB is appropriate to the international projects which have multinational business cultures. Both *FIDIC 1999 Conditions of Contract* and *FIDIC MDB (Multilateral Development Banks) Harmonised Conditions of Contract* provide for DAB although a DAB is called simply DB” in the *MDB Edition*.

(3) CDB

The CDB is a unique Board which the ICC³ introduced in 2004. As the name shows, it is a process combining DRB and DAB. The aim of the new creature is to combine the advantages of two basic types of DBs, i.e., DRB and DAB; DRB issues a Recommendation and DAB issues a decision.

³ International Chamber of Commerce, this rule was developed by ICC International Court of Arbitration.
<http://www.iccwbo.org>

The CDB operates normally as DRB. However, a party may sometimes need to have a decision with which the parties will comply immediately even if they wish to challenge it in arbitration. What is such an occasion when a party requires an immediate decision? A party may go into bankruptcy if it does not receive claimed payment immediately. A party wants the other party to stop using its know-how illegally or not in accordance with their licensing agreement because the damage may become irreversible if compliance has to await a long arbitration. A party may be facing an imminent threat that the other party will call a performance bond for a large sum of money, to the immediate and severe detriment of the party which has given the bond.

In deciding whether to use a DAB approach instead of a DRB approach, Sub-Article 6.3 of the ICC Rules provides that the CDB shall consider, without being limited to, the following factors:

- whether, due to the urgency of the situation or other relevant considerations, a Decision would facilitate the performance of the Contract or prevent substantial loss or harm to any Party;
- whether a Decision would prevent disruption of the Contract, and
- whether a Decision is necessary to preserve evidence.

Under the ICC Rules, when a party requests a decision by DAB and another party objects, the CDB has the power to determine whether the reference should be dealt with acting as a DRB or a DAB. The rule is silent as to any time limit by which the Board must determine which process, DRB or DAB, should be applied, but presumably it would be early in the formal dispute procedure.

The readers must have noticed that ICC DB Rules are quite suitable for any type of long term contract such as a licensing agreement, a sole agency agreement etc. because ICC Rules are “stand-alone”⁴ In fact, it is reported that a few contracts in the IT industry have adopted this CDB. Also, the ICC has adopted it for dispute resolution

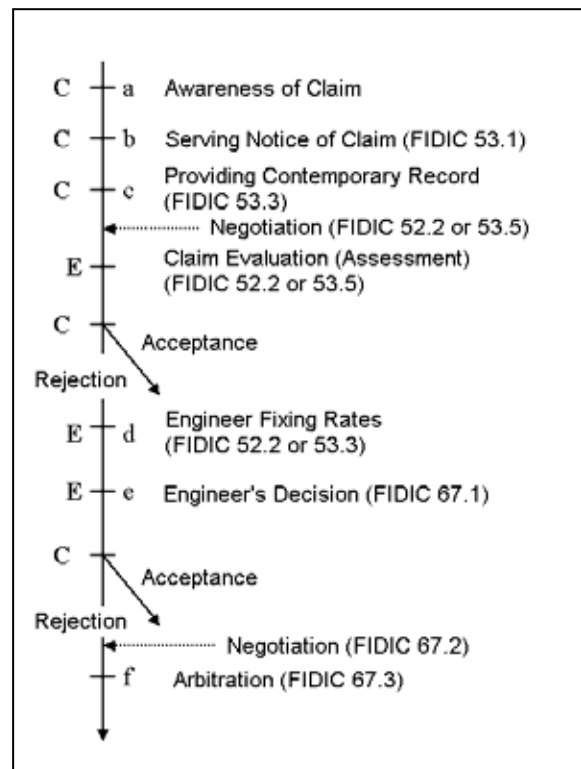


Fig-2: Claim and Dispute Procedure

Under FIDIC Red Book 4th Ed.

⁴ Christopher Koch in his presentation at the DRBF 8th Internat May 2008, used this terminology to compare ICC Rules and FIDIC Conditions of Contract, the latter incorporates DAB rules as integral part of the conditions.

under the ICC Model Form of Major Projects.

4. Engineer's Decision and DAB in FIDIC Conditions of Contract

The Engineer, stipulated in the FIDIC Red Book up to 4th edition 1987⁵, plays two roles (Dual Role); on the one hand he acts on behalf of the Employer as his agent to administer the contract, and supervise the Works, on the other hand, he certifies the progress, fixes the rates and prices of varied works and evaluates claims as an impartial professional (quasi-adjudicator). The Engineer is required to make an "Engineer's Decision"⁶ on a dispute between the Contractor and the Engineer/Engineer's Representative or the Employer (see **Fig-2**). Thus he is expected to facilitate the dispute resolution effectively.

It is often observed in the operation of FIDIC contract that the latter role of the Engineer is not functioning properly and that a dispute goes on to arbitration. This is because the Engineer often is employed by the Employer throughout the project from the outset as a consultant to carry out the feasibility study, designing, preparation of the tender documents and evaluation of each tender to award the contract. It is quite understandable that it is very challenging for the Engineer to play the Dual Role properly; not only has to try to be objective in evaluating possible errors or omissions in the design phase, but also balance his duty to be "impartial" (under the 4th Ed of the Red Book) when acting as Engineer, he must judge his own actions or inactions. Even if his role as Engineer is not the basis of a claim, he nevertheless is in the uncomfortable position of trying to give judgment between two parties: (1) his valued client, the Employer, from whom he may hope to receive further work in the future; (2) the Contractor, who if his claim succeeds may cause delay or cost to that valued client, the Employer. In order to resolve this dilemma, FIDIC has restructured its Red Book as well as Yellow⁷ and Silver⁸ Books in 1999, by replacing the Engineer's Decision with the DAB process.

5. Establishing and Operating a DB

5.1 Timing

It is often the case that the land acquisition of the construction Site has not been finished, that the right of way to the Site has not been acquired, that the Drawings for construction have not been delivered to the Contractor timely, the mobilization of the construction equipment has not been

⁵ *Conditions of Contract for Works of Civil Engineering Construction*

⁶ *Clause 67; Settlement of Disputes*

⁷ *Conditions of Contract for Plant and Design-Build*

⁸ *Conditions of Contract for EPC Turnkey Projects*

complete by the planned date and so on. Thus, problems and difficulties often occur from the very beginning of a project which have adverse effects to the progress of the contract and perhaps the entire project. The purpose of a DB is to prevent formal disputes from arising by helping to resolve disagreements before they escalate to formal disputes, if arise. Therefore, it is obvious that a DB should be established at the outset of a project to fulfil its purpose. Yet, FIDIC 1999 Yellow Book and FIDIC 1999 Silver Book provide for an “ad-hoc” DB, established after a dispute has arisen. From the author’s point of view, the “ad-hoc” DB loses the principal value of the DB concept.

5.2 Qualifications of DB Members

FIDIC Conditions of Contract, ICC Dispute Board Rules and the DRBF⁹ Manual describe similar qualifications or required attributes of DB members. The following are the ones specified in DRBF Manual:

Quote:

When nominating prospective Board members, the contracting parties should recognize the following necessary attributes:

- Complete objectivity, neutrality, impartiality and freedom from bias and conflict of interest for the duration of the contract.
- Dedication to the objectives and principles of the DRB process.

In addition to these attributes, the parties must evaluate the experience and qualifications of the prospective members for the specific project, with respect to:

- Interpretation of contract documents
- Resolution of construction disputes
- The type of construction involved
- The specific construction methods to be used
- The dispute-prone facets of the work

Unquote

Each DB member warrants that he/she meets the requirements for the duration of the contract, and

⁹ Dispute Resolution Board Foundation, Seattle, Washington, USA, <http://www.drb.org/>

shall declare any change which may arise.

5.3 Selection of DB Members

According to FIDIC 1999 Red Book, each of the parties shall nominate one member for the approval of the other party. The parties shall consult the selected two members and shall agree upon the third member who shall become the Chairperson. In addition to the required attributes described above, the Chairperson shall have the ability of running effective meetings in difficult situations.

Where to find a potential DB member? FIDIC provides for the List of President's Approved Dispute Adjudicators which is on its website¹⁰. Upon request, DRBF and ICC also will nominate or appoint DB members. The IDRC (International Dispute Resolution Centre) in Dublin, Ireland (part of the American Arbitration Association) has a list of persons suitable for DB work, as does the DBF (Dispute Board Federation). So, also, do the Institution of Engineers of Ireland and the UK ICE (Institution of Civil Engineers).

6. Cost of a DB

The costs for the DB process consist of two parts, one of which is the remuneration and reasonable expenses of the DB members and these costs are to be shared equally by the parties. The remuneration consists of the Monthly Retainer and Daily Fee. According to the General Conditions of Dispute Board Agreement of the FIDIC Red Book, a Retainer Fee per calendar month shall be considered as payment in full for, (i) being available on 28 days' notice for all Site visits and hearings; (ii) becoming and remaining conversant with all project developments and maintaining relevant files; (iii) all office and overhead expenses including secretarial services, photocopying and office supplies incurred in connection with his duties. A Daily fee shall be considered as payment in full for, (i) each day or part of a day up to a maximum of two days' travel time in each direction for the journey between the Member's home and the Site, or other location of any other meeting with the other Members; (ii) each working day on Site visits, hearings or preparing decisions; and (iii) each day spent reading submissions in preparation for a hearing.

Also, typically the Contractor provides local transportation for the DB to the Site, and if the Site is remote, will provide the DB with Site accommodation and meals, and the cost of this shared with the Employer. Recovery of the Employer's share typically is accomplished by including it in the next monthly progress invoice, or if there are stage payments, then by a separate invoice.

The other part is the costs to be incurred by the parties themselves. The Contractor shall pay for the costs of travel and accommodation for the company's staff to participate in the DB Site visits. If a

¹⁰ <http://www.fidic.org/>

referral is made and hearing is to be held, the Contractor shall pay for costs for preparation of position papers, the costs for obtaining the experts' opinion, if necessary, costs for the travel and accommodation of their company's staff and their experts to participate in or attend the hearing to be held at the Site. (Normally, legal counsel do not participate in DB hearings.) The Employer shall pay for the similar costs of its participation in the process, including those relating to the Engineer, who typically has a large involvement, including drafting Employer written submissions, arranging to obtain experts' opinions, and assisting at any hearing.

7. Conclusion

Too often, even though the contract calls for a DB, the parties see the DB as "too expensive" and because they have no disagreements at the beginning of the contract (the parties being "newly weds") so they postpone establishing the DB and say "We will establish the DB if we have a dispute which we cannot settle by friendly discussion." Or they establish the DB but insist that the DB Site visits be only annually, instead of quarterly, so they can "save money". These attitudes reflect lack of experience in use of DBs and lack of understanding that a properly established and maintained DB is one of the most valuable economies they can accomplish.

What happens if there is no DB? Typically when claims become serious disputes, both the Contractor and the Engineer begin exchanging elaborate claims documents, typically prepared with the help of consultants such as claims consultant companies, experts in delay analysis, independent specialists such as geologists or geophysicists, consulting quantity surveyors, and lawyers (both those internationally prominent and local lawyers of the country of the contract). All of these are expensive helpers! Those used by the Engineer of course are paid for ultimately by the Employer.

Preparation of these documents takes more than money, it takes a lot of time. Inevitably the documents must be reviewed by the parties' managements. Meetings to review and discuss the documents of both sides will be held, week after week, month after month, as the parties struggle with each other for victory without having to go on to the further expense and delay of arbitration. Typically, the struggle will continue even after construction has been completed. The Employer will have to keep staff of the Engineer working longer than the case if claims had been resolved by the time construction was complete. Similarly, instead of being able to release all staff to other projects, the Contractor has to keep its key Site staff involved, and if its camp has been demobilized, may have to find commercial office space, and may have to find rental accommodation locally for its claim staff. It is likely that some if not all of the experts who have assisted the parties in preparing the claims documents will be involved in these meetings. As with document preparation, if the

experts are from outside the project country, significant transportation and accommodation costs are involved in attendance at meetings. Further, if eventually success is obtained in negotiating an amicable settlement, a very large amount of senior management time will have to be devoted to those negotiations. Sometimes it is even necessary to employ a mediator to assist the parties, and to avoid arbitration.

Obviously, it is very difficult to budget for these costs. By contrast, a DB can be planned for and budgeted from the outset.

So let us turn to what happens if a DB is established at the outset and operated properly. The DB will be familiar with the contract from inception, and from its Site visits plus reading of regular written reports received between Site visits, the DB will be familiar with the progress of the construction. From experience on similar projects elsewhere, the DB will be alert to the principal areas of risk and potential problems. The DB will have the experience to assist the parties in avoiding conflict, and when disagreements do arise, in guiding the parties so that amicable settlement is achieved without elevating the disagreements into formal disputes. The most successful DBs are those which never have to deal with formal written submissions and hold hearings. Instead, using papers already in the hands of the persons doing the day-to-day management of the contract, and informal discussions, they can guide the parties to mutually acceptable resolutions. Typically, only the Site management staffs are involved with the DB, and the involvement of senior management of the parties is not required to reach resolution of disagreements on Site.

If for some reason a particular disagreement unavoidably becomes a formal dispute, the DB will be resolved to reach its own decision on the dispute quickly, and will control the production of documents to keep them to a minimum, keep any hearing to the minimum duration necessary to give each party a fair hearing, and then will prepare its decision under a time limit to which they are bound by their contracts with the parties. They will seek to give a unanimous opinion, and even if it is not fully acceptable to both parties, it very often forms the basis for further discussions and negotiations between the parties and leads to a settlement without either party initiating arbitration. Also, typically in contracts with DBs, all disagreements arising during construction will be resolved by the time construction is complete.

Clearly, the cost of a DB is a *saving* compared to the traditional end-of-the-contract battles over massive claims documents (and counter-claim documents!) dragging on many months after construction is complete.

Japan International Cooperation Agency(JICA)

DAB (Dispute Adjudication Board) Seminar
Colombo, Sri Lanka

Adjudication/ DAB practice in Sri Lanka

Speaker:

Tilak P. Kolonne

B.Sc (Hons), DipArb, FRICS, FIQSSL, ACI Arb
Chartered Quantity Surveyor, Arbitrator, Adjudicator

Director
VFORM Consultants Private Limited
23/1, 5th Lane, Nawala, SRI LANKA.

Email: tpk@vformconsultants.com
tilakkolonne@yahoo.com

Telephonne : 00 94 777 957 288
00 94 114 895 500

1/02/2010












ADJUDICATION/DAB PRACTICE IN SRI LANKA

Generally

- Presentation is generally based on ICTAD/SBD/02 (January 2007) and FIDIC 1999 Conditions of Contract (Construction) unless otherwise mentioned.
- ICTAD/SBD/02 is based on FIDIC 1999 Conditions of Contract (Construction).
- Adjudicator
- DAB
- ANB (Adjudicator Nominating Body)
- Referring Party/ Claimant
- Responding Party/ Respondent

ADJUDICATION/DAB PRACTICE IN SRI LANKA


Current Practice


-  Contractual Provisions
-  Appointment of Adjudicator
-  Practical experience as Adjudicator/ DAB member/ consultant to party
 -  Disagreement of parties in appointment
 -  Reluctant party
 -  Parties' inability to meet deadlines
 -  Lack of proper records/Dispute not apparent or crystallized
 -  Giving immediate effect to the decision
 -  Negotiated settlement
 -  Employers' positive attitude
-  Future trends

ADJUDICATION/DAB PRACTICE IN SRI LANKA

Contractual Provisions

ICTAD Conditions of Contract- SCA/1 (Now superseded)

 Engineer 's decision

 Arbitration

Note: There is no a provision for 'amicable settlement'



ADJUDICATION/DAB PRACTICE IN SRI LANKA

ICTAD Conditions of Contract – ICTAD/SBD/02 (January 2007)

➡ Engineer's Determination (Sub-Clause 3.4)

➡ Adjudication (Sub-Clause 19.2 to 19.4)

➡ Amicable settlement ?

FIDIC

SBD 2

➡ Arbitration (Sub-Clause 19.5)



ADJUDICATION/DAB PRACTICE IN SRI LANKA

ICTAD/SBD/02

Contract Data

Clause 19.4

Within 84 Days after receiving such reference, or within such other period as may be proposed by the DAB and approved by both Parties, the DAB shall give its decision, which shall be reasoned and shall state that it is given under this Sub-Clause. The decision shall be binding on both Parties, who shall promptly give effect to it unless and until it shall be revised in an amicable settlement or an arbitral award as described below. Unless the Contract has already been abandoned, repudiated or terminated, the Contractor shall continue to proceed with the Works in accordance with the Contract.

Provision for amicable settlement not given
Omission??

[back](#)

ADJUDICATION/DAB PRACTICE IN SRI LANKA

FIDIC 1999 (Construction)

20.5

Amicable
Settlement

Where notice of dissatisfaction has been given under Sub-Clause 20.4 above, both Parties shall attempt to settle the dispute amicably before the commencement of arbitration. However, unless both Parties agree otherwise, arbitration may be commenced on or after the fifty-sixth day after the day on which notice of dissatisfaction was given, even if no attempt at amicable settlement has been made.

[back](#)

ADJUDICATION/DAB PRACTICE IN SRI LANKA

Appointment of Adjudicator

- Reference to adjudicator giving 7 days notice to other party
- The Adjudicator shall be appointed by agreement between parties
- If not appointed by Parties within 14 day then either party can request ICTAD to appoint
- ICTAD shall appoint Adjudicator



ADJUDICATION/DAB PRACTICE IN SRI LANKA

Appointment of Adjudicator

- ICTAD acts as ANB (Adjudicator Nominating Body)
- ICTAD being a State body acting as ANB
- Use of professional bodies as ANB , ie. IESL, SLIA, IQSSL



ADJUDICATION/DAB PRACTICE IN SRI LANKA

Practical experience as Adjudicator/ DAB member/ Consultant to party

- ➔ Disagreement of parties in appointment/ reluctant party

Case 1 – Dispute related to termination of contract by employer
Speaker's role: consultant to contractor

- Road project
- Employer is a body in Southern Province
- Contractor is a private contractor
- Employer agreed with Adjudicator named by contractor
- But Employer reluctant to sign DAB agreement
- Claimant wants to proceed even in the absence of the other party, claimant ready to pay full fee



ADJUDICATION/DAB PRACTICE IN SRI LANKA

- ➔ Disagreement of parties in appointment/ reluctant party

Case 1

- Adjudicator is of the view that he will be seen bias if he proceeds with one party
- Adjudicator resigned as there is no provision in the Contract to proceed with one Party

New SBD 02 provides...

- Claimant proposed second Adjudicator
- Employer again agreed in principle, but again reluctant to sign Adjudication agreement
- Then, Claimant gave 21 day notice of Arbitration nominating the Arbitrator



ADJUDICATION/DAB PRACTICE IN SRI LANKA

ICTAD/SBD/02

Contract Data

Procedural Rules (Clause 7)

7. Except as otherwise agreed in writing by the Employer and the Contractor, the DAB shall have power to adopt an inquisitorial procedure, to refuse admission to hearings or audience at hearings to any persons other than representatives of the Employer, the Contractor and the Engineer, and to proceed in the absence of any party who the DAB is satisfied received notice of the hearing; but shall have discretion to decide whether and to what extent this power may be exercised.

[back](#)

ADJUDICATION/DAB PRACTICE IN SRI LANKA

➡ Disagreement of parties in appointment/ reluctant party

Case 1

- Also gave notice if Employer fail to appoint their Arbitrator, application will be made to High Court for suitable appointment as per Arbitration Act
- Then Employer sent a letter and cooperated with Adjudication proceeding
- Reference to Adjudication was made in January 2009
- Decision is expected in January 2010



ADJUDICATION/DAB PRACTICE IN SRI LANKA

➡ Parties' inability to meet deadlines/ lack of proper records/ dispute not apparent or crystallized / negotiated settlement

Case 2 – Dispute related to unpaid amounts on variation and claims

Speaker's role: Consultant to Contractor

- Project is a Stadium
- Employer is a State body related to Sports
- Contractor is a private Contractor
- Dispute was related to variation and disruption claim
- In preliminary hearing Claimant agreed to submit Statement of Claim by a certain date



ADJUDICATION/DAB PRACTICE IN SRI LANKA

➡ Parties' inability to meet deadlines/ lack of proper records/ dispute not apparent or crystallized / negotiated settlement

Case 2

- When preparing the Statement of Claim he found records insufficient or records were not in order, difficulty to establish the “dispute” by records
- Statement of Claim was submitted 2 days late knowing it is not complete
- Adjudicator sent a list of queries to reply with a deadline
- Claimant was struggling to find the records and requested one week extension
- Claimant himself could not meet deadline
- Arrived at a negotiated settlement



ADJUDICATION/DAB PRACTICE IN SRI LANKA

Conditions of Contract for Design, Build and operate projects (Gold Book) First Edition 2008

Sub-Clause 1.1.3.1

“Dispute” means any situation where (a) one Party makes a claim against the other Party; (b) the other Party rejects the claim in whole or in part; and (c) the first Party does not acquiesce, provided however that a failure by the other Party to oppose or respond to the claim, in whole or in part, may constitute a rejection if, in the circumstances, the DAB or the arbitrator(s), as the case may be, deem it reasonable for it to do so.

[back](#)

ADJUDICATION/DAB PRACTICE IN SRI LANKA

➡ Lack of proper records

Case 3-Dispute as to whether there is a variation to the contract
Speaker's role: Adjudicator

- Road project funded by a Japanese Bank
- Employer is a body in Uva Province
- Contractor is a private Contractor
- Claimant's claim is additional cost due to the variation
- Employer defended by saying no instruction given for variation, but maintained the position that change was allowed at requested of the Claimant for his convenience
- Claimant failed to provide evidence of an instruction due to lack of proper records



ADJUDICATION/DAB PRACTICE IN SRI LANKA

➡ Giving immediate effect to the decision

Case 4-Various disputes
Speaker's role: DAB member

- Road project funded by a Japanese Bank
- Employer is a State body
- Foreign Contractor
- Full term DAB
- Up to now DAB has decided on five disputes
- Employer used to seek legal advice before giving effect to the decision



ADJUDICATION/DAB PRACTICE IN SRI LANKA

Future trends

- Standard form of sub contract with Adjudication provisions
- Construction Industry Development Act with Adjudication provisions
- Mediation (as an option) prior to Adjudication
- Training and Research



Thank You

DAB セミナーにおける質疑応答（カンボジア）

1. 日時：2009 年 11 月 19 日、14：00 - 17:15
2. 場所：Phnom Penh Hotel, Cambodia
3. 出席者：77 名
4. 質疑応答内容（Q：質問、A：回答、C：コメント）：

Q1：DB のコストは工事契約金額の何%位になるのか。

A1：DB のコストは、工事の内容や規模によって大きく変わるので一概に何%と表すことは困難である。

Q2：arbitration, mediation, conciliation, litigation, DB の違いは何であるか。

A2：mediation や conciliation では、recommendation が出される。これに対して、arbitration では enforceable な decision が出される。litigation での判決は、他の国の法廷（court）では有効とはならないが、arbitration での decision はニューヨーク条約に加盟している国（144 カ国）で enforceable となる。arbitration での decision は法廷においてその有効性を確認することができる。DB も decision を出すが、これはその decision を何れかの契約当事者がそれを不服として arbitration への申立て通知をしない限り enforceable である。

Q3：DB の decision は arbitration の decision に比べて enforceability は小さいということか。

A3：DB の decision は先に述べたように temporarily binding である、という意味から enforceability は小さい。

Q1：どのような人が adjudicator になれるのか。

A1：紛争解決を独立した立場で実施した経験が必要である。現在 FIDIC には約 50 名の adjudicator (FIDIC President List)が登録されているがこれでは足りないため、adjudicator を増やす必要があり、FIDIC では MA (Member Association)において adjudicator を登録制度を運用することを勧告している。

Q4：クレームや紛争は通常どのような原因が多いのか。

A4：様々な原因があるが、代表的なものとして、Employer からの土地の引き渡しの遅れ、unforeseen physical conditions（特に地下工事における地質の問題）、工事中の法制度の変更などがある。建設契約は不完全契約（incomplete contract）とも呼ばれ、契約中の不確実性が高い契約であるので、クレームの発生を避けることは難しい。

Q5：DAB の導入に対して、JICA は何らかの支援を行う予定であるのか。

A5：現時点ではコミットできないが、今回の調査においてどのような支援が可能であるのかを検討する。

以上

DAB セミナーにおける質疑応答（ベトナム）

1. 日時：2009 年 11 月 24 日、14：00 - 16:10

2. 場所：Daewoo Hotel, Hanoi, Vietnam

3. 出席者：150 名

4. 質疑応答内容（Q：質問、A：回答、C：コメント）：

C：プレゼンテーションによる説明により、DB には紛争に対する解決機能だけではなく、紛争の予防機能にメリットがあることが確認できたと思われる（JICA）

C：スリランカでは、DB は mandatory となっており、ODA 案件でも採用されている。因みにスリランカ人の adjudicator の fee は 300 USD/day 程度である。

Q1：ベトナムでは adjudicator の費用のシェアリングは法律上許容されないのではないかとと思われる。

A1：例えば、日本や米国では arbitration に要した法律家の費用は折半される。その他の直接経費については、敗訴した側が負担する

Q2：DB の活動に対して、契約当事者が非協力的な場合はどのようにしたらよいか。

A2：そもそも DB は契約両当事者の協力なくしてはうまく機能しないものである。発注者が非協力的であればもともと DB を契約条件に入れないほうがよいのではないかと。

Q3：DB を設置した場合にエンジニアの決定は必要なくなるのか。

A3：セミナー資料のフローチャートにあるように、クレームに対して、先ずエンジニアは determination を行う。この determination は fair なものでなければならない。この determination に契約当事者が不服な場合に紛争となり、紛争は DB に付託され、DB は decision を下す。FIDIC MDB 版においてもエンジニアの determination は従来通り行われる。

Q4：DB はベトナムの法律上、受け入れられない。

A4：他の国でも同じだと考えるが、仲裁判断と裁判の判決に法的拘束力を与えている。DB は契約的なメカニズムで効力を発生するが、裁定に不服な当事者が仲裁や裁判へ行くことを妨げるものではないので、法的に抵触するとは考えられない。

以上

DAB セミナーにおける質疑応答（バングラデシュ）

5. 日時：2010 年 1 月 28 日、14：00 - 17:00

6. 場所：Pan Pacific Sonargaon, Dhaka, Bangladesh

7. 出席者：53 名

8. 質疑応答内容（Q：質問、A：回答、C：コメント）：

Q1：DAB の裁定期間である 84 日については、プロジェクトの規模によって調整すべきではないか。

A1：プロジェクトの規模によって考慮すべきは、DAB の人数であろう。小規模案件であれば、人数は 1 人でも良いが、1 人のアジュディケーターによる裁定により拘束されることを嫌うということが容易に想定される。その場合は DAB ではなく DRB として、DRB の勧告を契約当事者が受け入れるか否かを決定できる余地を残すことが推奨される。

Q2：DAB の支払は先ず請負者が 100%支払うということであるが、DAB の判断にバイアスがかかるというようなことはないか。

A2：最終的に請負者は DAB への支払額の 50%を発注者に請求するので、バイアスがかかることは考えられない。

Q3：片務性の強い契約によりバングラデシュでも紛争が増加している。DAB が成功するためには、JICA のような国際援助機関による裁定人の研修や育成が必要であると考ええる。

A3：本日の JICA 主催によるセミナーは DAB の理解を深めるための研修機会である。また JICA では、アジア諸国の円借款案件実施機関の職員を対象に FIDIC 契約研修を今後数回に渡り実施することを計画している。

C1：バングラディッシュでは CPTU (Central Procurement Technical Unit)が標準契約書を起草している。バングラディッシュにおける DAB の普及のためには CPTU の契約約款に DAB を導入することが促進策となると思われる。

Q4：DAB メンバーの選定について、実際にはより具体的なクライテリアを定める必要があるのではないか。

A4：DAB メンバーの選定は契約当事者の裁量で定めることができる。プロジェクトの特徴に応じて決めることが望ましい

Q5：DAB の裁定に不服な場合、紛争を裁判に持ち込むことはできるのか。

A5：先ず、国際契約では通常、紛争は裁判ではなく仲裁により最終的に決定されることが規定される。仲裁の裁定は、ニューヨーク条約に加盟している他の国においても法的

効力をもつ。他方、裁判による判決は他国では法的効力はない。国際商事において仲裁が一般的であるのはこの点によっている。仲裁が契約に規定されている場合、DAB から仲裁をスキップして裁判に持ち込めるかどうかであるが、これは国の法律にもよる。日本の場合は、裁判に持ち込んだ場合に裁判所からは、裁判所は裁判管轄がなく仲裁で解決すべき、との答えが返ってくるだろう。

Q6： DAB の裁定期間である 84 日は短縮できるか。

A6： 英国では DAB（statutory adjudication）の裁定を経ずしては、アジュディケーションや仲裁に行くことができないが、この場合の裁定期間は 28 日である。この裁定はしばしば rough justice と呼ばれている。なぜならば、28 日間という短期間では、アジュディケーターは詳細な検討が難しいであろうからである。しかしながら、英国ではこのシステムがうまくいっており、仲裁件数は大きく減少している。従って、84 日のある程度は短縮することはできるであろう。

以上

DAB セミナーにおける質疑応答（スリランカ）

1. 日時：2010 年 2 月 1 日、14：00 - 17:10

2. 場所：Hilton Colombo Residence, Colombo, Sri Lanka

3. 出席者：105 名

4. 質疑応答内容（Q：質問、A：回答、C：コメント）：

Q1：スリランカ国内のローカルルールにおいても本日のセミナーで説明のあったものと
同様な DB のプロセスが規定されている。しかしながら、ad-hoc DB において期待さ
れた便益がもたらされないことをしばしば経験している。

A1：DB の最大の利点は standing DB により最大限発揮される。他の ADR は紛争が発生
してから設置されるのに対して standing DB は建設開始時から設置され、紛争の予
防機能を持っている。FIDIC Yellow Book や FIDIC Silver Book では ad-hoc DB が
採用されているが、2008 年に出版された Gold Book (Design, Build and Operate)で
は standing DB が採用されている。また、FIDIC は Yellow Book と Silver Book の
改訂版において ad-hoc DB から standing DB に変更することを検討中であるやに聞
いている。

Q2：スリランカでは、法廷においてアジュディケーターの決定は法的効力はない。何か手
立てはあるのであろうか？

A2：その通りであり、アジュディケーターの決定は契約上の効力はあるものの、直接的に
法廷では効力を持たない。現在審議中の Construction Industry Development Act が
発効すれば、アジュディケーターの決定が法的効力を有するようになるかもしれない。

Q3：67.2 条における、和解協議がない場合の仲裁開始のタイミング（仲裁意図表明後 56
日以降）は長すぎるのではないか？

A3：同感である。和解協議がない状態では、56 日は無駄な時間となる可能性が大きい。
機会があれば、FIDIC の契約委員会とこの問題について話し合いたいと思っている。
その一方で、和解の協議は当事者により何時でもできる。例えば、仲裁中に和解協議
を並行して実施し和解に至るということもある。

Q4：DB は契約の規定を超越して裁定を下すことができるか。例えば、物価変動条項がな
い場合に、新たに調整式を作るといようなことが行えるのか？

A4：DB の裁定はあくまで契約と事実に基づいて下されるべきであり、契約を超越した判
断を下すようなことは無い。但し、DB は、契約当事者の合意を促すために、契約当
事者双方からそれを求められれば、契約を超えた範囲で勧告をだすことはあり得ると
考える。

C1： 紛争の解決には、DB のプロセスを通して全てのステークホルダーが公平の精神をもって行動することが重要と考える。本日、JICA がこのようなセミナーを開催したことは大変意味のあることであるとする。

Q5： DB の裁定に対して一方の当事者が不服である場合、他の当事者はどのように行動すべきであるのか？

A5： 両当事者は、DB の裁定に拘束されることに留意する必要がある。拘束されることを拒否することは、**bad business practice** であるが、そのような場合に他の当事者は、拘束を無視すること自体を、仲裁で争うことが可能である。

以上

円借款案件実施機関との面談記録（PAS）

1. 日時：2009 年 11 月 19 日、17:30 - 18:15
2. 場所：Phnom Penh Hotel, Cambodia
3. 参加者：PAS (Port Authority of Sihanoukville)
Mr. Lou Kim Chhun (総裁)
Mr. Souk Kol Chenda (Project Administrator of PMU)
Mr. Sam Sopheap (Project Accountant of PMU)
JICA
大木扶由子（調達管理課）
JICA 調査団
大本俊彦（京都大学）、林幸伸（日本工営）
4. 面談内容：
 - 1) （PAS ではこれまで契約紛争の経験はあるかとの問いに対し）、お互いに不満のある状況は発生したが、大きな紛争に発展した経験はない。
 - 2) 日本のコントラクターやコンサルタントは、問題を友好的に解決しようとする姿勢があり大きく評価している。そのような意味から DB の必要性はあまり感じないが、C 国のコントラクターの案件などでは有効に機能するかもしれない。
 - 3) 15 億円程度の工事契約で、通常コンサルタントの費用は 8%～9%程度である。DB の費用が 1.2%～1.3%であるなら合理的であるかもしれない。この場合、DB の費用を捻出するために、コンサルタントの費用を減ずることを検討するかもしれない。
 - 4) 通常、クレームや紛争の提起者はコントラクターである。その解決のために、発注者が DB の費用を半分負担するのは合理的ではないという感じをもつ。
 - 5) 現在実施中のシアヌークビル SEZ 開発では契約で DB を設置する規定となっており 2009 年 10 月に着工されているが現時点では未設置である。将来案件（多目的ターミナル整備事業）で DB の費用を試験的に無償で賄うというシナリオが考えられるかもしれない。
 - 6) DB はカンボジアにとって新しい制度であるので、その導入には MOEF (Ministry of Economy and Finance)の合意が必要となると思われる。

以上

円借款案件実施機関との面談記録（PPWSA）

1. 日時：2009 年 11 月 20 日、8:15 - 9:30
2. 場所：PPWSA 事務所、Phnom Penh
3. 参加者：PPWSA (Phnom Penh Water Supply Authority)
Mr. Samreth Sovithia (Director of Planning and Technical Department)
JICA
大木扶由子（調達管理課）
JICA 調査団
大本俊彦（京都大学）、林幸伸（日本工営）
4. 面談内容：
 - 1) 現在、ニロータ水道事業を実施中であるが、Intake と原水パイプラインはフランスの援助、浄水場、ポンプ場、配水パイプラインは JICA の円借款で行っている。
 - 2) JICA ポーションの工事契約は、現在既に入札中である。従って、JICA が検討している DB 支援の対象にはなりにくいと考えられる。契約書は、世銀のデザインビルド用の約款が使用されているものと思われる。契約では紛争解決の方法として adjudicator への紛争の付託が規定されている。（調査団注：この Adjudication システムはイギリスの Statutory Adjudication と類似している。）
 - 3) カンボジアでは、DB はまだ馴染みが薄いですが、裁判外紛争解決方法（ADR）が政府から勧告されているところであり、ローカルの調達書ではこれに準じた規定が盛り込まれている。DB の普及には、MOEF (Ministry of Economy and Finance) の理解が必要となると思われる。
 - 4) プロジェクトの円滑な実施と成功のためには当事者（発注者、コントラクター、コンサルタント）のチームワークが重要である。それぞれが抱える問題を、相互に解決しようとする姿勢があれば紛争の半分は回避できるのではないか。日本のコンサルタント、コントラクターとプロジェクトをしている限り、問題はないが、たとえばヨーロッパ、韓国や中国が参加してきたら DB が必要になると思われる。

以上

円借款案件実施機関との面談記録（EdC）

1. 日時：2009 年 11 月 20 日、10:15 - 11:30
2. 場所：EdC 事務所、Phnom Penh
3. 参加者：EdC (Electricite du Cambodge)
Mr. Chan Sodavath (Deputy Managing Director, Planning and Techniques)
Mr. Chhim Man (Head of PMO)
Mr. Im Songtech (Deputy Chief of High Voltage Section
JICA
大木扶由子（調達管理課）
JICA 調査団
大本俊彦（京都大学）、林幸伸（日本工営）
4. 面談内容：
 - 1) カンボジアでは DB はまだ普及していない。紛争解決には、法律家や National Audit Authority が関与することがある。

（調査団）DB Process は arbitration や litigation のような法的紛争解決手続きではなく、契約的手続きであるのでほとんどの法治国家において受け入れられるものであると信じている。
 - 2) EdC が実施しているプロジェクトは規模が小さいので、予算確保の観点から DB は馴染みにくいと思われる。Engineer による決定で十分ではないかと思われる。大型の案件では、DB は発注者にとっても良いシステムとして機能するかもしれない。

（調査団）十分理解できる。
 - 3) 大型の水力発電事業は、BOT ベースで実施されているので、DB の採用は各 SPC の裁量次第となる。

（調査団）SPC とコントラクターとの契約において DB が利用可能。
 - 4) DB 費用を合理化するためには、一つの DB が、複数の案件を同時に対応すること、また、一人 DB（one-person DAB/DRB）などが考えられる（調査団）。

以上

円借款案件実施機関との面談記録（MPMU）

1. 日時：2009 年 11 月 23 日、9:30 - 11:00
2. 場所：MPMU (Major Project Management Unit), Hanoi
3. 参加者：MPMU
Mr. Nguyen Sy Bao (Director)
Mr. Pham Dinh Tuan (Vice Director)
Mrs. Hien (Deputy Head of General Planning Dept.)
JICA
坂井完（JICA ベトナム事務所）、大木扶由子（調達管理課）
JICA 調査団
大本俊彦（京都大学）、林幸伸（日本工営）
4. 面談内容：
 - 1) DB は新しい紛争解決手法であるため、その採用に当たっては、発注者にとってどのような利益があるのかが明確である必要がある。（MPMU）

発注者にとっての便益を、数量的に表すのは困難である。仮定の話はできるがあくまで仮定となってしまう。しかしながら、紛争の多い欧米では、DB は発注者にとっても有益な手法として普及している。DB の利点は、工事の完成前に紛争を短期間に処理することにある。これは JICA にとってもディスバースメントを促進する観点から歓迎される。紛争が仲裁や裁判に発展した場合、解決までには多大な時間を要し、結果として発注者は膨大な費用を負担することになる。（調査団）
 - 2) DB 費用の発注者負担分の支払方法は、建設契約の BoQ の中に Provisional Sum として金額を確保し、そこから支払う方法が考えられる。この場合、発注者は別の予算を準備する必要はなくなる。請負者負担分については、請負者は DB に係る想定費用を契約金額の中に見込んでいるであろうことから、結果として DB 費用は全額発注者が負担することになると考えられる。（調査団）

DB を導入する場合、その費用は少なくともローンでカバーされる必要があると考える。クレームの大半は請負者から提起され、DB の費用は事実上発注者が全て負担することになるため、発注者にとっての利益を明確化することは大変重要である（MPMU）
 - 3) ベトナムの legal framework は先進国のものとは大きな違いがあり、DB の導入には legal framework を確立する必要があると考えられる。ベトナムの Law on Construction においても DB は規定されていない（MPMU）

多くの国で、仲裁法や裁判規則が定められているが、DB がこれらの制度に相反したり抵触したりすることはないのではないか。DB の決定の効力は契約に基づく合意事項であり、DB の決定を不服として **arbitration** や **litigation** に発展する場合は、最終的な法的な拘束力を持つものではない。(調査団)

- 4) MPMU はハノイ市人民委員会 (Hanoi Peoples Committee) の下にあり、MPMU が自律的に決定できないことも多い。現状においても、紛争解決のプロセスに人民委員会が介入したり、**Engineer** の決定を認めないというケースがある。DB の採用についても MPMU が独自に決めることは難しい。(MPMU)

- 5) **Engineer's decision** と **DB decision** との相違は何か。(MPMU)

従来の FIDIC 契約条件書では、**Engineer** は発注者のエージェントである一方で **impartial** な役割をも併せ持つという立場にあった。この状況は、しばしば **impartial** な決定を阻害する要因となり得る。対して DB は、発注者と請負者の双方が相互の合意のもとで選定し、支払も両者からなされるものであり、完全な **impartiality** が確保されている。(調査団)

- 6) DB メンバーの国籍はどのように考えればよいのか (MPMU)

FIDIC では国籍について、規定やガイドラインは設けていない。発注者と請負者が自らの国籍を有するメンバーを推薦し、3 人目 (議長) は他の国籍とする、若しくは、3 名とも他の国籍とするなど、自由である。職業的な専門性については、2 名をエンジニアとし議長を法律家とすることが比較的多い。メンバーの選定にあたって注意すべきは、何れのメンバーも特定の契約当事者の **advocate** (弁護士・代理人) では無いということである。(調査団)

以上

円借款案件実施機関との面談記録（MPI）

1. 日時：2009 年 11 月 23 日、13:30 - 15:00
2. 場所：MPI (Ministry of Planning and Investment), Hanoi
3. 参加者：MPI

Mr. Dang Huy Dong (Vice Minister)

Mr. Le Van Tang (Director General, Public Procurement Agency)

Mr. Nguyen Xuan Dao (Deputy Director, Public Procurement Agency)

Ms. Vu Quynh Le (Director, Center for Procurement Support)

Mr. Nguen Hoang Linh (Foreign Economic Relations Dept.)

JICA

坂井完（JICA ベトナム事務所）、大木扶由子（調達管理課）

JICA 調査団

大本俊彦（京都大学）、林幸伸（日本工営）

4. 面談内容：

- 1) PMI では本年 5 月に HCMC で開催された DBF (Dispute Board Foundation)主催の DB セミナーに数名を参加させた。DB については、紛争の解決機能だけではなく、紛争の予防機能を有していることに大いに注目しており、発注者に大きな便益をもたらすものと確信している。中国においては、香港から中国本土に DB の適用が広がっていったと聞いており、その効用については確認されているものとする。（副大臣）
- 2) 今後のステップとしては、パイロットプロジェクトを立ち上げ DB のプロセスを経験し、その効果を実証することを提案したい。ハノイ TV 局案件で DB があまりうまくゆかなかった事例もあることから、パイロットプロジェクトの選定は慎重に行う必要がある。同時に、MOT (Ministry of Transportation), MOC (Ministry of Construction) などのプロジェクト実施機関や MOJ (Ministry of Justice)が DB のプロセスを良く理解する必要がある。（副大臣）

パイロットプロジェクト立ち上げの必要性については、JICA も同じ意向を持っており、今回の調査はその一環として実施しているものである。（JICA）

- 3) さらに、adjudicator の選定の問題がある。adjudicator の数が少ない現状において、透明性の高い選定プロセスは DB の普及のために必須条件である。また、adjudicator の育成については、ベトナムでは当面外国人の adjudicator に依存せざるを得ないと思われるが、将来的にはローカルの adjudicator を育成したい。これらの課題に対しては、MPI では、PPA (Public Procurement Agent)および CPS (Center for Procurement

Support)が中心的な役割を果たせると考える。(副大臣)

- 4) 契約書では DB を契約直後に設置することになっているにも関わらず、何らかの理由で設置できない場合はどうなるのか。(MPI)

それは、契約当事者（発注者と請負者）が合意すれば可能である、FIDIC Yellow Book (Plant and Design-build)や Silver Book (EPC/Turnkey)では、紛争が発生してから DB を設置する Ad-hoc DB となっている。しかしながら、DB の利点は紛争予防機能にあることから、最初から DB を設置することを推奨する。(調査団)

- 5) 実際に十分な数の adjudicator は存在するのか。(MPI)

アジアでは香港やシンガポールにポテンシャルの高い人材がいる。選任にあたっては、FIDIC, ICC (International Chamber of Commerce), BRBF (Dispute Resolution Board Foundation)に選任を委託することもできる。(調査団)

- 6) DB の決定を取得するまでの間は、請負者は工事を継続するのか。(MPI)

請負者は工事を継続する義務を負う。これは arbitration においても同様である。(調査団)

- 7) DB の普及について、日本の現状はどうであるか。(MPI)

日本では DB は普及していないのが現状である。(調査団)

- 8) DB メンバーの免責 (immunity) については如何か。(MPI)

DB メンバーの免責は確保されるべきであるが、最終的には各国の法律による。(調査団)

以上

円借款案件実施機関との面談記録（MOC）

1. 日時：2009 年 11 月 23 日、15:30 - 17:00

2. 場所：MOC (Ministry of Construction), Hanoi

3. 参加者：MOC

Dr. Pham Van Khanh (Head, Department of Construction Economics)

Mr. Pham Khanh Toan (Deputy Director General, International Cooperation Dept.)

Mr. Nguyen Thanh Tung (Official)

JICA

坂井完（JICA ベトナム事務所）、大木扶由子（調達管理課）

JICA 調査団

大本俊彦（京都大学）、林幸伸（日本工営）

4. 面談内容：

1) DAB の雇用は JICA プロジェクトでは必須条件（obligatory）であるのか。（MOC）

新 Sample Bidding Documents では標準となったが、必須条件ではない。旧版では DAB は option の一つであったが、「標準」となったという意味から、ニュアンスは異なる。（調査団）

2) DB の採用について発注者の便益は何であるのか。（MOC）

工事の完成以前に紛争が解決されることが最大の便益である。Arbitration では解決までに時間がかかり、これに伴って発注者の負担する係争費用も高額となる。さらに、紛争の予防機能も発注者の便益となる。DB は契約当事者からの要請により informal advice/opinion を提示する。これまでの経験ではほとんどの場合 informal advice を出すことで紛争に発展しなかった。（調査団）

3) DB の費用について説明願いたい。（MOC）

DB の費用は、① retainer、② daily fee、③ reasonable expense からなる。fee については、FIDIC では基準は設けていないが、世銀の機関である ICSID (International Center for Settlement of Dispute) の提示額に同意できるとしている。現在の提示額は 3,000 USD/day であり、月額 retainer は 3 日分の fee であるが、現在では 1 日分としているケースも増えている。また、状況によって site visit の間隔を長くすることもコスト節減に有効である。何れにしても金額は adjudicator との交渉次第である。（調査団）

ベトナムでは、プロジェクトの金額がそれほど大きくないケースが多く、所得水準も低いので、DB の導入にはハードルが高いと思われる。**Engineer** の単価に比べてもかなり高い。半分程度にならないものだろうか。大規模なプロジェクトで試行を実施し、DB の有効性を実証することが必要であると思われる。(MOC)

以上

円借款案件実施機関との面談記録（PLN）

1. 日時：2010 年 1 月 26 日、14:00 - 14:45
2. 場所：PT PLN 事務所(国有電力公社)
3. 参加者：PT PLN
Mr. N. Setiawan (Deputy Director for Construction Procurement Supervision), Mr. Dansnulma, Mr. Suriawan S., Mr. Reisal R. H., Mr. Alland Asqolani, Mr. Christyono, Mr. Peter Cunningham
JICA インドネシア事務所
Mr. Strisuno
JICA 調査団
大本俊彦（京都大学）、林幸伸（日本工営）
4. 面談内容：
 - 1) PLN では DB を導入し建設を実施したプロジェクトはない。従って、DB については未だあまりよく理解されていない状況にある（PLN）。
 - 2) アジュディケーターとしてどのような人材がアベイラブルであるのか（PLN）。
 - 3) FIDIC では President List として約 50 名のアジュディケーターを公表している。しかしながら絶対数が不足しているので、FIDIC では各国の Member Association（インドネシアでは INKINDO）が資格審査を行うことにより National List を作成し、アジュディケーターを拡充することを推奨している。今回の調査業務では、アジュディケーター育成のための教材と、資格審査運用規則（案）を作成することになっており、これらの文書がインドネシアにおいても活用できると考える（調査団）。
 - 4) 実施中のプロジェクトで、途中から DB を導入することは可能か（PLN）。
 - 5) 契約当事者が合意すれば、設置することに何ら問題はない。しかしながら、DB の利点は、その紛争予防機能にあり、工事契約の初期段階から設置する standing DAB が理想的であることに留意頂きたい（調査団）。
 - 6) 仲裁において DB の決定は考慮されるのか（PLN）
 - 7) 勿論である。このこと（仲裁や裁判において証拠として使用が可能）が DB の裁定や勧告が受け入れられる一因である（調査団）。
 - 8) DB 費用の負担が懸案事項としてあるので、パイロットプロジェクトについては大変興味がある（PLN）。

- 9) 今後の円借款案件では、DB が導入されてゆくことになるだろう。例えば、現在入札段階である、プサンガン水力発電計画では、JICA Sample Bidding Document（2009 年版）を採用し DB も導入されている（PLN）。

以上

円借款案件実施機関との面談記録（RDA）

1. 日時：2010年2月1日、9:00 - 10:00
2. 場所：RDA 事務所、Colombo
3. 参加者：RDA(Road Development Authority)
Mr. S. Meihandan (Project Director, Southern Transport Development Project)
JICA
大木扶由子（調達管理課）、Ms. Namal Ralapanawe (JICA スリランカ事務所)
JICA 調査団
大本俊彦（京都大学）、林幸伸（日本工営）
4. 面談内容：
 - 1) Southern Transport Development Project では、4つの工事パッケージがあり、FIDIC Red Book 1987年版にDBを導入したものを使用している。DABは3人制であり、全てスリランカ人のアジュディケーターを雇用している。2つのパッケージについては日本のコントラクターと契約している。この内、1つのパッケージはDB's decisionがでたものの、合意されず現在仲裁（ICCルール）で係争中である。DBの裁定内容を発注者は実行していない。また、他のパッケージは5～6件のクレームに対し発注者・コントラクターそれぞれに有利・不利の裁定が出ているが、どれも発注者が受け入れている。この場合も発注者に不利なもの（コントラクターへの費用の支払いを求めるもの）を実行せず、不服表明をした上で再交渉をしようとしている（RDA）。
 - 2) DB's decision は仲裁などの後続のステップで変更されない限り契約当事者を拘束し、契約当事者はDB's decision を遵守する義務があることに留意する必要がある（調査団）。
 - 3) スリランカでは、入札図書の承認や契約紛争の合意に当たり Attorney General（法務長官）の意見を求める必要がある。Attorney General からは、一般的に数多くのコメントが出され、プロジェクト実施機関としてこれを尊重する必要がある（RDA）。
 - 4) Attorney General からの意見書はコントラクターに報告されているのであるか（調査団）。発注者である実施機関と Attorney General との通信はあくまで内部的な手続きであるので、コントラクターに報告する必要はないと判断している（RDA）。
 - 5) スリランカ人のアジュディケーターの報酬日額は300～500米ドルであるが、国家公務員の給与レベルに比べても高いと感じている。外人アジュディケーターの雇用はアフォー

ダブルではないと感ずる（RDA）。

- 6) これまでの経験からは、DAB の効果について疑問を持っている。紛争が発生してからアジュディケーターが行動を始めるケースが多く、紛争の予防機能が十分に果たされていないと感ずる。また、スリランカ人のアジュディケーターの経験や中立性にも疑問を持つことがある（RDA）。

以上

円借款案件実施機関との面談記録（DER）

1. 日時：2010 年 2 月 1 日、11:00 - 11:30
2. 場所：Department of External Resources (DER)、Colombo
3. 参加者：DER, Ministry of Finance and Planning
Mr. K. T. I. Premarante (Assistant Director)
Ms. Ajitha Batagota (Assistant Director)
JICA
柳内将成（JICA スリランカ事務所）、大木扶由子（調達管理課）
JICA 調査団
大本俊彦（京都大学）、林幸伸（日本工営）
4. 面談内容：
 - 1) DER は円借款案件のローン手続きや調達の段階に関わっているので、DB の運用に関する実態については良くは理解していない。円借款案件の建設紛争については、2007 年に完工したキャンディの上水プロジェクトにおいて、変更工事に関わる紛争が発生し長期間解決されなかったため、政府の上部機関が作った Assessment Committee から勧告が出された。ずいぶん時間がたっているがまだ閣議決定を待っている段階と聞いている（DER）。
 - 2) DAB の費用は円借款で eligible cost と捉えて良いのだろうか（DER）。DB は JICA の Standard Bidding Document（2009 年版）で標準プロセスとして導入されており、DB の費用は必要経費と考えられるため、eligible cost と考えて良いと判断している（調査団）。
 - 3) DB のシステム自体は良いものとするが、その費用を正当化するには、過去の事例から DB がない場合とある場合のコスト・シミュレーションを行い、DB が発注者にとって優位なものであることを確認する必要があると感じている。優位でなければ 3,000 米ドルの報酬日額は高価であると感じる（DER）。

以上

円借款案件実施機関との面談記録（CEB）

1. 日時：2010 年 2 月 1 日、14:00 - 14:30
2. 場所：Ceylon Electricity Board (CEB), Colombo
3. 参加者：CEB (Transmission Projects Branch)
Mr. G. S. P. Mendis (Deputy General manager, Transmission Projects)
Mr. Palitha L. G. Kariyawasam (Project Manager, Karewaplapitiya
Kotugita Trnsmission Project
JICA
大木扶由子（調達管理課）、Mr. Pyiyantha Senasinghe
JICA 調査団
大本俊彦（京都大学）、林幸伸（日本工営）
4. 面談内容：
 - 1) CEB が関与する案件では、現時点で深刻な建設紛争は発生していないと理解している（CEB）。
 - 2) DAB についてはそのコンセプトは良く理解できるが、CEB 案件でこれまでに DAB を導入した経験はないと思われる。DB を導入する場合は、当面は ad-hoc DB で良いのではないかと考えている。また、スリランカ人のアジュディケーターは未だ十分な経験を積んでいないのではないかと懸念する。スリランカの法制度と DB がコンフリクトを起こすようなことはないであろう（CEB）。
 - 3) スリランカでは仲裁は普及しており、スリランカ仲裁センターでは 4 か月間の週末研修コースを提供している。本日の 2 人の出席者はこのコースを修了している。（CEB）。
 - 4) 紛争の裁定に当たり、法律的な解釈については法律家の判断が必要となろうが、技術的側面の判断については専門家の参加が必要であると考え（CEB）。アジュディケーターは技術者か法律家という議論があるが、3 人制 DB の場合に、1 名（議長）は法律家、他の 2 名は技術者とするのが、バランスが良いのではないかと考える。また国際建設紛争専門家の中には、出身は法律家であっても、十分な技術的知見を有している人が少なくない（調査団）。

以上

円借款案件実施機関との面談記録（NWSDB）

1. 日時：2010 年 2 月 1 日、16:00 - 17:00
2. 場所：National Water Supply & Drainage Board (NWSDB), Latmalana
3. 参加者：NWSDB
Mr. H. G. Tilakaratna (Additional General Manager, Water Supply Projects)
Mr. M. K. Hapuarachchi (Project Director, Secondary Town & Rural Community Based Water Supply and Sanitation Project)
Mr. M. M. Umarlebbe (Assistant General Manager, Japanese Projects Unit)
JICA
大木扶由子（調達管理課）、Mr. S. arinda I. Elapata（JICA スリランカ事務所）、
JICA 調査団
大本俊彦（京都大学）、林幸伸（日本工営）
4. 面談内容：
 - 1) 現在施工段階にある、Secondary Town & Rural Community Based Water Supply and Sanitation Project（ADB 融資）は 16 のコントラクトパッケージからなるが、契約書は MDB 版を使用しており、3 人制 ad-hoc DB が導入されている。アジュディケーターは全てスリランカ人である。Engineer は発注者側の要員が務めている。これまで 1 件の紛争が DAB に付託され、物価変動に関わるクレームであったが、最終的には仲裁に行った(NWSDB)。
 - 2) DB のコンセプトは理解するが、問題は standing か ad-hoc か、の選択である。NWSDB のプロジェクトは小規模のものが多く、standing DB の採用には躊躇するところがある。小規模案件では standing DB を雇用することの便益が見出しにくいのではないと思われる（NWSDB）。
 - 3) FIDIC Yellow Book (Plant and Design-Build)では ad-hoc DB が採用されているが、DAB の効果を最大限に発揮できるのはやはり standing DB である。トルコの鉄道トンネル案件では、FIDIC Silver Book (EPC and Turnkey)が採用されており、ad-hoc DB であったが、契約当事者の合意により契約当初より standing DB が設置されたという例がある（調査団）。
 - 4) アジュディケーターの国籍については、コントラクターが外国籍であれば外国人（第 3

国) アジュディケーターとすることが合理的と思われるが、コスト負担が問題となる(NWSDB)。

以上

DAB Questionnaire

Study Team of JICA DAB Promoting Project

Q1. Which entity do you belong to?

- ☐ Government / Government-owned company
- ☐ Contractor
- ☐ Consultant
- ☐ University / Research institute
- ☐ Others ()

Name of organization ()

Q2. How was today's presentation? (Please check *all* that apply)

- (1) Interesting?: ☐ extremely ☐ very much ☐ fair ☐ not very much ☐ not at all
- (2) Useful? ☐ extremely ☐ very much ☐ fair ☐ not very much ☐ not at all
- (3) Clear and easy to understand? ☐ extremely ☐ very much ☐ fair ☐ not very much ☐ not at all
- (4) Others ()

Q3. Are you willing to adopt DAB for the project you are / will be concerned?

- ☐ Yes, I want to adopt DAB. —————→ Go to Q4.
- ☐ No, I don't want to adopt DAB. —————→ Go to Q5.
- ☐ No, I will adopt DAB if certain issues, which I am concerned about, are cleared. —————→ Go to Q5.

Q4. (For the persons who have selected "Yes" in Q3)**4-1 Why do you think you want to adopt DAB? (Please check *all* that apply)**

- ☐ (1) I know well about benefit of DAB.
- ☐ (2) I think it works well in my country.
- ☐ (3) DAB cost is reasonable.
- ☐ (4) I think disputes / conflicts likely to happen in the project.
- ☐ (5) Settlement of disputes / conflicts by ourselves is difficult without DAB.
- ☐ (6) DAB most likely make fair decision.
- ☐ (7) Though there are few adjudicators now, it can be promoted through proper training and monitoring program/ system in my country.
- ☐ (8) Others ()

4-2 Which is the BIGGEST reason among those above?Choose *one* reason and fill in the number: ()**Q5. (For the persons who have selected "No" in Q3)****5-1 Why do you think you don't want to adopt DAB? (Please check *all* that apply)**

- ☐ (1) I don't know well about DAB.
- ☐ (2) I doubt the effect. / I don't think it works well in my country.
- ☐ (3) DAB costs high.
- ☐ (4) I think disputes / conflicts are not likely to happen in the project.
- ☐ (5) We can settle disputes / conflicts by ourselves without DAB.
- ☐ (6) I'm afraid DAB might make unfair decision.
- ☐ (7) It's difficult to find adequate adjudicators. / There are few certified adjudicators.
- ☐ (8) Others ()

5-2 Which is the BIGGEST reason among those above?Choose *one* reason and fill in the number: ()

Q6. How much are you willing to pay for the adjudicators?

About US \$ () / month for the Retainer/Adjudicator

About US \$ () / day for the Daily Fee/Adjudicator

Any other payment method for remuneration?

()

Q7. Have you ever made or dealt with claims in the projects financed by JICA / JBIC / Multilateral Banks including ADB / World Bank?☐ Yes, I have. ———> Go to Q8.☐ No, I have not. ———> Go to Q9.**Q8. (For the persons who have selected “Yes” in Q7)****8-1 What is a typical claim experienced during construction? (Please check *all* that apply)**☐ Possession of the Site☐ Unforeseeable physical condition☐ Late notice/instruction by the Engineer☐ Delay in payment☐ Price escalation☐ Variation☐ Others ()**8-2 How were those claims settled? (If claims were more than one, please check *all* that apply)**☐ Engineer's decision☐ They were settled by negotiations among Employer, Engineer and Contractor.☐ They were settled by DAB.☐ They were settled by arbitration.☐ They were settled by litigation.**8-3 Please describe the difficulties you thought in making /dealing with the claims.**

(Technical issues, negotiations, costs, time, documents, languages, etc.)

Q9. Regarding the growing importance of DAB, JICA is now considering supporting schemes of DAB.**What kind of supports do you think are necessary for you to adopt a DAB in your project/ or to promote DAB process in your country?****Q10. Any other opinions / comments on today's seminar or to JICA will be appreciated.**

THANK YOU very much for taking your time!

DAB (Dispute Adjudication Board) セミナー カンボジア
アンケート 集計結果

アンケート 集計結果											Nos.	Rate
Nos. of participants											77	
Total nos. of the answer											44	57%
Q1	Title	(1) Government									33	75%
		(2) Contractor									2	5%
		(3) Consultant									7	16%
		(4) University / Research institute									0	0%
		(5) Others									2	5%
Q2	Impression		extremely	very much	fair	not very	not at all	Average [*]				
		(1) Interesting	6	26	9			3.93				
		(2) Useful	3	30	7			3.90				
		(3) Clear and easy to understand	4	14	14	1		3.64				
		(4) Others						1				
Q3	Willingness to adopt DAB		Gov.	Contractor	Consul.	Others	Total					
		(1) Yes, I want to adopt DAB.	10 (30%)	2 (100%)	6 (86%)	1 (50%)	19 (43%)					
		(2) No, I don't wanto to adopt DAB.	3 (9%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	3 (7%)					
		(3) No, I will adopt DAB if certain issues are cleared.	18 (55%)	0 (0%)	1 (14%)	1 (50%)	20 (45%)					
Q4	The reason to adopt DAB		Reason					Biggest reason				
			Gov.	Contractor	Consul.	Others	Total	Gov.	Contractor	Consul.	Others	Total
		(1) I know well about benefit of DAB.	3 (30%)		2 (33%)		5 (26%)			1 (17%)		1 (5%)
		(2) I think it works well in my country.	5 (50%)	2 (100%)			7 (37%)	1 (50%)				1 (5%)
		(3) DAB cost is reasonable.	2 (20%)				2 (11%)					0 (0%)
		(4) I think disputes / conflicts likely to happen in the project.	5 (50%)	1 (50%)	5 (83%)	1 (100%)	12 (63%)	2 (20%)	1 (50%)	2 (33%)	1 (100%)	6 (32%)
		(5) Settlement of disputes / conflicts by ourselves is difficult w/o DB.	4 (40%)		1 (17%)	1 (100%)	6 (32%)	2			1 (100%)	3 (16%)
		(6) DAB most likely make fair decision	3 (30%)		2 (33%)	1 (100%)	6 (32%)	1 (10%)		1 (17%)	1 (100%)	3 (16%)
		(7) Though there are few adjudicators now, it can be promoted...	2 (20%)		3 (50%)		5 (26%)			2 (33%)		2 (11%)
		(8) Others			1 (17%)		1 (5%)					0 (0%)
Q5	The reason not to adopt DAB		Reason					Biggest reason				
			Gov.	Contractor	Consul.	Others	Total	Gov.	Contractor	Consul.	Others	Total
		(1) I don't know well about DAB.	8 (38%)		1 (100%)		9 (39%)	2 (10%)				2 (9%)
		(2) I doubt the effect. / I don't think it works well in my country	5 (24%)			1 (100%)	6 (26%)	2 (10%)			1 (100%)	3 (13%)
		(3) DAB costs high.	14 (67%)				15 (65%)	6 (29%)			1 (100%)	7 (30%)
		(4) I think disputes / conflicts are not likely to happen in the project.	6 (29%)				6 (26%)	3 (14%)				3 (13%)
		(5) We can settle disputes / conflicts by ourselves without DAB.	3 (14%)				3 (13%)	2 (10%)				2 (9%)
		(6) I'm afraid DAB might make unfair decision.	5 (24%)				5 (22%)	1 (5%)				1 (4%)
		(7) It's difficult to find adequate adjudicators. / There are few certified adjudicators.	9 (43%)			1 (100%)	10 (43%)	3 (14%)			1 (100%)	4 (17%)
(8) Others	3 (14%)				3 (13%)	1 (5%)				1 (4%)		
Q6	Payment	Retainer fee (US\$) (Average 2,740)					Total	Gov.	Contractor	Consul.	Others	
							500	1		1		
							900	1	1			
							2,000	2	2			
							3,000	4	4			
		Daily fee (US\$) (Average 1,061)					5,000	2		1	1	
							30	1	1			
							100	2	2			
							200	1	1			
							1,000	1	1			
				3,000	2		1	1				
Q7	Experience of claims	(1) Yes.					9 (27%)	1 (50%)	4 (57%)	1 (50%)	15 (34%)	
		(2) No.					21 (64%)	1 (50%)	2 (29%)		24 (55%)	
		No answer					3	0	1	1	5	
Q8	8-1 Type of claims		Gov.	Contractor	Consul.	Others	Total					
		(1) Posession of the site	1 (11%)		1 (25%)		2 (13%)					
		(2) Unforeseeable physical condition	3 (33%)	1 (100%)	4 (100%)		8 (53%)					
		(3) Late notice / instruction by the Engineer			1 (25%)	1 (100%)	2 (13%)					
		(4) Delay in payment	2 (22%)		1 (25%)	1 (100%)	4 (27%)					
		(5) Price escalation	5 (56%)		4 (100%)	1 (100%)	10 (67%)					
		(6) Variation	6 (67%)	1 (100%)	4 (100%)		11 (73%)					
	8-2 Settlement	(1) Engineer's decision	4 (44%)		1 (25%)		5 (33%)					
		(2) Negotiation	6 (67%)		4 (100%)	1 (100%)	11 (73%)					
		(3) DAB	1 (11%)				1 (7%)					
		(4) Arbitration	1 (11%)	1 (100%)			2 (13%)					
		(5) Litigation	1 (11%)				1 (7%)					

*Average points are calculated by giving "extremely" 5 points, "very much" 4 points, ... and "not at all" 1 points.

Commented answer

DAB Seminar Cambodia

Q2	Impression	(4)	Should be more activity	Government
Q4-1	The reason to adopt DAB	(8)	DAB seems to have function of judgement. Game with judge is more proper for the project.	Consultant
Q5-1	The reason not to adopt DAB	(8)	The probabilities of the dispute is not much. We can establish other mechanism rather than DAB by taking advantages of the DAB function and methods.	Government (NBC)
			No experiences with DAB.	Government (MPWT)
			We do not have big project.	Government (DPWT / MPP)
Q6	Payment		Should follow market rate.	Government
			I am not clear, but as you know the borrower wouldn't have much that's why they borrow so they don't really want to pay more.	Government (NBC)
			Payment should depend on the contract amount.	Contractor (Daiho)
Q8-1	Claim / Dispute			
Q8-3	Difficulties about claim		Technical issues	8 answers
			Time	7 answers
			Cost	9 answers
			Document	3 answers
			Negotiation	6 answers
			Cost (variation)	Government
			Design document is not clear, additional payment by increase of quantities and so on	Government (MPWT)
			Following Engineer's decision, we will discuss with the contractor and the presence of MEF and try to solve it amicably.	Government (DPWT / MPP)
			If we have any problem, we may negotiate with contractor and consultant	Government (PAS)
			Negotiations: In making / dealing with the claims, negotiation is one of the most difficulties because base for negotiations before the parties it might have advisory opinion from the parties mutual agreement.	Others (Public enterprise)
			Costs: Cost-effectiveness, disputes arise the employer and consultant on the additional cost of claim assessment / evaluation work.	
			Documents: Documents is also difficult thing for DAB, because without these, incompleting document may occur or bad judgement, review drafting recommendation etc. will be paid by hourly rate	
			For the time being with claims it look like dealing some problem that cannot predict as we want to proceed.	Government (NBC)
			About negotiations it seem very important action to attract and solve problem that need to be solve soon, but it look hard to find final solution.	
			About technical issues, it also cause complicate for finding one resolution.	
Q9	Support for DAB promotion		JICA shall be responsible for the expense for DAB. / support financing.	4 answers (from Government)
			Training, education and technical support.	5 answers (2 from government, 3 from consultant)
			System / form a board in the country	2 answers (Consultant)
			It is depending on project scale and cost (with complexity of work).	Government
			Pay ???? DAB might not be affordable.	Government (DPWT / MPP)
			In my opinion, it might be good to have DAB to monitor the other dispute in construction. However, the consultant selection may be recommended by JICA. Following guideline by JICA should not be worried and no need to have DAB.	Government
			Execute about DAB program.	Government
			Introduce FIDIC concept or clauses that play important role in my project.	Government (Telecom Cambodia, MPTC)
			DAB is very essential for solving disputes.	Government (EDC)
			I think for this moment in our country can't adopt DAB, may in next 10 years. The way for solving the dispute by compromising between Employer and Contractor.	
			Who guarantee the decision of DB is correct?	Consultant
			Who warrant independency of DB member? Self warrant is not safe.	
			JICA should promote and monitor DAB in different ministries.	Consultant (KCEC)
			It's good to have a DB in the project with a cost as low as possible. Higher DB cost will make the project cost increase, therefore the funding agency has to pay for.	Consultant (KCEC)
			All projects must be needed adjudicators (by employed local DAB).	Consultant (KCEC)
			In Cambodia, we meet many of disputes, e.g. by land acquisition and land settlement for the project. So it would be better if JICA able to promote DAB process, especially before the new project will be started.	Others (Public enterprise)
			If the cost is reasonable, we should adopt DAB in the project.	Government (NBC)
			Communication with all concerning parties in issues need during working or process.	Government (NBC)
			Cooperation among are relevants in activities to be smooth.	
			Deep studying matter behind target to be implement to be going on	
			To believe of DAB activity	Government (FTB)
Q10	Other comment		The study tour to the site visit for the operation of DAB.	Government (PAS)
			The concerned Yen-loan officials shall be invited to attend the seminar on "The position of DAB in FIDIC and Practice of Dispute Board" in neighboring countries.	
			I think it's better to find other means other than DAB. For instance, JICA can suggest the borrower to have other external site inspector which can do on site visit and report to the borrower, that will be spend less. At the same time JICA can come up with other procedures or guidelines which can be as effective as DAB by applying or adopt the good points of DAB. By the way the probabilities of the dispute is not much. So it's better to prepare other solutions or prevention rather than DAB.	Government (NBC)
			(continue) In my opinion, it's better to reinforce the criterion in the contract and force the contractor to pay more attention by putting some other condition and pressure on them to reduce the possibilities of dispute. The criterion in the contract have to be more clear and the cost of the dispute should be paid by the side who breach the contract or fail to achieve.	Government (NBC)
			Very good.	Government
			Very important seminar and 1st time conducted in Cambodia. Especially DAB project cycle (implementation and disbursement).	Government (MPWT)
			JICA should help Cambodia for DAB when Japan ODA loan provided to Cambodia in future.	Government
			I am appreciated to join this comprehensive seminar today. However, the seminar text will be more and more useful for participant.	Government
			The seminar provide the solutions to solve problem appearance after signed the contract.	Government (Telecom Cambodia, MPTC)
			The seminar has given us the new approach for including in our planning in next project with the quality result and transparency.	Government (EDC)
			I think JICA should bring some expert that could bring over good idea or knew knowledge and could apply to Cambodia situation, such as arbitration. Moreover, should bring something that similar to Cambodia law and environment.	Government

Commented answer

DAB Seminar Cambodia

Q10	Other comment (Continue)	It is more understandable if the presentation compare arbitration (such as chember of commerce in Paris) method and DB. Time consuming, cost shall be different between them. I want to know more merits of DB. Also comparation is necessary between average number of DRB reference of the project with DB and without DB. If DB can't find seeds of problem even they had several site visits, DB will be penaltied?	Consultant
		More seminar is better.	Consultant (KCEC)
		It good. New information in cambodia.	Contractor (Daiho)
		It is ???? for us to participate in this seminar today. It gives us the awareness of the pfocess of ODA loans and how to solve the problems arising among employers, engineers and contractors DAB process. Thank JICA for this seminar.	Government (NBC)
		It will held this seminar next time.	Government (FTB)

DAB (Dispute Adjudication Board) セミナー ベトナム

アンケート 集計結果

Dispute Resolution Board (DRB) アンケート 集計結果													Nos.	Rate								
Nos. of participants													157									
Total nos. of the answer													52	33%								
Q1	Title	(1) Government											38	73%								
		(2) Contractor											1	2%								
		(3) Consultant											5	10%								
		(4) University / Research institute											2	4%								
		(5) Others											6	12%								
Q2	Impression											extremely	very much	fair	not very	not at all	Average					
		(1) Interesting										2	23	16	2	1	3.52					
		(2) Useful										4	20	21			3.62					
		(3) Clear and easy to understand										3	18	21	1		3.53					
(4) Others															1							
Q3	Willingness to adopt DAB	Gov. Contractor Consul. Univ. Others Total																				
		(1) Yes, I want to adopt DAB.										9 (24%)	1 (100%)	4 (80%)	1 (50%)	3 (50%)	18 (35%)					
		(2) No, I don't want to adopt DAB.										8 (21%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (17%)	9 (17%)					
		(3) No, I will adopt DAB if certain issues are cleared.										22 (58%)	0 (0%)	1 (20%)	1 (50%)	2 (33%)	26 (50%)					
Q4	The reason to adopt DAB	Reason										Biggest reason										
		Gov. Contractor Consul. Univ. Others Total	Gov. Contractor Consul. Univ. Others Total																			
		(1) I know well about benefit of DAB.										6 (67%)	1 (100%)	1 (25%)	1 (100%)	2 (67%)	11 (61%)	3 (33%)		1 (100%)	3 (17%)	
		(2) I think it works well in my country.										4 (44%)		2 (50%)		1 (33%)	7 (39%)	1 (11%)	1 (25%)	2 (11%)		
		(3) DAB cost is reasonable.										3 (33%)		2 (50%)		1 (33%)	6 (33%)		1 (25%)	1 (6%)		
		(4) I think disputes / conflicts likely to happen in the project.										9 (100%)	1 (100%)	3 (75%)		3 (100%)	16 (89%)	6 (67%)	1 (100%)	2 (67%)	10 (56%)	
		(5) Settlement of disputes / conflicts by ourselves is difficult w/o DB.										9 (100%)	1 (100%)	2 (50%)		2 (67%)	14 (78%)	2 (22%)	1 (25%)	1 (33%)	4 (22%)	
		(6) DAB most likely make fair decision										7 (78%)		1 (25%)		3 (100%)	11 (61%)	2 (22%)		1 (33%)	3 (17%)	
		(7) Though there are few adjudicators now, it can be promoted...										4 (44%)	1 (100%)	3 (75%)	1 (100%)	1 (33%)	10 (56%)	1 (11%)	3 (75%)	1 (33%)	5 (28%)	
		(8) Others																			0 (0%)	
Q5	The reason not to adopt DAB	Reason										Biggest reason										
		Gov. Contractor Consul. Univ. Others Total	Gov. Contractor Consul. Univ. Others Total																			
		(1) I don't know well about DAB.										3 (10%)					3 (9%)			0 (0%)		
		(2) I doubt the effect. / I don't think it works well in my country										17 (57%)		1 (100%)	1 (100%)	2 (67%)	21 (60%)	10 (33%)	1 (25%)	1 (100%)	2 (67%)	14 (78%)
		(3) DAB costs high.										20 (67%)		1 (100%)	1 (100%)	1 (33%)	23 (66%)	4 (13%)			1 (33%)	5 (28%)
		(4) I think disputes / conflicts are not likely to happen in the project.										1 (3%)					1 (3%)				0 (0%)	
		(5) We can settle disputes / conflicts by ourselves without DAB.										9 (30%)			1 (100%)	1 (33%)	11 (31%)	3 (10%)		1 (33%)	4 (22%)	
		(6) I'm afraid DAB might make unfair decision.										6 (20%)			1 (100%)	1 (33%)	8 (23%)	1 (3%)			1 (6%)	
		(7) It's difficult to find adequate adjudicators. / There are few certified adjudicators.										15 (50%)		1 (100%)	1 (100%)	3 (100%)	20 (57%)	3 (10%)			3 (17%)	
(8) Others										7 (23%)					7 (20%)	7 (23%)			7 (39%)			
Q6	Payment	Retainer fee (US\$)										Total		Gov. Contractor Consul. Univ. Others								
		(Average 13,500)										1,000	1				1					
												3,000	1	1								
												5,000	1	1								
												10,000	1	1								
												12,000	1	1								
												50,000	1	1								
		Daily fee (US\$)										200	2	2			2					
(Average 1,350)										2,500	2											
Q7	Experience of claims	(1) Yes.										16 (42%)	1 (100%)	2 (40%)	1 (50%)	0 (0%)	20 (38%)					
		(2) No.										21 (55%)	0 (0%)	3 (60%)	1 (50%)	6 (100%)	31 (60%)					
Q8	8-1 Type of claims	(1) Possession of the site										11 (69%)	1 (100%)	1 (50%)	1 (100%)		14 (70%)					
		(2) Unforeseeable physical condition										9 (56%)	1 (100%)		1 (100%)		11 (55%)					
		(3) Late notice / instruction by the Engineer										4 (25%)			1 (100%)		5 (25%)					
		(4) Delay in payment										7 (44%)	1 (100%)	1 (50%)			9 (45%)					
		(5) Price escalation										9 (56%)	1 (100%)	2 (100%)			12 (60%)					
		(6) Variation										4 (25%)	1 (100%)				5 (25%)					
		(7) Others										3 (19%)					3 (15%)					
	8-2 Settlement	(1) Engineer's decision										1 (6%)		1 (50%)			2 (10%)					
		(2) Negotiation										15 (94%)	1 (100%)	2 (100%)	1 (100%)		19 (95%)					
		(3) DAB															0 (0%)					
		(4) Arbitration															0 (0%)					
		(5) Litigation										1 (6%)	1 (100%)				2 (10%)					

*Average points are calculated by giving "extremely" 5 points, "very much" 4 points, ... and "not at all" 1 points.

Q2	Impression	(4)		
Q4-1	The reason to adopt DAB	(8)		
Q5-1	The reason not to adopt DAB	(8)	legal basic of Vietnamese side is not available. I don't know the source of budget to pay for DAB, JICA should consider to include cost for DAB in the non-refundable loan agreement It is necessary to have guideline for application of DAB by local budget There is not so much effective information about DAB in VN Not allowed by Vietnamese financial mechanism	2 answers (from government) 2 answers (from government) Government Government(PMU of Second Hanoi Drainage Project) Government
Q6	Payment		According to the regulation Project has no source of budget to settle this matter lumpsum for each matter of dispute It depend on the specific cases should be included in the loan agreement It depend on the total capital of the project	3 answers (from government) Government Government(PMU Thang Government Government Government Consultant (VECAS)
Q8-1	Claim / Dispute		Wrong idea from consultant, the condition of site is different, language barrier, conflict between Vietnamese requalltion and internation regulation Removal of temporary facility Unclear provision in contract	Government(PMU Thang Long) Government Government
Q8-3	Difficulties about claim		Technical issues Language barrier (including technical terms) Time Cost Negotiation Materials Provisions in contract are not clear To be worry about legibility of DAB Pressure of progress of construction and progress of budget disbursement To legalize the DAB in the Vietnamse legal system Changed regulations which has not been updated intime, small matters has not been solved intime and reponsibility of parties Consultant's technical assessment is unconvinced, take long time to settle problem, negotiation for cost must be submitted to competent authorities for consideration. Choose the chairperson who decide dispute matter Difficult to harmonize the benefit of parties, basic for settlement of dipute is insufficient and unclear Dificuly is time and cost because PMU is usually the public organization who can not decide independently to settle the problem mechanism of administrative system to implement the DAB successfully	2 answers 9 answers 3 answers 5 answers 3 answers 2 answers 3 answers Government Government Government Government Government Government Contractor (Taisei) University
Q9	Support for DAB promotion		Education to understand DAB (such as seminar), to realize the effect of DAB, with more specific case for reference. Cost for DAB Legal support like making guideline according to VN regulation or cooperate with concerened Pilot project to clarify the effect of DAB. Training (either to grow up local adjudicators or to enhance dispute settlement and other project management skill) JICA should support for training of Vietnamese consultant's experts through organizations like VECAS (support for material and lecturers) Closer supervision, support PMU to deal with procedures problem Auditing work JICA should categorize the projects which have high possibility of dispute. Willing to apply DAB for settlmnt of dispute Support PMU and contractor regarding contract administration and contract implementation JICA should discuss with Vietnamese government to apply for Projects under JICA's loan. Supervision during the bidding period to avoid mistake and fault Information about DAB's member. Cost and time should be mentioned in the loan agreement Settlement of dispute and negotiation skill is still weak, difficulty in language and international regulation Effectiveness of DAB's decision Support for management system. JICA should have professional DAB to meet the requirement when necessary Difficult to reach common consensus/agreement because of the benefit of the parties To supplement provision regarding DAB in bidding documents	5 answers (3 from government, 1 consul, 1 university) 11 answers (8 government, 1 contractor, 2 others) 7 answers (from government) 4 answers (from government) 7 answers (3 from government, 1 contractor, 3 consul) Consultant (VECAS) Government Government Government Government Government Government Government Government Government Government Government (VEC) Other Contractor(Taisei) Consultant Other Government (VEC) Other
Q10	Other comment		Cost for DAB is too high for Vietnamese side Experts for settlement of dispute should be trained to be member of DAB through associations like VECAS therefore it will be easier for vietnamese to take part in activities of the project in VN Participation of competent authorities is necessary Change name of DAB to Dispute protection board because PMU should avoid raising dispute to international cours How to settle dispute of Consultancy Service Contract? Send materials one to two days before the seminar. The material should be more detailed and more The cost for DAB should be disbursed non-refundably by JICA Vietnamese authorities should allow to use DAB, and have guideline of cost for DAB, information to choose member for DAB is insufficient, there should have been more training course relating to DAB. JICA should have more training course for bidding, contract administration and disbursement. To consider the cost for DAB should be included in the non-refundable loan Seminar like today seminar is essential for PMUs to have more understanding about procedure to settle dispute according to FIDIC contract Very good JICA should recommend the Vietnamese Government to allow application of DAB otherwise PMU can not settle payment for DAB Can apply partially in pilot project to learn experience JICA should have a pilot project under MOT. It is necessary to clarify the responsibility of DAB if his decision is late and causes negative consequence for disputed parties.	Government Government Government Government Government Government Government Government Government Government Government Government Government Government Government Contractor(Taisei) Consultant (VECAS) Consultant (VECAS) Government Government Other

										Nos.	Rate
Nos. of participants										53	
Total nos. of the answer										44	83%
Q1	Title	(1) Government								43	98%
		(2) Contractor								0	0%
		(3) Consultant								1	2%
		(4) University / Research institute								0	0%
		(5) Others								0	0%
Q2	Impression		extremely	very much	fair	not very	not at all	Average*			
		(1) Interesting	5	23	12			3.83			
		(2) Useful	5	20	13	1		3.74			
		(3) Clear and easy to understand	6	16	16	1		3.69			
		(4) Others						1			
Q3	Willingness to adopt DAB					Gov.	Consul.	Total			
	(1) Yes, I want to adopt DAB.					14 (33%)	0 (0%)	14 (32%)			
	(2) No, I don't wanto to adopt DAB.					7 (16%)	1 (100%)	8 (18%)			
	(3) No, I will adopt DAB if certain issues are cleared.					15 (35%)	0 (0%)	15 (34%)			
Q4	The reason to adopt DAB		Reason			Biggest reason					
			Gov.	Consul.	Total	Gov.	Consul.	Total			
			(1) I know well about benefit of DAB.	4 (29%)		4 (29%)			0 (0%)		
			(2) I think it works well in my country.	7 (50%)		7 (50%)	1 (7%)		1 (7%)		
			(3) DAB cost is reasonable.	4 (29%)		4 (29%)	1 (7%)		1 (7%)		
			(4) I think disputes / conflicts likely to happen in the project.	7 (50%)		7 (50%)	3 (21%)		3 (21%)		
			(5) Settlement of disputes / conflicts by ourselves is difficult w/o DB.	4 (29%)		4 (29%)	2 (14%)		2 (14%)		
			(6) DAB most likely make fair decision	4 (29%)		4 (29%)	2 (14%)		2 (14%)		
			(7) Though there are few adjudicators now, it can be promoted...	5 (36%)		5 (36%)	2 (14%)		2 (14%)		
			(8) Others	1 (7%)		1 (7%)			0 (0%)		
Q5	The reason not to adopt DAB		Reason			Biggest reason					
			Gov.	Consul.	Total	Gov.	Consul.	Total			
			(1) I don't know well about DAB.	5 (23%)		5 (22%)	1 (5%)		1 (7%)		
			(2) I doubt the effect. / I don't think it works well in my country	12 (55%)		12 (52%)	3 (14%)		3 (21%)		
			(3) DAB costs high.	16 (73%)		16 (70%)	9 (41%)		9 (64%)		
			(4) I think disputes / conflicts are not likely to happen in the project.	9 (41%)		9 (39%)	2 (9%)		2 (14%)		
			(5) We can settle disputes / conflicts by ourselves without DAB.	10 (45%)		10 (43%)	3 (14%)		3 (21%)		
			(6) I'm afraid DAB might make unfair decision.	5 (23%)	1 (100%)	6 (26%)	2 (9%)		2 (14%)		
			(7) It's difficult to find adequete adjudicators. / There are few certified adjudicators.	6 (27%)	1 (100%)	7 (30%)	2 (9%)	1 (100%)	3 (21%)		
			(8) Others	7 (32%)		7 (30%)			0 (0%)		
Q6	Payment	Retainer fee (US\$)		(Average9,922)		Daily fee (US\$)		(Average1,912)			
			Total	Gov.	Consul.		Total	Gov.	Consul.		
		700	1	1		50	1	1			
		800	1	1		100	2	2			
		1,000	2	2		160	1	1			
		1,100	1	1		200	1	1			
		1,500	2	2		250	1	1			
		2,000	3	2	1	300	1	1			
		2,500	2	2		400	1	1			
		5,000	2	2		1,000	3	3			
		30,000	1	1		1,250	1		1		
		35,000	1	1		1,500	1	1			
		40,000	1	1		2,000	2	2			
		45,000	1	1		3,100	1	1			
						5,000	1	1			
						15,000	1	1			

*Average points are calculated by giving "extremely" 5 points, "very much" 4 points, ... and "not at all" 1 points.

Q7	Experience of claims		Gov.	Consul.	Total
	(1) Yes.		14 (33%)	1 (100%)	15 (34%)
	(2) No.		27 (63%)	0 (0%)	27 (61%)
Q8	8-1 Type of claims		Gov.	Consul.	Total
	(1) Possession of the site		4 (29%)	1 (100%)	5 (33%)
	(2) Unforeseeable physical condition		1 (7%)	1 (100%)	2 (13%)
	(3) Late notice / instruction by the Engineer		3 (21%)		3 (20%)
	(4) Delay in payment		2 (14%)		2 (13%)
	(5) Price escalation		10 (71%)	1 (100%)	11 (73%)
	(6) Variation		7 (50%)	1 (100%)	8 (53%)
	(7) Others				0 (0%)
	8-2 Settlement	(1) Engineer's decision	4 (29%)		4 (27%)
		(2) Negotiation	6 (43%)	1 (100%)	7 (47%)
		(3) DAB		1 (100%)	1 (7%)
		(4) Arbitration	3 (21%)	1 (100%)	4 (27%)
		(5) Litigation	3 (21%)		3 (20%)

Commented answer

DAB Seminar Bangladesh

Q2	Impression	(4)	Rarely useful -> fair	Gov. (Local government engineering department)
Q4-1	The reason to adopt DAB	(8)	To avoid civil court.	Government
Q5-1	The reason not to adopt DAB	(8)	As a employee of Govt. org., it is difficult for me to think to adopt DAB if it is not mentioned in the agreement.	Gov. (Bangladesh Telecommunications Company Ltd.)
			To solve dispute by amicable settlement is the best.	Gov. (Local government engineering department)
			The contracts in my project are small size.	Gov. (Local government engineering department)
			"Procurement of goods" is our project.	Gov. (Bangladesh Railway)
			No provision in procurement policy.	3 Gov. (Bangladesh Telecommunications Company Ltd.)
Q6	Payment		Through discussion & negotiation with the adjudicator	2 Governments
Q8-1	Claim / Dispute		Tax reimbursement	Consul. (BCL Association)
Q8-3	Difficulties about claim		Time, because time is to short most of the project in our country.	3 Governments
			Cost	2 Governments
			Negotiations	2 Governments
			Lack of understanding by the contractor of conditions of contract.	Gov. (Local government engineering department)
			It depends on impartial role of the members of the DAB.	Gov. (Electricity Generation Company of Bangladesh)
			Due to variation of price of the material, contractor claims more payment than the contract amount.	Gov. (Chittagong water supply and sewerage authority)
			Lack of contractual rules or regulation as well as contract management.	Gov. (Roads & highways department)
			Lack of appropriate documentation.	Gov. (Roads & highways department)
			Documentation / Technical issues	Consul. (BCL Association)
Q9	Support for DAB promotion		Financial support by JICA for the payment to DAB.	9 Governments
			DAB cost should be less.	2 Governments
			Training / seminar to aware / promote DAB, contract management, etc. for both Contractor, Employer and Engineer.	12 Governments
			Training for adjudicator	Gov. (Local government engineering department)
			involve DAB into procurement policies / contract agreements etc.	5 Governments
			Rules / Regulations / guidelines / to adopt DAB in Bangladesh	2 Governments
			I think JICA take a prior project for this DAB. In our country so that it is more popular in Bangladesh.	Gov. (Chittagong Development Authority)
			Initially should a list of Adjudicators in every financial partners like WB, JICA, ADB, etc.	Gov. (Electricity Generation Company of Bangladesh)
			Involve local experts in training / seminar, it will help to understand the critical issue more easily to the participant.	Gov. (Chittagong Development Authority)
			DAB review committee.	Gov. (Powergrid company of Bangladesh Ltd.)
			Yes, it is important for our country. It require more publicity to the both parties (employer & contractor)	Gov. (Electricity Generation Company of Bangladesh)
			It also require support both from donor agencies & the government of the country and also require willingness of the contractor.	
			JICA can form different DAB for different sector with the local and foreign expert of particular sector.	Government
			Policy maker of the government or procuring entity is to be acknowledged about the importance of DAB requirement.	Gov. (Roads & highways department)
			Convince the parties about the advantage of DAB	Government
			Training of a body of ??? will be recognised as neutral and fair.	Consul. (BCL Association)
Q10	Other comment		This kind of program need to be arranged more frequently.	2 Governments
			Longer workshop / seminar should be held for making the whole thing clear & participatory & effective.	2 Governments
			Even some training program may be chalked out to make the concept more popular & acceptable also.	Gov. (BBA)
			Good./ Helpful / Nice presentations./ Thank JICA.	8 Governments
			Only in large value and complex civil works the DAB may be used.	3 Governments
			Seminar will be helpful to assure problem that may arise in project implementation & the ways to solve with the help of experts or others.	3 Governments
			In the middle of the project implementation or already finished the loan agreement between JICA & ADB how we accommodated it's fund raise as well as in the DPP of the project which have already made by GOB.	Gov. (Electricity Generation Company of Bangladesh)
			If the tender / bid document will prepared clearly containing the condition then without any dispute.	Gov. (North-west power generation Co., Ltd.)
			JICA will take initiative to promote person those are involved in implementation or contract in contractual rules.	Gov. (Roads & highways department)
			Address of an employer's vies will assist to understanding the issue effectively.	Government

アンケート集計結果(スリランカ)

											Nos.	Rate				
Nos. of participants											105					
Total nos. of the answer											79	75%				
Q1	Title	(1) Government									43	54%				
		(2) Contractor									14	18%				
		(3) Consultant									12	15%				
		(4) University / Research institute									1	1%				
		(5) Others									9	11%				
Q2	Impression										extremely	very much	fair	not very	not at all	Average
		(1) Interesting									8	53	15			3.91
		(2) Useful									10	56	9	1		3.99
		(3) Clear and easy to understand									14	50	11			4.04
		(4) Others														2
Q3	Willingness to adopt DAB									Gov.	Contractor	Consul.	Univ.	Others	Total	
	(1) Yes, I want to adopt DAB.									27 (63%)	13 (93%)	10 (83%)	1 (100%)	8 (89%)	59 (75%)	
	(2) No, I don't wanto to adopt DAB.									7 (16%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	7 (9%)	
	(3) No, I will adopt DAB if certain issues are cleared.									7 (16%)	1 (7%)	2 (17%)	0 (0%)	0 (0%)	10 (13%)	
Q4	The reason to adopt DAB		Reason						Biggest reason							
			Gov.	Contractor	Consul.	Univ.	Others	Total	Gov.	Contractor	Consul.	Univ.	Others	Total		
			(1) I know well about benefit of DAB.	10 (37%)	4 (31%)	7 (70%)	1 (100%)	4 (50%)	26 (44%)	3 (11%)	1 (8%)			2 (25%)	6 (10%)	
			(2) I think it works well in my country.	7 (26%)	3 (23%)	4 (40%)		5 (63%)	19 (32%)			1 (10%)		1 (13%)	2 (3%)	
			(3) DAB cost is reasonable.	8 (30%)	3 (23%)	4 (40%)	1 (100%)	2 (25%)	18 (31%)	2 (7%)	1 (8%)				3 (5%)	
			(4) I think disputes / conflicts likely to happen in the project.	15 (56%)	10 (77%)	5 (50%)	1 (100%)	2 (25%)	33 (56%)	6 (22%)	3 (23%)	2 (20%)		1 (13%)	12 (20%)	
			(5) Settlement of disputes / conflicts by ourselves is difficult w/o DB.	8 (30%)	9 (69%)	3 (30%)		4 (50%)	24 (41%)	2 (7%)	2 (15%)	1 (10%)		1 (13%)	6 (10%)	
			(6) DAB most likely make fair decision	16 (59%)	8 (62%)	5 (50%)	1 (100%)	2 (25%)	32 (54%)	7 (26%)	2 (15%)	4 (40%)		1 (13%)	14 (24%)	
			(7) Though there are few adjudicators now, it can be promoted...	13 (48%)	3 (23%)	6 (60%)	1 (100%)	1 (13%)	24 (41%)	4 (15%)		1 (10%)			5 (8%)	
			(8) Others	2 (7%)	3 (23%)	1 (10%)			6 (10%)		2 (15%)				2 (3%)	
Q5	The reason not to adopt DAB		Reason						Biggest reason							
			Gov.	Contractor	Consul.	Univ.	Others	Total	Gov.	Contractor	Consul.	Univ.	Others	Total		
			(1) I don't know well about DAB.	3 (21%)	1 (100%)				4 (24%)	2 (14%)	1 (100%)				3 (18%)	
			(2) I doubt the effect. / I don't think it works well in my country	6 (43%)					6 (35%)	1 (7%)					1 (6%)	
			(3) DAB costs high.	6 (43%)		1 (50%)			7 (41%)	4 (29%)					4 (24%)	
			(4) I think disputes / conflicts are not likely to happen in the project.	1 (7%)		1 (50%)			2 (12%)						0 (0%)	
			(5) We can settle disputes / conflicts by ourselves without DAB.	1 (7%)		1 (50%)			2 (12%)	1 (7%)					1 (6%)	
			(6) I'm afraid DAB might make unfair decision.	4 (29%)					4 (24%)						0 (0%)	
			(7) It's difficult to find adequate adjudicators...	6 (43%)					6 (35%)	1 (7%)					1 (6%)	
			(8) Others	5 (36%)		1 (50%)			6 (35%)	2 (14%)		1 (50%)			3 (18%)	
Q6	Payment	Retainer fee (US\$) (Average 2,168)						Daily fee (US\$) (Average 491)								
			Total	Gov.	Contractor	Consul.	Univ.	Others		Total	Gov.	Contractor	Consul.	Univ.	Others	
		150	1			1			15	1			1			
		200	1			1			30	1			1			
		250	1					1	40	1	1					
		300	1	1					50	3	2		1			
		350	1			1			100	1	1					
		400	2		1	1			150	2		1	1			
		500	2	1		1			200	1	1					
		1,000	5	4	1				250	1					1	
		1,500	3	1	2				300	4	2	1	1			
		2,000	3	1	1		1		400	2		1	1			
		2,500	1				1		500	1	1					
		5,000	1		1				1,000	6	1	2	1		2	
		10,000	3	1		2			1,500	1	1					
		250 - 500	1	1					2,000	1		1				
									100 - 250	1	1					

*Average points are calculated by giving "extremely" 5 points, "very much" 4 points, ... and "not at all" 1 points.

アンケート集計結果(スリランカ)

Q7	Experience of claims		Gov.	Contractor	Consul.	Univ.	Others	Total
	(1)	Yes.	23 (53%)	8 (57%)	7 (58%)	0 (0%)	5 (56%)	43 (54%)
	(2)	No.	18 (42%)	5 (36%)	4 (33%)	1 (100%)	2 (22%)	30 (38%)
Q8	8-1 Type of claims		Gov.	Contractor	Consul.	Univ.	Others	Total
	(1)	Possession of the site	10 (43%)	2 (25%)	3 (43%)		3 (60%)	18 (42%)
	(2)	Unforeseeable physical condition	16 (70%)	7 (88%)	3 (43%)		2 (40%)	28 (65%)
	(3)	Late notice / instruction by the Engineer	6 (26%)	4 (50%)	4 (57%)		1 (20%)	15 (35%)
	(4)	Delay in payment	7 (30%)	4 (50%)	4 (57%)		2 (40%)	17 (40%)
	(5)	Price escalation	10 (43%)	4 (50%)	3 (43%)		3 (60%)	20 (47%)
	(6)	Variation	14 (61%)	7 (88%)	4 (57%)		4 (80%)	29 (67%)
	(7)	Others	4 (17%)		4 (57%)			8 (19%)
	8-2 Settlement	(1) Engineer's decision	11 (48%)	3 (38%)	3 (43%)		3 (60%)	20 (47%)
		(2) Negotiation	16 (70%)	6 (75%)	4 (57%)		1 (20%)	27 (63%)
		(3) DAB	2 (9%)	3 (38%)	5 (71%)		2 (40%)	12 (28%)
		(4) Arbitration	5 (22%)		2 (29%)		1 (20%)	8 (19%)
		(5) Litigation	1 (4%)		1 (14%)			2 (5%)

Commented answer

DAB Seminar Sri Lanka

Q2	Impression	(4)	Seminars to be in the morning. 2pm is traffic-jam time Dr. Omoto's presentation is very much interesting.	Government (PEACE) Cont. (Shin nippon Air technologies Co., Ltd)
Q4-1	The reason to adopt DAB	(8)	To complete a job at a reasonable cost for both parties More training sessions are useful for those inpleasant the project and for those who prepare documents / standard bidding documents The Engineer does not stand in a fear position in many cases. In construction indursty, there can't be project without small dispute. Time and financial efficiency plus preventive function. Adjudicator is necessary as the Engineer role is now different.	Gov. (NWSDB) Gov. (National Watersupply & Drainage Boards) 2 Contractors Cont (Vshydro (PV) Ltd.) Consultant Other (Fundinf Agency)
Q5-1	The reason not to adopt DAB	(8)	Politician can deny DAB's Decision acceptance. Contract may give bribes to DAB mambers and get fevarable decision. May be depending on the contract. I would prefer. All contracts are finalized (done) and on-going, now we cant increase something this. It is necessary to take a decision at on case by case basis.	Gov. (KDA) Government Government Government Consul (M. A. consultants for TRIP)
Q6	Payment		hourly payment and not the day payment. A payment for the full completion of the process would be better. should be based on the salaries of the professionals plus facilities to compensate. A percentage of a claim Based on the volume of the project. For expert people should pay international rate applicable. not known as it depends on the case. A pool of adjudicators maintained by Bank / Government. Paying 50 % of cost each not in fact happening. Contractor will include this cost to prelims or overhead and finally paid by the Bank. More for an independent authority maintaining a pool by paying retainer fee would work.	Gov. (NWSDB) Government Gov. (National Watersupply & Drainage Boards) Gov. (Road Development Authority) Consul (M. A. consultants for TRIP) Consultant Consul. (V Form consultant) Univ. (University of Moratuwa)
Q8-1	Claim / Dispute		Suspension of work Design issues Poor performance of contractor Delay of construction by contractor which lead to termination of contract Ambiguous conditions of particular application Interpretation of contract for payment issues. Termination	2 Governments Governement Government Government Consul. (Applo Hospitals Enterprise Ltd. / Archimede consultants Lanka Ltd.) Coonsultant Consultant
Q8-3	Difficulties about claim		Document (improper documents, lack of documents / records, etc.) Time Negotiations Technical issues Unclear contract documents or discrepancy within contract document / Different contract understanding between contractor and employer The parties involved are not obey with the DAB decisions. So there are lot of doubts about DAB. And no good experiences in Sri Lanka. Lack of knowledge of the contract / laws. Government offices are to settle big claims. Design changes and as a result additional cost. Make the cost of DAB "eligible" In most cases claims are not genuine and exaggerated or bogus in nature. -Agreements on rates for new variation items. Poor Estimation Some of the acontract documents are not fair to contractor. Engineer's authority is limited. Fundamental is very different. There's no specified time period for the Engineer or the Employer to reply against contractor's claim. Consultant is expected to abide by the employer's interest. The inflexibility of the Engineer. Languate Contractor's / Engineer's lack of knowledge in submissions to DAB.	10 (4 Gov. 1 Cont. 5 Consul.) 4 (2 Gov. 1 Cont. 1 Consul.) 2 Governments 4 Governments 4 (3 Cont. 1 Consul.) 3 (1 Gov. 1 Cont. 1 Other) Government 3 Contractors Gov. (KDA) Government Government Government Gov. (National Water Supply & Drainage Board) Gov. (PEACE) Cont. (MAEDA Corp.) Cont. (TAISEI Corp.) Cont. (Wakachiku) Cont. (TAISEI) Consultant Consultant Consultant
Q9	Support for DAB promotion		More seminars / trainings / workshops to understand DAB process accurately, or to aware DAB. Training for DAB adjudicators / There should be more experienced / competent adjudicators. Financial support to pay for DAB. More reasonable DAB rate Include DAB clauses in bidding documents, contract documents, guidelines, etc. of JICA. DAB decision should be enforced more strictly. Prepare a bit DAB to be appointed before advertising of tender notice (to be given in the design) of contract, which let him pay bid for the ???? If we understand practically that adoption of DAB is effective, yes, we have to. To select DAB member I would like to study about DAB's further and perhaps same illustratinos of disputes settled with the costs involved, may be of same help. Implementation to be done as a part of progress monitoring. Have simplified procedures to be adopted to promote DAB process. Technical issues Need to study further All parties should respect the contract document as far as they sign the contract. The Engineer should be more fair. We appreciate the involvement by JICA especially for settlement of the claims. The price forecast shall be adjusted in contract. DAB sample case data base will be useful on the web site or so to know more merit of it.	20 (11 Gov. 2 Cont. 4 Consul. 1 Univ. 2 Other) 11 (6 Gov. 1 Cont. 1 Consul. 1 Univ. 2 Other) 4 (2 Gov. 1 Consul. 1 Other) 2 Governments 4 (3 Gov. 1 Consul.) 3 (1 Gov. 1 Cont. 1 Other) Gov. (NWSDB) Government Government Government Gov. (National Watersupply & Drainage Board) Government Government Cont. (Shin nippon Air technology Co., Ltd) Cont. (TAISEI Corp.) Cont. (Mitsubishi Corp.) Cont. (MAEDA Corp.)

Commented answer

DAB Seminar Sri Lanka

Q9	Support for DAB promotion (continued)	There is a need of having legal recognition by Act of parliament urgent to DAB.	Cont. (VS Hydro (PV) Ltd.)
		There is no proper training and DAB practice to be adopted uniformly. In Sri Lanka, It is very useful to establish the Body of DAB consutitute unit to help the adhucators decision to be common and aware its uniformity.	Consul. (V Form Consultant)
		1) An adjudication centre must be established. 2) Assist ICTAD to set up the centre & assist to conduct training coursed through ICTAD	Consultant
Q10	Other comment	The necessary chances should be discussed with the Sri Lankan government as it should be in line with the law of the country, before brought in to effect.	Government (Plantationh Reform Project II)
		JICA should organize similar seminars regulary.	4 (3 Gov. 1 Consul.)
		More seminars with more practical experience, in-depth examples will be appreciated.	3 (2 Gov. 1 Other)
		Seminars on construction claims / Arbitration may be arranged in the future.	Government
		Valuable / helpful / thank JICA.	7 (5 Gov. 1 Consul. 1 Other)
		Local experience related DAB process (JCTARD Document as the G.C.)	Government
		Payment to DAB member.	Government
		DAB procedure can be gazefford by the government as an acceptable preliminary diopnde negotiation procedure.	Gov. (GCWRD)
		Assistance to create suitably infrastructure for the DAB's	Government
		Bank need why DAB's are more effective compared to other means - costs must be compared on actual cases.	Government
		JICA is approached for conducting the program benefit to on going projects in Sri Lanka.	
		More case studies with illustrations of costs involved in order to convince the audience about the cost effectiveness of DAB's could have been helpful in my opinion.	Government
		Government roll is very important as most of the contractors are government awarded.	Gov. (National Watersupply & Drainage Board)
		It is too early to predict the implementation of DAB in Sri Lanka It has to come as an act of parliament.	Gov. (PEACE)
		Tea / coffe servers were too small to serve the pericipants, within the designated time.	Government
		I have an experience only for FIDIC 1987. It was really new for me, I will study on.	Cont. (MAEDA Corp.)
		Seminar conducted time shoud be evening session rather than afternoon session.	Cont. (VS Hydro (PV) Ltd.)
		Specific issues related to public sector employees & Gov. audit mocedaros with regard to DAB decision implementation should be addressed.	Consultant
		1/2 day is insufficient.	Consultant
		(If not yet) JICA should clearly mention that the cost of adjudicator to be paid by JICA loan.	Consultant
		World Bank Road projects experienced problem on DAB decisions relating to price adjustment Indices - Pradeep 0773960213 (will be happy to share)	Other (WB)

DAB セミナー写真（ブノンペン）



DAB セミナー写真 (ハノイ)



DAB セミナー写真（ダッカ）



DAB セミナー写真（コロンボ）



アジア地域における DAB・アジュディケーター導入・普及セミナー

～円借款における DAB 活用の展望と課題～

プログラム

【第一部】

- | | |
|-------------|--|
| 14：00～14：05 | 開会の辞 JICA 資金協力支援部長 古賀 重成 |
| 14：05～14：10 | 『アジア地域における DAB・アジュディケーター導入・普及に関する企画検討調査の概要』
JICA 資金協力支援部 調達監理課長 伊藤 隆司 |
| 14：15～14：45 | 『DAB の制度と実務』
国立大学法人 京都大学経営管理大学院教授 大本 俊彦 |
| 14：50～15：20 | 『現地調査（ベトナム、カンボジア、スリランカ等）結果の報告』
日本工営株式会社 民活プロジェクト部長 林 幸伸 |
| 15：20～15：35 | 休憩 |

【第二部】

- | | |
|-------------|--|
| 15：35～16：05 | 『今後のアジュディケーター育成について』
国立大学法人 京都大学経営管理大学院教授 大本 俊彦 |
| 16：05～16：50 | ディスカッション |
| 16：50～17：00 | 閉会の辞 JICA 資金協力支援部 調達監理課長 伊藤 隆司 |



DAB Process Promotion Seminar

Practice of Dispute Boards

JICA

(Japan International Cooperation Agency)

Professor Toshihiko Omoto, Dr.Eng.
Graduate School of Management,
Kyoto University

JICA DAB Seminar 2010

© Toshihiko Omoto 2010

Today's Topics: Dispute Boards

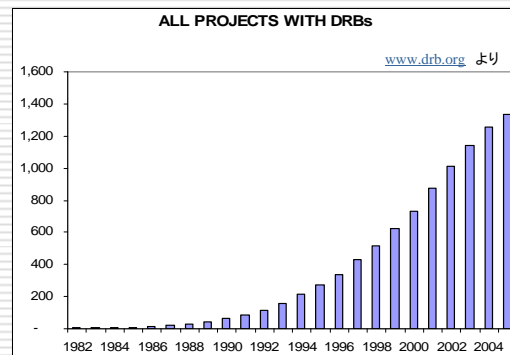
- ☐ Present State of DB's Dissemination
- ☐ Operation of DB
- ☐ Effects of DB
- ☐ Costs of DB
- ☐ Examples of DB



JICA DAB Seminar 2010

© Toshihiko Omoto 2010

Present State of DB's Dissemination DRBF's Report



JICA DAB Seminar 2010

© Toshihiko Omoto 2010

The Present State of DB's Dissemination DRBF's Report

- ☐ Reported projects are almost in USA
 - California: The authority of transportation
 - Florida: The authority of transportation
 - Seattle: Metro
 - Alaska: The authority of electricity
 - Federal government: The ministry of energy
- ☐ DRB used in 1,200 projects in 2005
 - 1.2 references/ project to DRB
 - 2% of references to arbitration/litigation
 - 1% of above resolved before award/judgment



JICA DAB Seminar 2010

© Toshihiko Omoto 2010

The Present State of DB's Dissemination outside the USA

- ❑ **Urtan Hydropower Project (China)**
 - US\$2 billion: 3,300 MW
 - 40 references to DAB, no claim to arbitration
- ❑ **Hong Kong International Airport**
 - US\$ 15billion
 - 6 references to DAB, 1 to arbitration, upheld
- ❑ **Katse Dam (South Arfica)**
 - US\$2.5 billion
 - 12 references to DAB, 1 to arbitration, upheld
- ❑ **Docklands Light Railway, UK**
 - US\$500 million
 - No reference to DAB
- ❑ **Saltend Private Gas Turbine Power Plant, UK**
 - US\$200 million
 - No reference to DAB
- ❑ **Many, Many more!**



JICA DAB Seminar 2010
© Toshihiko Omoto 2010

Operation of DB

Difference Between Other Means of Dispute Resolution

- ❑ DB is established before disputes take place
- ❑ Selection of DB members is agreed by both parties
- ❑ DB provides on-site dispute resolution
- ❑ Preventing disputes from taking place or escalating to formal disputes
- ❑ Early settlement of disputes
- ❑ DB provides regular Site visits and documents review to remain conversant with project development
- ❑ DB is more like part of project management, rather than means of dispute resolution
- ❑ Key to a successful DB; DB members to gain trust and regards for their neutrality, impartiality and capability



JICA DAB Seminar 2010
© Toshihiko Omoto 2010

Operation of DB Qualifications of DB members

- ❑ **FIDIC/MDB Harmonized Edition Rules**
 - Language ability
 - experience in the kind of Work
 - experience in interpreting contract documents
 - Availability for site visits
 - Impartial and independent of contracting parties and Engineer
 - no interest financial or otherwise with contracting parties and Engineer and with the contract itself
 - Nationality
- ❑ **Engineers or lawyers?**



JICA DAB Seminar 2010
© Toshihiko Omoto 2010

Operation of DB

Selection of DB Members/Establishment of DB

- ❑ Each party nominate one for the other party's approval, two members nominate the third member for both parties' approval
→ Chairperson
(The chairperson should be of different nationality from the two contracting parties.)
- ❑ The parties can make the selection together with the Engineer.
- ❑ DB members can be selected from a ballot of several candidates.
- ❑ Qualifications can be set down in advance (Example)
 - Selecting from FIDIC President's List
 - 2 Engineers + 1 Lawyer (chairperson)
 - 1 member shall be experienced in TBM tunneling work



JICA DAB Seminar 2010
© Toshihiko Omoto 2010

The Operation of DB

Information to be disclosed in making DB contracts

- ☐ Records of any professional or personal relationships with any director, officer or employee of the Employer, the Contractor or the Engineer, and any previous involvement in the overall project of which the contract forms part
- ☐ Records of any employment as a consultant or otherwise by the Employer, the Contractor or the Engineer
- ☐ Besides, information about the warranty on the impartiality and independence from the Employer, the Contractor and the Engineer



JICA DAB Seminar 2010
© Toshihiko Omoto 2010

Operation of DB

Example of Disclosure

- ☐ In this case, the candidate had been employed by one of the parties until 10 years ago for 7 years then no involvement since then
- ☐ The candidate warrants his independence on the party

Vice President
Company Ltd.

Dear Sir,

Th
Project
s B
Appointment of DAB

Thank you for your letter dated [] inviting me to provide a statement of availability to serve on a DAB to be constituted under this Contract.

I have reviewed the your letter and am pleased to advise you of my availability to serve on a DAB for this Contract and that, on the basis of the Project information contained in that letter,

1. I have no financial interests with, and am independent of the Parties and the Engineer.
2. I am familiar with the Conditions of Contract.
3. I am fluent in the language of the Contract.
4. I have extensive experience in the type of work that is being undertaken.

I understand that you have obtained my CV from the list of approved adjudicators published by FIDIC.

As a matter of disclosure, the Parties and the Engineer should be made aware that between the years 1990 and 1997 I was employed in [] as the position of Contracts Manager for the Far east. As part of the duties in that position I prepared Joint Venture Agreements and Subcontracts for projects on which [] was involved, often tendered for contracts in joint venture with [] and on at least one occasion subcontracted work to this Company. The last involvement of this nature was 13 years ago in 1995 in connection with the [] Hydroelectric Project in []. I left the employ [] in 1997 have not had contact with [] since that time and consider that any previous involvement with this Company will not affect my independence should I be selected to serve as a member of the DAB for this Project.

Thank you for this consideration and I look forward to hearing back from you.

JICA,
Sincerely,
© Toshihiko Omoto 2010

Operation of DB

Three-Party Agreement

- ☐ **Three-Party Agreement**
 - Signatures of the 3 parties
 - ☐ Each Member
 - ☐ Two Parties
 - Assignment of DAB procedures
 - Payment
 - ☐ Retainer Fee
 - ☐ Daily Fee

DISPUTE BOARD AGREEMENT

PROJECT

Employer: _____ Contractor: _____ Member: _____

Whereas the Employer and the Contractor have entered into a contract (Specifically the "Contract Documents" for the "_____")

herein after referred to as the "Contract") and desire jointly to appoint the Member to act as one of the three persons who are jointly called the DB;

The Employer, Contractor and Member jointly agree as follows:

1. The conditions of this Dispute Adjudication Agreement comprise the "General Conditions of Dispute Adjudication Agreement" and "Procedural Rules" that are in Volume I, Section VII, pages 106 to 114 of the Contract, all other terms of the Contract that apply to the work of the DB, and the following provisions. In these provisions words and expressions shall have the same meanings as are assigned to them in the General Conditions of Dispute Adjudication Agreement.
2. In accordance with Clause 6 of the General Conditions of Dispute Adjudication Agreement, the Member shall be paid as follows:

A retainer fee of _____	per month,
plus a daily fee of _____	per day.
3. In consideration of these fees and other payments to be made by the Employer and the Contractor in accordance with Clause 6 of the General Conditions of Dispute Adjudication Agreement, the Member undertakes to serve, as described in this Dispute Adjudication Agreement, as one of the three persons who are jointly to act as the DB.
4. The Employer and the Contractor jointly and severally undertake to pay the Member, in consideration of the carrying out of these services, in accordance with Clause 6 of the General Conditions of Dispute Adjudication Agreement.
5. This Dispute Adjudication Agreement shall be governed by the law of the Contract.

SIGNED BY: _____ SIGNED BY: _____ SIGNED BY: _____

for and on behalf of the Employer as for and on behalf of the Contractor as the Member

Date: _____ Date: _____ Date: _____



JICA DAB Seminar 2010
© Toshihiko Omoto 2010

Operation of DB - Acquaintance With the Project

First Site Visit

- ☐ **Logistics**
 - Basis: the DB should be seen as a member of the project team
 - Introduction of DB members (The participation of the head office?)
 - Participants' roles in the DB meeting
 - Confirmation of contract documents
 - ☐ Contract Agreement/Conditions of Contract/Bills of Quantities/Drawings/Programme/other relevant documents
 - Secure contract documents for DB
 - ☐ One set of copies on the site
 - ☐ An A-5 subsized version for each DB individual
 - Building of communication network
 - Arrangements & Preparations (Arrangement of hotel, vehicles, meeting rooms and equipments)
 - Deciding the date of Site Visits (based on the expected progress of the project)



JICA DAB Seminar 2010
© Toshihiko Omoto 2010

Operation of DB-Acquaintance With the Project First Site Visit (continued)

□ Discovering potential disputes areas

- Seeds of problems planted at bidding, contract negotiation and signing stage
 - Incompletion in the changed or added terms
- Problems appear right after signing of the contract
 - Corporation registration
 - Work permit
 - Issues in relation to local labors or subcontractors
 - Problems of Importing and exporting materials and equipments
 - Delay of preceding construction
 - Delay of drawing issuance
 - Delay in mobilization

□ Establishing Problem Solving Project Team

- for the project
- Documentations (Claims) come later



JICA DAB Seminar 2010
© Toshihiko Omoto 2010

Operation of DB - Acquaintance With the Project Site Visits

- Frequency: Every 3~4 months
- Length-of-stay: No shorter than three days
 - Day 1: Site inspection
 - Day 2: Hearing
 - Employer, Contractor, Engineer
 - The persons concerned besides the parties (If necessary, the subcontractors, the designer etc.)
 - Day 3: Site Visit Report
 - Draft and Review/Correction
 - Signing and Distribution before leaving Site
 - Deciding the date of next Site Visit



JICA DAB Seminar 2010
© Toshihiko Omoto 2010

Site Visit Agenda (6 – 10 July 2008)

Date	Time	Place	Contents	Responsible	Participants
Monday 7	08:00	Hotel	DB picked up to Site I Briefing & tour	Mr. X	DB, Emp, Cont. Eng
	12:30	Site Office	Lunch	Mr. Y	DB, Emp, Cont, Eng
	13:30		Tour to Site II & III	Mr. X	DB, Emp, Cont, Eng
	18:30	Camp Canteen	Dinner & to Hotel	Mr. Y	DB, Emp, Cont, Eng
Tuesday 8	09:00	Hotel	DB picked up to Site I Emp office for meeting	Mr. X	DB, Emp, Cont, Eng, Sub A&B
	12:30	Site Canteen	Lunch	Mr. Y	DB, Emp, Cont, Eng, Sub A&B
	13:30 18:30		Afternoon session & to Hotel	Mr. X	DB, Emp, Cont, Eng, Sub A&B
Wednesday 9	09:00	Hotel	DB picked up to Site office & prepare report		DB
	16:00		Deliver/review of report & to Hotel	DB	DB, Emp, Cont, Eng, Sub A&B



JICA DAB Seminar 2010
© Toshihiko Omoto 2010

Operation of DB-Acquaintance With the Project Work Between Site Visits

- Sending of Documents
 - Monthly reports
 - Main Variations
 - Claim Notices/Submissions
 - Updated Programme
 - Important Letters other than claim related
- Methods of Sending
 - File sending service
 - Opening of ftp:// sites



JICA DAB Seminar 2010
© Toshihiko Omoto 2010

Methods of Sending (Sample)

- Put on to the web site →



- Use file sending service
such as www.yousendit.com etc.

(Not expensive, free up to 100MB)



JICA DAB Seminar 2010
© Toshihiko Omoto 2010

Effects of DB Dispute Resolution

- Disputes that cannot be solved among the parties and engineers are referred to DB (Referral)
- DB being well informed of progress/contractual issues
 - Taking advantage of regular Site Visits
 - Voluminous documents and formal presentation unnecessary (Simple Position Papers suffice)
 - Solves disputes at the site level
 - Legal representatives are unnecessary (Should lawyers be permitted to participate?)
 - Swift decisions
- Claims and disputes will not be left unsolved
 - The progress of construction will not be hindered
 - Disputes will not escalate
 - Collaborative relationship is established and maintained between the parties (for the project)



JICA DAB Seminar 2010
© Toshihiko Omoto 2010

Effect of DB Prevention of Disputes

□ Effects of Site Visits

- The first Site Visit
 - Identifying, and efforts for solving, the problems appeared before and right after the signing of the contract
 - Discovering potential dispute areas and promoting dispute prevention
- Site Visits
 - Discovering problems and efforts for dispute prevention
 - Sometimes technical advices are also available (sensitive to the parties' obligation)
 - Improvement of the relationships (individuals and groups) among the parties, the Engineer and other concerned persons
 - Make use of the influence to the third person (subcontract, designer, relevant government offices and others departments)
 - Helps maintaining parties' integrity



JICA DAB Seminar 2010
© Toshihiko Omoto 2010

Effect of DB Prevention of Disputes (continued)

- DB to be kept informed between Site Visits
 - Sensing the parties' changes in attitude and provide advices about improvement
 - Improving understanding of the contract by Q&A
- Informal/advisory opinion
 - DB obtains the trust on neutrality and fairness through Site Visits etc.
 - Informal/advisory opinions are easy to be accepted.



JICA DAB Seminar 2010
© Toshihiko Omoto 2010

Effect of DB Informal/advisory opinion

□ Informal/Advisory Opinion

- DB is not a consultant
- But, DB may give advice under the parties' mutual agreement
- No binding effect (neither on the two parties/Engineer nor on DB)
- Can become base for negotiations between the parties
- Disputes are settled before escalating
- Is not equal to DRB's recommendation

□ For example

- Incompletion in the changed or added terms: Adjustment of interpretation and making of new draft
- Advice on solution that involves the third party (such as the subcontractor)



JICA DAB Seminar 2010
© Toshihiko Omoto 2010

The cost of DB FIDIC's Explanation

□ Retainer

- If required, a business trip to the Site within 28 days is possible
- DB members are to be conversant with the situation of the site, and maintain the related documents.
- Covers office expenditure and other costs

□ Daily Fee

- Daily fee for site visit
- Days of stay + maximum two days for each way for travel
- Days needed for documents reviewing for the referral

□ Reasonable expenses such as airfare, hotel fee etc.



JICA DAB Seminar 2010
© Toshihiko Omoto 2010

Cost of DB Difference Between FIDIC 1999&MDB Edition

□ About the Retainer Fee During the Warranty period

- 1999: "shall be reduced by 50%"
- MDB: "shall be reduced by one third"

□ About the Retainer/Daily Fee, when no description in the contract, and agreement cannot be reached between the parties

- 1999: No description
- MDB: the "appointing entity/official" may make the decision



JICA DAB Seminar 2010
© Toshihiko Omoto 2010

Cost of DB: ICSID ([International Centre for Settlement of Investment Disputes](http://wwwICSID.org))'s Rule

□ FIDIC: Fee by ICSID can be agreed

Adjudicators Fees
FIDIC does not recommend fees scales for either adjudicators or for the administration for adjudicators. An indication of acceptable terms and conditions is provided by the World Bank's International Center for Settlement of Disputes (ICSID) - see *Memorandum of Fees and Expenses for ICSID Arbitrators*, 8 March 2004 - that applies for members of Arbitral Tribunals constituted under the ICSID Convention.

□ ICSID's Rule: US\$3,000/day

Fees and Expenses of Conciliators, Arbitrators and *ad hoc* Committee Members
3. In addition to receiving reimbursement for any direct expenses reasonably incurred, conciliators, arbitrators and *ad hoc* Committee members are entitled to receive, unless otherwise agreed between them and the parties, a fee of US\$3,000 per day of meetings or other work performed in connection with the proceedings, as well as subsistence allowances and reimbursement of travel expenses within limits set forth in Administrative and Financial Regulation 14.



JICA DAB Seminar 2010
© Toshihiko Omoto 2010

Cost of DB

Payment to DB members

- ❑ Retainer
 - Payment of three months in advance
 - If no special mutual agreement, no change for 24 months
- ❑ Daily Fee/Actual expenses such as the travel expenses
 - Right after the end of the Site Visit
- ❑ Methods of payment
 - The Contractor pays 100% at first
 - Reimbursement of 50% through progress payment
 - In other words, the Employer can pay by loans



JICA DAB Seminar 2010
© Toshihiko Omoto 2010

Cost of DB

Cost-effectiveness

- ❑ Project without DB - 1
 - The exchange of letters is a heavy work, hindering problems from being solved
 - Each one pursues his own profit
 - The contracting parties/Engineer don't get along well with each other
 - Claims are left unsolved
 - Tiny disputes may also escalate (global claims, additional problems of interest and exchange rates)
 - Production and assessment of claim packages



JICA DAB Seminar 2010
© Toshihiko Omoto 2010

Cost of DB

Cost-effectiveness (continued)

- ❑ Project without DB - 2
 - Production and assessment of claim packages
 - ❑ Additional costs for lawyers, experts and employees (for long time)
 - ❑ Enormous cost occurs even if there is no litigation or arbitration
 - ❑ Disputes arise between the Employer and the Consultant on the additional cost of claim assessment/evaluation work



JICA DAB Seminar 2010
© Toshihiko Omoto 2010

Cost of DB

Cost-effectiveness – (continued)

- ❑ Project without DB - 3
 - More enormous cost occurs if disputes escalate into litigation and arbitration (lasts for years)
 - ❑ (Example) Japan:
5 lawyers for each side
 - ❑ (Example) International:
2 Barristers+3 Solicitors for each side
2 Experts (1 geologist + 1 consulting firm)



JICA DAB Seminar 2010
© Toshihiko Omoto 2010

Cost of DB

Cost-effectiveness (Continued)

□ Projects with DB

- The cost of DB will be no more than the cost estimated by experienced Employer/Engineer and Contractor for production and assessment of claim packages
- Prevention of gambling in contract management, improvement of certainty
 - Prevention of irrational assessment by the Employer/Engineer
 - Engineer acts fairly and reasonably
 - Prevention of the Contractor's unjustified claims
 - Helps maintaining integrity of the parties
 - Stability of bidding price



JICA DAB Seminar 2010
© Toshihiko Omoto 2010

Cases of DB

Cases of DAB, Example of wisdom

□ Water-supply tunnel project in China

- JBIC loans
- 13 times of site visits from Mar 2003 to Mar 2007
- The defect liability period ended in Feb 2008
- **The DAB contract was extended from Mar 2008 to the end of final discharge of all obligation**

□ Selecting of DAB members

- The Employer: A Japanese engineer (FIDIC President's List, advised by Japanese consulting firm)
- The Contractor: An American engineer (DRBF President)
- The Chairman: International construction lawyer (FIDIC President's List, American)
 - Recommended by co-members' agreement
 - Chosen by the agreement between the parties



JICA DAB Seminar 2010
© Toshihiko Omoto 2010

Cases of DB

Cases of DRB, Example of wisdom

□ Port construction project in Madagascar

- World Bank (20%) and private co-financing
- Site visits were discontinued after the third time
- **However, retainer contract being maintained**

□ Selecting of DB members

- Parties agreed to select from FIDIC President List
- The Employer and the Contractor agreed on the selection, with assistance by the Engineer



JICA DAB Seminar 2010
© Toshihiko Omoto 2010

Cases of DB

Cases of DRE (One-person DRB)

□ Japan

- A gas turbine plant operation and maintenance (o/m) contract for 15 years
- Apply DRE (Dispute Review Expert) or One Person Dispute Review Board for the last 10 years
- Meetings are held once every three months
- No retainer fee, but documents review/drafting recommendation etc. will be paid by hourly rate

□ Selecting of the Experts

- A mediation was held on the fifth year of the contract under the ADR rule of ICC
- **After the mediation concluded successfully, the Neutral was selected for the DRE**



JICA DAB Seminar 2010
© Toshihiko Omoto 2010

DB裁定の執行性

□ DAB (1999 Red Book)

DB (2005 MDB Harmonised Edition)

- 裁定は下されたら即、効力を持つ。
- 不服申し立てを行っても、裁定は実行しなければならない。
- 裁定を実行しなし場合、クレームの内容を争うのではなく、裁定に実行の命令を仲裁に申立てることが出来る。(Mr. Christopher Seppäläの記事参照)



JICA DAB Seminar 2010
© Toshihiko Omoto 2010

Amicable Settlement

□ DBの裁定後、不服申し立て

- 仲裁前に“Amicable Settlement”の努力が要求されている。

- この条項は不服申し立てによって、裁定の実行を猶予しているわけではない。



JICA DAB Seminar 2010
© Toshihiko Omoto 2010

Mr. Christopher Seppäläの記事

An Engineer's/Dispute Adjudication Board's Decision is Enforceable by An Arbitral Award

Contrary to widespread belief, a “binding” but not “final” decision of an Engineer under the FIDIC Conditions is enforceable by an arbitral award, in appropriate circumstances. This has been established for the first time by the interim award in ICC Case No. 10619. By analogy, a “binding” but not “final” decision of a FIDIC Dispute Adjudication Board should also be enforceable by an arbitral award in such circumstances.

(There should be no issue that a “final and binding” decision of an Engineer or Dispute Adjudication Board is enforceable by an arbitral award)



JICA DAB Seminar 2010
© Toshihiko Omoto 2010

Practice of Dispute Board

Than you for your
attention

The End



JICA DAB Seminar 2010
© Toshihiko Omoto 2010



アジア地域におけるDAB・アジュディケーター導入・普及セミナー

現地調査(ベトナム、カンボジア、スリランカ等)の報告

2010年2月18日

日本工営株式会社
林 幸伸

JICA DAB Seminar 2010

2

調査の目的

- DABプロモーションセミナーの開催
- 援助窓口機関及び円借款案件実施機関との協議・意見交換
- JICA現地事務所との協議・意見交換



JICA DAB Seminar 2010

3

調査の工程

	国 名	調査期間
1)	カンボジア	2009年11月19日－20日
2)	ベトナム	2009年11月22日－23日
3)	インドネシア	2010年1月26日
4)	バングラディシュ	2010年1月28日
5)	スリランカ	2010年2月1日－2日



JICA DAB Seminar 2010

4

DABプロモーションセミナー

1. プログラム

- 1) FIDIC契約約款におけるDABの位置付け
- 2) DABの実際
- 3) 質疑応答

2. 参加者数

	国 名	参加者数
1)	カンボジア	77名
2)	ベトナム	157名
3)	バングラディシュ	53名
4)	スリランカ	105名



JICA DAB Seminar 2010

円借款案件実施機関との協議 (カンボジア)

1. 調査対象機関: シアヌークビル港湾局(PSA)、プノンペン上水道局(PPWSA)、カンボジア電力公社(EdC)
2. 聴取された主な意見・確認内容
 - DAB費用については割高感があり、特に発注者側の負担について疑問ある。
 - 公的資金援助が得られるなら前向きに導入も考える。
 - 最近の円借案件で、adjudicationが取り入れられている契約もある。
 - カ政府はADR(裁判外紛争解決)を推奨しており、ローカル契約では導入が始まっている。



円借款案件実施機関との協議 (ベトナム)

1. 調査対象機関: MPMU、計画投資省(MPI)、建設省(MOC)
2. 聴取された主な意見・確認内容
 - MPIでは、DABは発注者にとっても大きな便益をもたらす制度であると認識。パイロットプロジェクトによりDABを経験し、その効果を実証したい。アジュディケーター選定プロセスには透明性確保が必要。
 - 他方、DAB普及のためには発注者にとっての便益を明確化すべき、との意見もあり。
 - 現状のクレーム処理・紛争解決プロセスにおいて上位機関からの介入があり、ADB導入にも上位機関の合意を要する。
 - ベ国の法的枠組みとの整合性を懸念する意見あり。
 - 割高感を払しょくするためにもパイロットプロジェクトにより検証したい。



円借款案件実施機関との協議 (インドネシア)

1. 調査対象機関: 国有電力公社(PLN)
2. 聴取された主な意見・確認内容
 - PLNではDABを導入し建設を実施した事例はない。従って、DABについては未だあまりよく理解されていない状況にある。
 - しかしながら、今後の円借款案件では、DABが導入されてゆくことになるだろう。例えば、これから建設が開始される水力発電計画では、JICA Sample Bidding Document(2009年版)を採用しDABも導入される予定である。



円借款案件実施機関との協議 (スリランカ)

1. 調査対象機関: 道路開発局(RDA)、外部リソース部(DER)、セイロン電力公社(CEB)、国家給水排水公社(NWSDB)
2. 聴取された主な意見・確認内容
 - カンボジアでは、国内プロジェクトで使用する標準契約書(ICTAD調達書)にadjudicationが採用されており、adjudicationの普及度についてはアジア諸国の中では最も高いと考えられる。
 - 但し、円借款案件における導入事例はまだあまり多くはない。
 - 円借款道路案件において、2つの契約パッケージにおいてDABが導入されている。3人制DABでアジュディケーターはスリランカ人が務めている。DABの決定が合意されず仲裁に発展しているケースがある。また、DABの決定に対する不服表明は出されたが、次のステップ



円借款案件実施機関との協議 (スリランカ)

2. 聴取された主な意見・確認内容(続き)

(即ち仲裁)の開始意図がなされず、紛争が膠着しているケースも見られた。

- 入札図書の承認や契約紛争の合意に当たりAttorney General の意見を求める政府内手続きがあり、プロジェクト実施機関としてこれを尊重する必要がある。
- スリランカ人のアジュディケーターの報酬日額は300～500米ドルであるが、国家公務員の給与レベルに比べても高いと感ずる。外人アジュディケーターの雇用はアフォーダブルではないと感ずる。
- 紛争が発生してからアジュディケーターが行動を始めるケースが多く、紛争の予防機能が十分に果たされていないと感ずる時がある。



円借款案件実施機関との協議 (スリランカ)

2. 聴取された主な意見・確認内容(続き)

- DABのシステム自体は良いものと考えているが、その費用を正当化するには、過去の事例からDABがない場合とある場合のコスト・シミュレーションを行い、DABが発注者にとって優位なものであることを確認する必要があると考える。
- 電力案件では、現時点で深刻な建設紛争は発生していないと理解している。またDABの導入については未経験である。
- DABの費用はプロジェクトコストとなるので、DABの導入に当たっては、DAB費用と紛争が長期化することによる負担コストを比較検討する必要があるのではないかと考える。



円借款案件実施機関との協議 (スリランカ)

2. 聴取された主な意見・確認内容(続き)

- 紛争の裁定に当たり、法的な解釈については法律家の判断が必要となろうが、技術的側面の判断については専門家の参加が必要である。
- 上水道案件(ADB融資)で、契約書にMDB版が使用され、3人制ad-hoc DABが導入されている事例がある。アジュディケーターは全てスリランカ人である。これまで1件の紛争がDABに付託され、物価変動に関わるクレームであったが、最終的には仲裁に行った。
- DAB のコンセプトは理解するが、問題はstanding かad-hoc か、の選択である。



アンケート調査

1. アンケート内容

- セミナーの評価
- DAB導入についての意見
- クレームの種類と処理経験

2. 回答者数

	国 名	回答者数 (回答率)	政府	コントラクター	コンサルタント	その他
1)	カンボジア	77名(60%)	74%	5%	16%	5%
2)	ベトナム	52名(33%)	71%	4%	8%	17%
3)	バングラディシュ	44名(83%)	98%		2%	
4)	スリランカ	79名(75%)	55%	18%	15%	12%



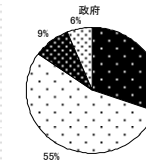
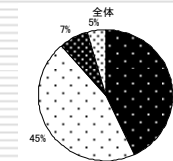
アンケート調査 (セミナーの評価)

(評点: 5点満点)

	国名	興味深い	役に立った	わかりやすい
1)	カンボジア	3.9	3.9	3.6
2)	ベトナム	3.5	3.6	3.5
3)	バングラディシュ	3.8	3.7	3.7
4)	スリランカ	3.9	4.0	4.0



アンケート調査 (カンボジア)



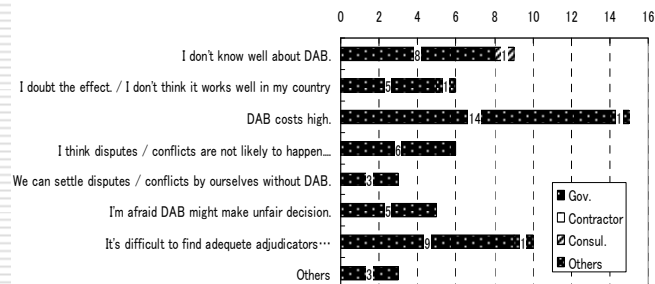
凡例

- Yes, I want to adopt DAB.
- No, I will adopt DAB if certain issues, which I am concerned about, are cleared.
- No, I don't want to adopt DAB.
- 無回答



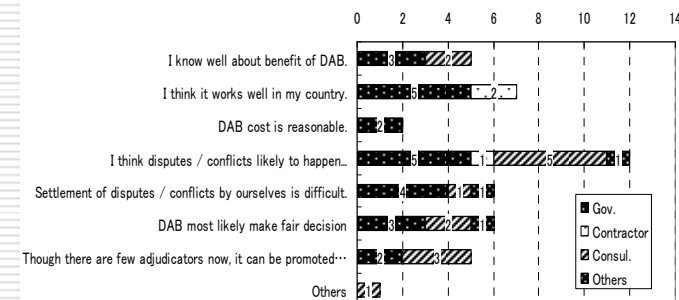
アンケート調査 (カンボジア)

DABを導入したくない理由

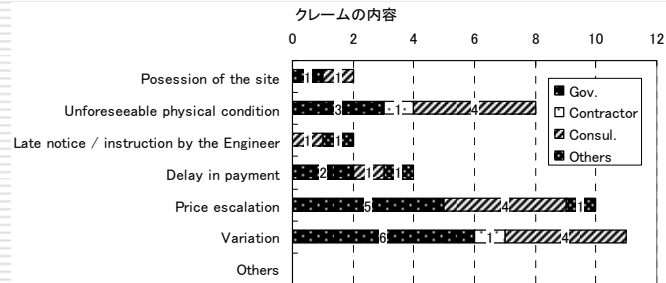


アンケート調査 (カンボジア)

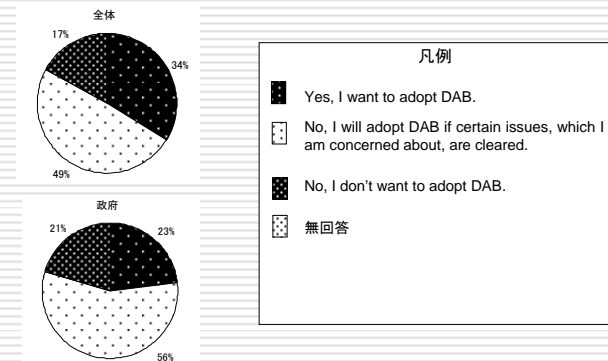
DABを導入したい理由



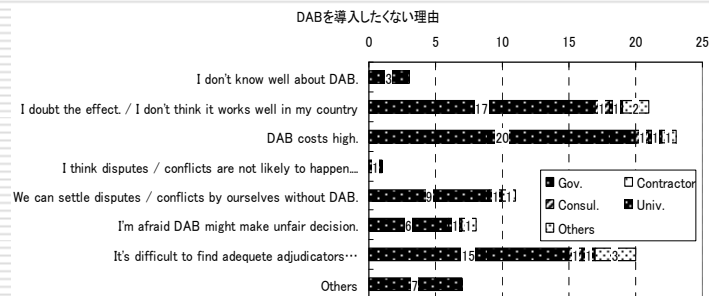
アンケート調査 (カンボジア)



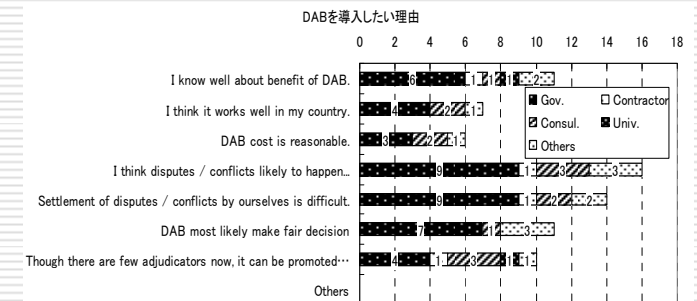
アンケート調査 (ベトナム)



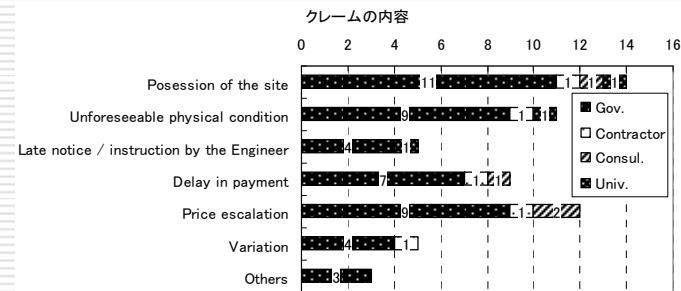
アンケート調査 (ベトナム)



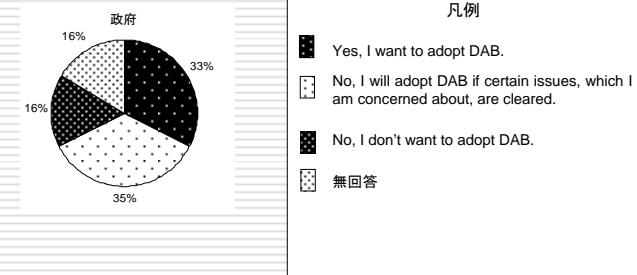
アンケート調査 (ベトナム)



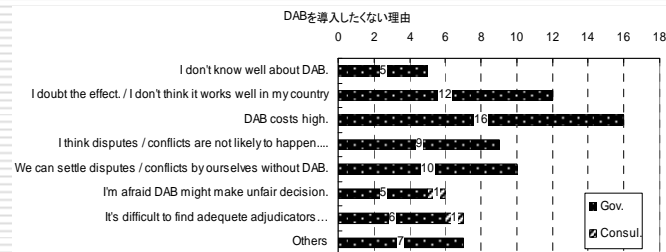
アンケート調査 (ベトナム)



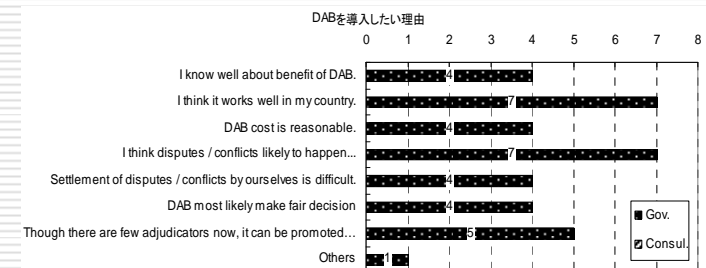
アンケート調査 (バングラデシュ)



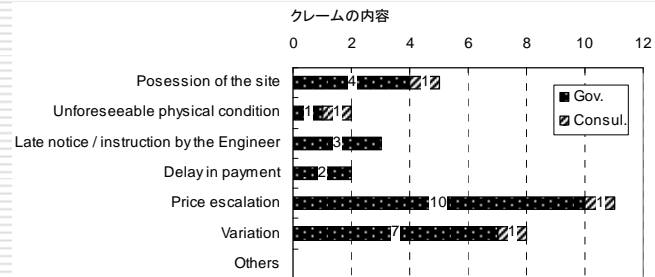
アンケート調査 (バングラデシュ)



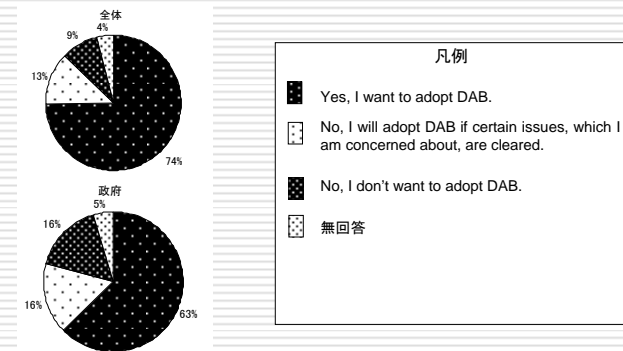
アンケート調査 (バングラデシュ)



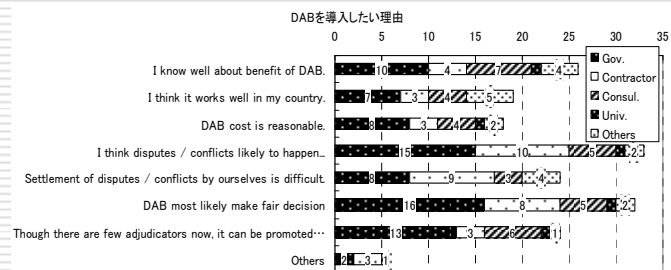
アンケート調査 (バングラデシュ)



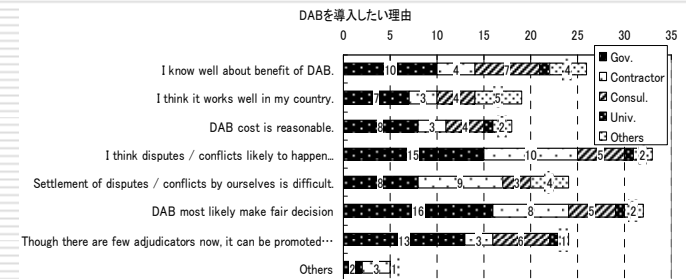
アンケート調査 (スリランカ)



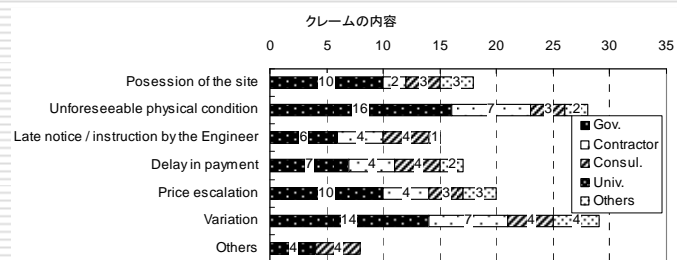
アンケート調査 (スリランカ)



アンケート調査 (スリランカ)



アンケート調査 (スリランカ)



まとめ

1. 各国ともに、DABは殆ど未経験の新しい制度であり、その導入に対してまだ戸惑いを表明する意見が多い。
2. DABの費用については、多くの実施機関が割高感を有している。DABの合理性は理解するものの、費用負担が最大の懸案事項であり、低額でのDAB導入を実現したい、との意見が多く聞かれた。
3. DAB導入がもたらす発注者の便益を実証するために、パイロットプロジェクト実施が有効である、との意見がしばしば聞かれた。

まとめ (続き)

4. 適任のアジュディケーターを探すことに対して不安を感じる意見も聞かれた。
5. クレーム・紛争の原因としては、1)現場の引渡し遅れ、2)予見不可能な物理的条件、3)物価変動調整、4)支払遅延、5)変更、が多い。
6. JICAに期待する事項として、DABの理解促進を図るためのセミナー、ワークショップの開催や、アジュディケーター育成のための支援を求める意見が多く聞かれた。

まとめ (続き)

7. 契約運用上の問題点として以下が確認された。
 - ① Engineer's Decision/DAB's Decisionの拘束力が遵守されていないケースが散見された。
 - ② 契約でstanding DABが規定されているのに関わらず、その後の契約当事者間の協議により、設置が引き延ばされている事例がみられた。
 - ③ 発注者側の内部部局がEngineerを兼任している事例がみられる。このようなプロジェクトでは特にDABの導入が有効と考えられる。
8. DABの普及には、発注者となる実施機関のみならず政府内の調達担当部局、財政部局、法務部局、の十分な理解が必要と考えられる。



アジア地域におけるDAB・アジュディケーター導入・普及セミナー

今後のアジュディケーター育成について

2010年2月18日

京都大学 経営管理大学院
教授 大本 俊彦

JICA DAB Seminar 2010

DB Member Training Kit

- 今回の調査業務の1つの成果物
- 構成
 - テキスト
 - MDB版(JICA Sample Bidding Documents)をベースに
 - I. Introduction
 - II. Selection of DB Member
 - III. Operation of a Dispute Board
 - IV. Financial Aspect of the DB
 - V. After the DB Decision
 - 付録
 - FIDIC MDB Harmonised Edition
 - FIDIC 1999 Red Book 抜粋



JICA DAB Seminar 2010

DB Member Training Kit

- Trainer's Version/Trainee's Version
- 4～5日間コース
- 英語
- Interactive
 - Case Study
 - Moc DB Referral
 - Assignment – Decision Writing



JICA DAB Seminar 2010

Training Courseの実施(案)

- JICA主催
- アジア各地
- アジュディケーター資格試験の要件
- アジュディケーターにならなくとも有意義
- 対象者
 - コンサルタント
 - コントラクター
 - 弁護士
 - QS
 - 融資機関



JICA DAB Seminar 2010

Training Courseの実施(案)

□ 講師

- FIDICの修了証書を出す場合
 - FIDICの認定講師
- FIDICの修了証書を出さない場合
 - FIDIC APAのメンバー
 - FIDIC President's List



JICA DAB Seminar 2010

Training Courseの実施(案)

□ 東京で開催したら

- 参加しますか?
- 費用は?



JICA DAB Seminar 2010

DB メンバー資格審査プロセス(案)

□ FIDIC MAによるNational List

□ 資格審査

- FIDIC MDB HE Training
- DB Member Training (JICA Training Kit)
- Assessment (資格審査)とMAへの推薦
- MA National List への登録

□ 定期的(3年毎)レビュー



JICA DAB Seminar 2010

DB メンバー資格審査

FIDIC's guideline criteria for DB members on National Lists

- be an employer or a retired employer of a member firm;
- possess appropriate academic and/or professional qualifications as an engineer in any of the principal disciplines of engineering, or equivalent professional qualifications;
- has at least 10 years' experience as an engineer within a consulting engineering or engineering firm operating within the built and natural environment;
- possess detailed knowledge of FIDIC consultant-client agreements and FIDIC works contracts;
- possess good interpersonal and communication skills;
- is committed to and available as an adjudicator;
- has the ability to be partial and objective;
- maintains adequate professional indemnity insurance;
- has excellent spoken and written language capabilities in the language of the country;
- provides evidence of and ongoing commitment to the requirements of a continuing education programme;
- selected candidates must attend a Member Association adjudication assessment workshop followed by an interview with the association's dispute resolution committee or similar body.



JICA DAB Seminar 2010

DAB セミナーにおける質疑応答(東京)

1. 日時：2010 年 2 月 18 日、14：00 - 17:00

2. 場所：弘済会館、東京

3. 出席者：73 名

4. 質疑応答内容（Q：質問、A：回答、C：コメント）：

Q1： アジュディケーションによる裁定が、国際的になかなか執行されないという現実があるが、ICC のルールでは裁定に不服申し立てのない場合は、裁定をベースとして **arbitral award** を出すという手続きと認識しているがそうであるか。

A1： ICC のルールでは不服申し立てのない場合はそうである。

Q2： DAB トレーニングを受けたあとの修了書はどのような効力があるのか。例えば、修了書をとれば JICA 案件のアジュディケーターとしての登録が可能となるのか。

A2： トレーニング自体は、アジュディケーターを目指さない場合においても、役に立つものであると考える。アジュディケーターを育成するという観点からは、トレーニング終了後に各国（FIDIC の MA）で実施する DAB 資格審査を経てアジュディケーターとしての資格認定を行うことを想定している。アジュディケーターは融資機関が登録制度を運用するのではなく、FIDIC の MA が **National List** を整備するのが現実的である。この場合、リストからアジュディケーターを選定するのはあくまでも契約者側であるので、MA がアジュディケーターの品質にかかわる最終的な責任をとるようなことは起こらないと想定している。

Q3： アジアの多くの国では、アジュディケーションがその国のリーガルフレームワークで規定されていないのではないかと思われる。その場合、アジュディケーションによる裁定は結局のところ効力を持たないことになるので、先ず各国のリーガルフレームワークの中にアジュディケーションを **ADR** の一つとして位置づけることが重要ではないかと思われる。

A3： FIDIC MDB 版におけるアジュディケーションは、契約上の紛争解決のプロセスとして定義され、契約当事者がこのプロセスの遵守を合意するものである。また、最終的な紛争解決手段として規定される仲裁への道を残しており、リーガルフレームワークに整合しないということは起こらないと考える。むしろ開発途上国で問題となっているのは、実施機関の上位機関などからの圧力によりそのプロセスが遵守されていない契約の運用がみられることである。

日本においてもアジュディケーションは法律で規定されていないが、契約自由の原則により、契約の中でそのプロセスが合意されたなら、それは契約上の義務事項とし

て契約当事者を拘束することになる。従って、制定法がないからアジュディケーションは無効である、ということにはならないと考える。日本でも「調停」に関する法律はないが、調停での和解合意は契約として有効になる。但し、制定法がないために認知されにくいということは考えられるため、アジュディケーションの普及のためには継続的な教育活動が必要となろう。

C1：開発途上国の発注者だけではなく、請負者にとっても DAB の費用は懸念事項である。請負者としては入札金額にこの費用を算入することになるが、入札が公平に評価されるためには、DAB 費用を **Provisional Sum** として計上しておくことが考えられる。DAB の普及のためには、ガイドライン等でそのような対処法を標準として提示することが必要となるのではないかと考える。

Q4：コントラクターが日本国籍のプロジェクトで DAB が 1 人制の場合には、日本人アジュディケーターを登用するのは好ましくないということになるのであろうか。

A4：FIDIC のガイドラインでは、1 人制 DAB および 3 人制 DAB の議長は第三人であることが望ましいとしている。コントラクターが日本国籍の場合は、日本人アジュディケーターは議長以外のメンバーとして活躍する道がある。

Q5：FIDIC の **National List** に関わるガイドラインのなかに、資格要件として専門職業賠償保険の付保が記載されているが、個人で専門職業賠償保険を掛けるのは実際上かなり困難ではないか。また、アジュディケーションは保険が必要となるようなリスクの高い業務であるのか。

A5：FIDIC **President List** のアジュディケーターでもこのような厳しい要求事項はなく、何故 **National List** に関してこのような項目が示されているのかは不明である。アジュディケーターの損害賠償責任については、一般的には仲裁人と同じく、判断に対する訴追は受けないと理解されている。

Q6：FIDIC **President List** のアジュディケーターはどのような職業形態の方が多いのか。

A6：大きな企業の職員であるケースは殆どなく、ほぼ例外なく個人または個人事務所である。企業の職員の場合は、利益相反となる可能性も排除できない。

Q7：現状では円借款案件において MDB 版を採用している契約は少なく、その普及にはかなりの時間を要するのではないかと感じるが、促進するための手立てを考えておられるのか。

A7：JICA としては、実施機関に対して MDB 版の使用を促進する立場にあるが、まだ馴染みが薄いというような理由から消極的な実施機関もいる。JICA では円借款供与国における調達監理セミナー等の場で啓蒙に務めているが、普及にはある程度の時間を要すると考えている。入札書はコンサルタントが作成する場合が多いので、1999 年に改訂した **Sample Bidding Documents** が出発点になることを、コンサルタントの

方にも配慮もお願いしたい。

Q8：DAB の費用はプロジェクトコストの一部であるという認識を普遍化することが、DAB の普及につながると考えるが、この点は如何か。

A8：DAB が採用された中国の円借款案件では、DAB 費用は BQ 上の項目ではなかったが、コントラクターは発注者側が負担する DAB 費用を Monthly Statement で請求し、支払も問題なく実行されていた。トルコやルーマニアの円借款案件でも同様に対処されている。従って、DAB 費用をローンで賄うことは実際に行われている。

JICA としても DAB 費用はプロジェクトを遂行するための必要経費と捉えている。

以上

Questionnaire on DAB

Q1. Which entity do you belong to?

- (1) ☐ Contractor (2) ☐ Consultant
(3) ☐ Others ()

Q2. Please give your comment/opinion regarding introduction of DAB into JICA ODA loan projects?

- (1) ☐ To be adopted in principle

Reasons :

- (2) ☐ To be adopted, if certain conditions are fulfilled

Conditions :

- (3) ☐ Not welcome

Reasons :

Q3. Please give your comment/opinion regarding numbers of DAB members

- (1) ☐ To be 3 persons in principle

Reasons :

- (2) ☐ To be 1 person in case of the following conditions

Conditions :

Q4. Please give your general comment/opinion regarding DAB. (expectation、issues to be overcome、unclear points, etc.)。

Please give your personal opinion for Q5 to Q7.

Q5. How did feel about adjudicator after attending today' seminar?

- (1) ☐ I would like to serve as or interested in adjudicator.
- (2) ☐ I don't like to serve as or interested in adjudicator.

Q6. Do you want to participate in DAB Training Course, if it is held in Japan?

- (1) ☐ Yes, I would like to participate in.
- (2) ☐ I would like to participate in, if certain conditions meet.

Conditions :

- (3) ☐ No, I don't.

Q7. Do you want to participate in Adjudicator's Assessment Workshop, if it is held in Japan?

- (1) ☐ Yes, I would like to participate in.
- (2) ☐ I would like to participate in, if certain conditions meet.

Conditions :

- (3) ☐ No, I don't.

Q8. Please give your opinions regarding today's seminar, if any.

Thank you for your contribution!

DAB (Dispute Adjudication Board) セミナー アンケート

日時: 平成22年2月18日(木) 14:00 ~ 17:00

場所: 弘済会館

場所: 弘済会館			回答数	内訳		
				コントラクター	コンサル	その他・無記名
セミナー参加数			58	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)
アンケート回答数			58 (100.0%)	32 (55.2%)	19 (32.8%)	7 (12.1%)
問2	DABの導入	(1) 原則的に導入すべきと考える。	38 (65.5%)	21 (65.6%)	10 (52.6%)	7 (100.0%)
		(理由) 紛争の予防/効率的な解決/ローコスト等	12	6	2	4
		公平性の確保	3	3		
		クレーム処理に要する時間/労力の低減	2	1	1	
		その他	12	6	2	4
		(2) ある条件を満たす案件について導入すべきである。	20 (34.5%)	11 (34.4%)	9 (47.4%)	0 (0.0%)
		(条件) 工事金額・規模	5	2	3	
		工事内容	4	3	1	
		発注者が費用負担できる	4	1	3	
		当事者の合意がある	2	1	1	
その他	12	7	5			
(3) 導入は歓迎しない。	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)		
問3	DABの人数	(1) 原則的に3人制とすべきと考える。	38 (65.5%)	23 (71.9%)	10 (52.6%)	5 (71.4%)
		(理由) 中立性の確保	21	12	6	3
		当事者双方の意見を反映できる	3	1	2	
		多数意見の集約が必要	2	1	1	
		当事者が納得しやすい	2	2		
		法務、エンジニア両方必要	2	2		
		その他	6	4	1	1
		(2) 以下の場合は1人制にすべきと考える。	14 (24.1%)	8 (25.0%)	5 (26.3%)	1 (14.3%)
		(条件) 工事金額、規模が一定以下	12	6	5	1
		工事内容	5	2	3	
その他	5	3		2		
無回答	6 (10.3%)	1 (3.1%)	4 (21.1%)	1 (14.3%)		
問5	アジュディケーターへの興味	(1) やってみたい、または興味がある。	33 (56.9%)	20 (62.5%)	13 (68.4%)	0 (0.0%)
		(2) やってみたいとは思わない。	19 (32.8%)	11 (34.4%)	5 (26.3%)	3 (42.9%)
		無回答	6 (10.3%)	1 (3.1%)	1 (5.3%)	4 (57.1%)
問6	DAB Training Courseへの参加	(1) すぐにでも参加したい。	15 (25.9%)	7 (21.9%)	7 (36.8%)	1 (14.3%)
		(2) 条件付きで参加したい。	21 (36.2%)	16 (50.0%)	5 (26.3%)	0 (0.0%)
		(条件) 参加費用	8	6	2	
		時間、タイミング	4	2	2	
		会社命令	2		2	
		その他	8	8		
		(3) 参加したいとは思わない。	17 (29.3%)	8 (25.0%)	6 (31.6%)	3 (42.9%)
無回答	5 (8.6%)	1 (3.1%)	1 (5.3%)	3 (42.9%)		
問7	Assessment Workshopへの参加	(1) すぐにでも参加したい。	13 (22.4%)	6 (18.8%)	6 (31.6%)	1 (14.3%)
		(2) 条件付きで参加したい。	20 (34.5%)	13 (40.6%)	7 (36.8%)	0 (0.0%)
		(条件) 時間、タイミング	2	1	1	
		その他	11	7	4	
		(3) 参加したいとは思わない。	19 (32.8%)	11 (34.4%)	5 (26.3%)	3 (42.9%)
		無回答	6 (10.3%)	2 (6.3%)	1 (5.3%)	3 (42.9%)

自由回答

問2 DABの導入

(1) 導入すべき理由	紛争の予防/紛争の効率的な解決/結果的にローコスト、等	コントラクター 6名、コンサル 2名、その他4 名
	契約履行/プロジェクト実施における公平性の確保	コントラクター 3名
	クレーム処理に要する膨大な時間、労力の低減につながる	コントラクター 1名、コンサル 1名
	Contractorが意見を出せる場は多い方が良い 当事者(施主)以外の人が裁定をしたということで、Engineerも責を逃れる	コントラクター
	コントラクターとして、プロジェクトが竣工しても、クレームや紛争が解決せず、最終支払いが滞っている 現状であれば、早い段階での問題解決、ビジネス面でのコントロールが容易になり、発注者、融資機関 も負担が少なくなると思います。よって導入していただきたい。	コントラクター
	紛争前の費用発生は、合意(Parties')が難しいと思われるが、未然に紛争を防ぐ点は魅力がある。	コントラクター
	コントラクターの立場としては、DAB導入のメリットを確実にプロジェクトで運用できるのであれば、導入 すべきと考える。	コントラクター
	当事者間で共有して解決がベストである	コントラクター
	発注者の負担で、発注者にクレームができるから	コントラクター
	Engineerの負担を軽減する	コンサル
	DABの設置が世界標準になると思われるから。	コンサル
	クライアント側の費用負担に若干の懸念があるものの、問題を未然に予見し、解決する事はプロジェクト の運営、負担軽減には有効かと思えます。どのレベルが雇用する事になるか。地方自治体レベルで 可能なのか？	コンサル
	事業の効率的実施の観点からは望ましいものと考えられるが、契約締結時に必要とされる文書の作 成、確認が必要と考えられるが、その確認のプロセスが必要ではないか。開始前のDBメンバーによる 確認と関係者間の事前確認。	コンサル
	Engineer(コンサルタント)は、ClientとContractorの間で中立であり得ない。	コンサル
	ベトナムのon-going案件で支払い遅延、用買遅延等の問題が発生しているが、DABが導入されていたら 事情は違っていたと思う。	公益法人
	ベトナムではコントラクターからのクレームに対する決定がなかなか出ない。一般的にEmployerと Contractorの対立は簡単に解消しないように思われる。第三者機関の判断が求められる。契約あるい は着工時点で、将来どの程度の紛争があるかわからない(ゼロか少ない事を期待)。従って、スタート 時点でコスト負担増となるDABセットに乗り気でない→義務付けるほかない。	海外建設協 会
(2) 導入の条件	工事金額・規模(大型案件、工事金額が一定以上など)	コントラクター 2名、コンサル 3名
	工事内容(技術的、財政的など困難が予想される案件)	コントラクター 3名、コンサル 1名
	発注者が費用負担できる場合	コントラクター 1名、コンサル 3名
	当事者(発注者、コントラクター、エンジニア)がDABで解決しようとする意思があること	コントラクター 1名、コンサル 1名
	他のADR等のインフラのない場合	コントラクター
	国際入札、DBの判定を半強制的に遵守する。	コントラクター
	公平・公正な紛争解決をスムーズに行うためにはDAB導入が効果的と思われるが、発注者側の理解 や法整備がなければ難しいのではないか。また発注者とのDB費用折半がきちんとなされるかも疑問。	コントラクター
	現地国での執行力が発効できる場合のみ	コントラクター
	JICA負担とする	コントラクター
	地域など	コントラクター
	Non Bindingなので、ベトナム、カンボジアなど(後進国)では不定である。	コントラクター
	JICA Sample Bidding Documentを採用する場合	コンサル
	The Engineerと発注者の関係による。	コンサル
	ContractorとEngineerの国籍が一致している場合など特殊な条件下では採用すべきであるが、原則と してEngineerの判断を優先させるべきと考える。Engineerの経験値として契約管理能力を必要条件とす べきと思われる。あるいはEngineer側にQuantity Surveyerをアサインすべきと考える。	コンサル
	有資格者のavailabilityの確保	コンサル

自由回答

問2 DABの導入		
	条件ではなく段階的に導入した方が良いと思える。 アジュディケーターの位置づけが確定していない。 アジュディケーターの人数が限られていると思われる。等、現状では初期段階である。	コンサル
問3 DABの人数		
(1) 3人とする理由	Impartialさの確保/公平性・中立性の担保、等	コントラクター12名、コンサル6名、その他3名
	双方の意見・見解を反映でき、議論が尽くされる可能性が高い	コントラクター1名、コンサル2名
	多数意見の集約が必要	コントラクター1名、コンサル1名
	判定に対して、当事者が納得しやすい。	コントラクター2名
	法務、エンジニア両方必要	コントラクター2名
	透明性	コントラクター
	施主側が1人、Contractorが1人、この2人が議長を選ぶ。EngineerとAdminiが混ざるべき	コントラクター
	予算さえ担保されていれば3人制が望ましい。1人制の場合、専門性があり、中立的な人物をアポイントするのが難しい。	コントラクター
	1人制だと、発注者側の人となる可能性大	コントラクター
	専門職を多く持つ専門家は少ない。プロジェクトは多くの専門家を必要としている。コストをどのように抑えるかが問題。	コンサル
(2) 1人制とすべき場合	Employer、Contractor両者が納得、合意できるのであれば、1人でも3人でも、どちらでも良いだろう。	海外建設協会
	工事金額、規模 ・US\$30million以下 ・グラント工事 ・50億円未満 ・数十億円以下 ・契約金額に対するDAB費用の割合	コントラクター6名、コンサル5名、その他1名
	工事内容(難易度が低い、機器Supplyなど契約内容が単純)	コントラクター2名、コンサル3名
	例えば、ダウンした時の代員が明確な場合	コントラクター
	一定以上の権威ある(これが何かはわからないが)資格経歴と評価を得ている人材に限る	コントラクター
	コスト面で。但し発注者が負担するのであれば問題ない	コントラクター
	請負者、発注者側ともDABメンバーの指定ができなかった場合	コントラクター
	普及させるという意味で、当面(MDB版が普及するなど)の間は1人制でも止むを得ない。	公益法人
	係争金額が比較的小さい、係争の連続する可能性が小さい	弁護士
問4 DABの導入についての自由意見		
	コスト面での問題。 ・誰が(発注者、コントラクター)、どういう形で(円借or技協など)負担するのか。 ・(特に発注者が)費用負担を納得できるか。 ・Adjudicator feeの基準を明確にする、低減させる、定額制とする等。	コントラクター8名、コンサル4名、その他1名
	過去の事例から、紛争解決の必要性のあった案件、及び皆無であった案件を含め、費用対効果の分析(定量的な評価)を行うことが、各国政府関係者をDAB導入に前向きな考え方に導くことが可能ではないかと考えます(分析の結果、効果ありと評価できるという前提)。	コンサル
	紛争解決や公平性、プロジェクトのスムーズな進行のため、導入に賛同・期待したい。	コントラクター3名、コンサル2名
	パイロットプロジェクトの実施を要望	コントラクター1名、コンサル1名、その他1名
	判定の執行性やアジュディケーターの権限の確保が課題	コントラクター4名、コンサル2名
	メンバー選定方法や判定の公平性に疑問	コントラクター1名、コンサル2名

自由回答

問2 DABの導入

	アジュディケーターの人材育成、人材確保	コントラクター 3名、その他2 名
	当事者(特に発注者)のDABへの理解促進・合意形成が必要	コントラクター 3名、コンサル 3名
	宗教的な所、the Engineerの能力に関わるものであり嫌う人もいるのでは	コントラクター
	法整備。	コントラクター
	契約書に明記されたDABの設置規定を一方の当事者によって引き延ばされたり、無視された場合の救済はあるのか。	コントラクター
	上位機関の取り扱い	コントラクター
	コントラクターの立場からすると、紛争の主因は用買不十分なままの入札・着工あるいはFIDIC本来の精神から外れたアンフェアな契約条件をJICAが承認している事かと考えます。本件主旨とは外れますが、DABの導入とともに、紛争を予防する措置を望みます(Ex.用買上京のモニタリングを行い、入札開始。入札前の片務契約の是正指導など)。用買進捗を見極めて、入札開始は一時フィリピンでも行われたと思います。某VNでも同様にお願いします。	コントラクター
	片務契約書の見直し	コントラクター
	今までこの存在を知らなかったのも、もっと周知徹底が必要。JICAの関与度は？	コンサル
	日本人がメンバーになる時は、弁護士が多くなる傾向が強いと思われる。会社勤めをしている場合は困難？	コンサル
	コントラクター側に有利に働く(機能する)場合が多いと考えられ、事業実施者にとってみれば導入を懸念するのではないか。	
	日本のODAとしては、EngineerはEmployerに雇用される場合がほとんどで、EngineerとDAB間でのDisputeも起こりうると考える。	
	EngineerはDABに対して不服がある場合はどう対応するのか。	
	E's DecisionとDAB's Decisionは実質的に変わらないのではない？紛争が多く起こる国では結局次のステップ(仲裁)に行くのでは？それがそのままAmicableでも紛争解決で同じであるとか？	
	Quality of DABはメンバーのsuitabilityとcompetenceによるべき事	コンサル
	DBを設置しても最終的に決断に時間を要するケースもあるかと思う。(事業実施国のカルチャーに依るように感じる)失敗(うまくいかなかった)事例の分析などはあるのか？	コンサル
	日本人のDBメンバーを育成する事は大切であるが、関係者の国籍とは異なる第3国の人である事を要するのであれば、アジアにおける円借款での活躍は間接的には制限されることになるのではないか。	コンサル
	DABシステムの確立も大事だが、早くに試行的に動かしてみる事も大事だと思う。やはりエンジニアの立場/信頼が落ちてきているように感じられ、残念に思う。	コンサル
	Contract Conditionへの強制的雇用の意義付け(P.C、Sum、etc)	コンサル
	Project契約書にDispute解決へのCharterへの合意を含む。	
	アジュディケーター任命条件と報酬の開示	
	Day1にDAB、Adjudicator、発注者、ContractorのWork Shopを開催する事	
	海外、国内での例をひとつずつでも増やせればと考える。	公益法人
	しばらく後には、アジュディケーターとしての職務も考えたい。	弁護士

問6 DAB Training Courseについて

(4) 参加の条件	参加費用による	コントラクター 6名、コンサル 2名
	時間、タイミング	コントラクター 2名、コンサル 2名
	会社命令があれば	コンサル2名
	Adjudicatorになるためにどのようにつながっていくかによる。	コントラクター
	JICAの方が方向性を明確に導入すると決定すれば	コントラクター
	もう少し内容が具体的になってから検討したいから	コントラクター
	アジュディケーターの業務を理解する目的として(コントラクターサイドとしての興味)	コントラクター
	単に学習のため	コントラクター
	自分にその能力が備わったら・・・	コントラクター
	精神論的なもので、常に性善説が勝つ？	コントラクター
	各社がDABを習い、契約管理能力をかさ上げしないと中国、韓国に勝てない。	コントラクター

問7 Adjudicator's Assessment Workshopについて

(2) 参加の条件	タイミング	コントラクター 1名、コンサル 1名
	会社の意向による	コンサル
	今後の自身の会社での役割	コンサル

自由回答

問2 DABの導入

経験不足のため、将来的に参加したい。	コントラクター
自分にその能力が備わったら・・・	コントラクター
費用対効果があるか確認できれば	コントラクター
JICAの方が方向性を明確に導入すると決定すれば	コントラクター
アジュディケーターの業務を理解する目的として(コントラクターサイドとしての興味)	コントラクター
個人の情報源としての接点という位置づけで、Workshop等のセミナーへ参加したいと考えます。	コンサル
エンジニアではないので、資格が認められる要件の内容による。	コントラクター
事前準備の内容を知りたい	コンサル
英語力と国際的にlocalな言語	コントラクター

問8 その他意見

ありがとうございました。Corruptionの防護とはおもしろい見地であった。	コントラクター
National Listに載ったとして、会社勤めをどうやりくりするか？	コントラクター
Conflict of Interestが会社としてあった場合？	
テキストがしっかりしており、非常に判り易かった。	コントラクター
一昨年から可成土壌を育成されてきたことが良くわかりました。各口の調査も大変興味深いものが見えました。お疲れさまでした。人材については、日本人の得意としない「コミュニケーション能力」ジャッジするという体験(慣習)の乏しい国民性の中から、十分配慮して今後層を厚くすることを願います。さもないと、かえって日本の評価を貶めるリスクもあると思います。執行性を求めるものではないですが、やはり弁護士、裁判官を経験されたような人材がふさわしそうです(心強い感じがします)。ありがとうございました。	コントラクター
インフラ・プロジェクトの場合、土地収用や土質条件が大きく工程を変動させる要素である。工程が遅延する場合、それはコントラクターのコスト増につながり、融資機関のキャッシュフローを悪化させる要因となる。すなわち、紛争のもととなる。建設工事が契約調印される前の入札時、もしくは入札前の時点で土地収用などは予測できる場合もありうるので、建設時にはDABを導入し、紛争解決にあたるとしてもよりプロフェッショナルな人材でのレビューを入札前時点で行うことで入札前に未然に解決していくことも今後の円借款インフラプロジェクトの方向性ではないかと思う。	コントラクター
費用の負担の面で、Claimを受けるEmployer―円借では政府―の同意がDBについては難しい。発注者の啓蒙が必要。	コントラクター
非常に判り易いセミナーでした。	コントラクター
興味深い話題が多く、もう少し時間をかけてでもさらに詳細な話、経験談を聞きたかった。	コントラクター
日本の主導で制度ができれば非常に良いと思います。	コントラクター
非常に有益でした。ありがとうございました。	コントラクター
理解が深まった。必要性を認識した。	コントラクター
紛争の事例の紹介をお願いしたい。	コントラクター
DABは、発注者と受注者が協力する事に意義があるが、それは発注者次第。DABの費用負担も発注者とすれば、すべては発注者次第。	コントラクター
DABの実施経験による。問題点をもう少し包括的に知りたい	コンサル
貴重な機会を頂きありがとうございました。JICAからExcecuting Agencyへの働きかけが必要。Approval時の説明(Sample Documentの適用により必然的にDAB設置がなされること)が必要。	コンサル
DABについて概略を理解するのに非常に有意義なセミナーであったと思う。アジュディケーターになるには(資格認定)経験を問われると思うが、その基準はどのようなものか。年齢制限なども考えられるのか？	コンサル
説明が要点をとらえ、平明で理解しやすかった。JICAによる制度確立に向けた支援を望む。	コンサル
アジュディケーターとして、というよりはむしろ、その視点を持ってコンサルタント業務を遂行する事は有意義だと感じた。特に、コンサルタントのPMには必要な視点のように感じるので、そのようなプログラムを開発して頂きたいと思う。多くの事例に接する機会が必要と感じるので、JICAのような公的機関においてデータベース化して頂けると非常に有効なものとなると考える。	コンサル
本日のセミナーでは、DABの機能に関する話が不十分だったように思われる。もう少し具体的な活用事例の紹介が欲しかった。DABのTraining Courseの内容は、EngineerとしてのProject Managementを行うにあたって極めて有用な情報が含まれていると思う。ぜひ参加したい。国内の建設産業でも、紛争の防止のために第三者機関の採用が検討されつつあり、このDABがベースになるものと思われる。	コンサル
セミナーの時間(長さ)は適切であった。	コンサル
先方の意向、協議、合意を持ち、試行を多くする。	コンサル
初期段階では、裁定を先方は実行しない事が多いと思われる。特に金の支払い。それ以外の技術的・方法的な裁定は実行すると思われる。それだけでもプロジェクトにメリットはある。	
現状では、アジュディケーターのコストが不明であるので、皆に疑問・懸念がある。費用対効果による。あるプロジェクトは損となり、あるプロジェクトは益が多いこと等が起きるのを、皆が覚悟すれば導入可能でしょう。	
FIDICの理解を深めることを本件へ関わることへの導入目的と位置づけてセミナーへ参加しました。将来(現在含め)必ず継続的な接点を持ちたいと思っております。	コンサル
時期を得たものと考えます。	
弁護士、コンサル、外務省、JICA、ゼネコン等あらゆる分野の方が、多視点での意見交換をして、大変有意義であった。特に、実施上の難題について、オープンな議論をしたのが良かった。	公益法人
	公益法人

自由回答

問2 DABの導入		
	JICAの内部関係職員に対する契約問題の意識、認識向上は不可欠ですので、国際建設プロジェクトにおける紛争、クレームの実態を含め、DABの必要性についての研修を実施しては如何でしょうか。また、当然コンサル、コントラクター業界への継続的な研修もお願いしたいと思います。	業界団体
	援助機関(JICA)の導入方針の意見をお聞きたい。アジュディケーターの費用を円借款で見れるのか。	その他

DAB セミナー写真（東京）



アジュディケーター資格審査に係る運用規定（案）

(Guideline for Implementation of Qualification Procedure of DB Adjudicators(Draft))

1. 総則

本規定は、各国のFIDIC会員協会（MA: FIDIC Member Associations）、或いは大学等の組織・機関（資格審査実施機関と呼ぶ）がDBアジュディケーターの資格審査を行い、認定アジュディケーターを国別リスト（NL: National List of Approved DB Adjudicators）¹に掲載し、またそのNLを維持する業務（資格審査と呼ぶ）に適用される。

2. 資格審査実施機関

資格審査実施機関は、DB アジュディケーターの資格審査を適切かつ持続的に行うことのできる組織であることとする。

3. 資格審査のプロセス

資格審査のプロセスは、資格審査受審の要件となる資格審査前のトレーニングを含め、以下の6つのフェーズからなる。

- (1) 資格審査前のトレーニング
- (2) 資格審査
- (3) APA(Assessment Panel for Adjudicators) からの推薦
- (4) 資格審査機関による認定
- (5) 資格審査機関による NL への掲載
- (6) 資格審査機関による NL の維持

3.1 資格審査前のトレーニング

トレーニングは次の2つのパートから構成され、これらトレーニングの修了は資格審査受審の要件とする。

(1) FIDIC Module 1 および Module 2

FIDIC がそのコンテンツを定めている契約研修プログラムである Modules 1 および Modules 2 を修了することとする。各モジュールは MDB Harmonised Edition が反映された内容であることとする。

- Module 1: Practical use of the FIDIC Conditions of Contracts (MDB Harmonised Edition を含む)
- Module 2: The management of claims and dispute resolution procedures

(2) DB トレーニング

JICA DB Training Kit を用いた5日間のトレーニング・ワークショップを修了するこ

¹ 本運用規定では、FIDIC MA だけではなく大学等の組織・機関が発行する認定アジュディケーター国別リストを NL と称する。

とする。

3.2 資格審査

原則として、FIDIC President's List of Approved Adjudicatorsの評価委員（APA: Assessment Panel for Adjudicators）のうちの1名、若しくはFIDIC President's Listに掲載のアジュディケーターの1名を議長とする3人構成のAPAを設置するものとする。APAはDB資格審査応募規定（Application Criteria for an Approved Adjudicator）に従い応募を行った資格審査候補者に対して、応募申請書面による資格審査を行う。資格審査応募規定は付属書-1を参考とし、APAの助言を得て資格審査実施機関が策定するものとする。APAは応募要件を満足する候補者に対し、付属書-2に示される「3日間資格審査ワークショップ・プログラム（例）」に基づいて資格審査を行なうものとする。書類審査の結果および資格審査ワークショップによる審査の結果はどちらも最終的であり、異議の申し立てを受け付けないことを資格審査応募規定の中で明記するものとする。

資格審査における評価項目は以下のとおりである。APAはこれらの能力評価を可能にするテスト材料、ケース・スタディーのための仮想シナリオを作成するものとする。

- MDB 版契約約款への精通度
- DB プロセスへの精通度
- 与えられた仮想シナリオを分析し、クレームに対する契約の適用能力や潜在的契約問題の抽出能力
- 明確で説得力のある文章を書く能力
- 時間的プレッシャーのもとで仕事をする能力
- 関係者と口頭によるコミュニケーション力

3.3 NL への掲載

APAは資格審査の結果に基づきNLへの掲載が適切であると考えられる候補者を資格審査実施機関へ推薦し、これを受けて資格審査実施機関は候補者のDBアジュディケーターへの認定の可否を最終的に決定し、認定された場合はその氏名と経歴をNLへ掲載する。NLを公開する資格審査実施機関は、(1) リストの中からアジュディケーターの選択をしようとする者は、自ら掲載されている履歴を精査し、必要に応じて個人的な調査を行うこと、(2) FIDICおよび資格審査実施機関はこのリストのどの個人をも推薦する立場にないこと、また(3) リストに掲載されたアジュディケーターの行った行為に対するいかなる賠償責任をも負わないこと、を明示するものとする。

3.4 NLの更新と維持

APAは資格審査実施機関の委託を受けてリストを定期的に審査し、更新するメンバーの推

薦を行う。更新時の審査内容は、本人の健康状態と継続の意思、及び前回の更新以降の、DBメンバーの業務に関わるトレーニング、DBとしての活動、その他 FIDIC 約款、FIDIC MDB 版に基づく契約に関わった経験、関連する書籍や論文の発表などに関して行われる。

資格審査実施機関は APA の推薦に基づいてリストの更新を決定する。

以上

付属書-1 : DB アジュディケーター資格審査応募規定 (例)

付属書-2 : 3 日間資格審査ワークショップ・プログラム (例)

【付属書-1】

DB アジュディケーター資格審査応募規定（例）

(Sample Application Requirements for Assessment of an Approved Adjudicator)

1. 目的

資格審査実施機関がNL²に掲載するDBアジュディケーターの資格審査を受審するための応募規定を定める。

2. 資格審査応募要件

資格審査を受審する申請者は以下の要件を満たさなければならない。また、応募時に証明書等の写しを提出すること。

- 1) 学歴:
土木・建築・電気・機械などの工学・建設プロジェクトに関連する専門学歴を有すること。
- 2) 職歴
10年以上建設コンサルタント、建設企業等において責任ある立場の経験を有すること。
- 3) 職業上の資格
適切な職業上の資格を所有していること。弁護士は上記の規定にかかわらず、建設契約の経験が豊富であれば有資格とみなす。
- 4) 特別な経験³
 - (1) 国際建設工事の経験を有すること。
 - (2) FIDIC 契約条件書を用いた経験を有すること。
 - (3) 契約紛争解決の経験を有すること。
- 5) 英語に堪能であり、簡潔で的を射た文章が書けること。
- 6) FIDIC Modules 1 & 2 (MDB 版を含む) セミナーを修了していること。
- 7) DB トレーニング・ワークショップを修了していること。
- 8) NL に掲載され、DB メンバーとして指名を受けたとき、受諾する意思と受諾できる健康状態にあり時間的余裕があること。

3. 推薦状

申請者は本人が DB アジュディケーターとして相応しい人物であることを保障する個人からの推薦状を2通提出しなければならない。

² 本運用規定では、FIDIC MA だけではなく大学等の組織・機関が発行する認定アジュディケーター国別リストを NL と称する。

³ (1)～(3)の要件は全て満たす必要がある。

4. 書類審査

申請者は上記2項の資格審査要件を証明する書類の写し、ならびに上記3項の推薦状とともにデジタル写真を添付した経歴書を提出しなければならない。評価委員会（APA: Assessment Panel for Adjudicators）によるこれらの書類審査に合格したものだけが、審査資格ワークショップに参加することができる。書類審査での不合格者には不合格の通知が、合格者には審査資格ワークショップへの参加希望確認が送付される。

5. 審査資格ワークショップ参加および審査代

書類審査に合格し、審査資格ワークショップに参加しようとするものは、規定のワークショップ参加費および審査料を添えて参加応募を行わなければならない。

6. 審査資格ワークショップによる審査と NL への掲載

審査資格ワークショップ参加者は、資格審査実施機関が別途提供するプログラム（日時、場所、ワークショップ・プログラム内容等の詳細を含む）にしたがって実施されるワークショップによって、DB アジュディケーターとして認定されるかどうかを審査される。参加者全員に合否が通知される。この合否決定は最終的であり、意義の申し立ては一切できない。

合格者で DB メンバーを引き受ける意思と時間的余裕があるものは、所定の掲載費を資格審査実施機関に支払わなければならない。

7. NL の更新

リストは3年ごとに更新される。継続して DB メンバーを引き受ける意思と時間的余裕があり引き受けることができる健康状態にあるものはそのことを表明し、前回の更新以降の、DB メンバーの業務に関わるトレーニング、DB としての活動、その他 FIDIC 約款や FIDIC MDB 版に基づく契約に関わった経験、関連する書籍や論文の発表などの実績を報告することによって、APA による再評価を受ける。継続掲載に合格したものは資格審査実施機関に規定の掲載費を支払わなければならない。

【付属書-2】

3 日間資格審査ワークショップ・プログラム（例）

(A Sample Programme of A Three-Day Assessment Workshop)

	午前	午後	夕方 宿題
1 日目	<ul style="list-style-type: none"> 評価委員と受験者の自己紹介 FIDIC MDB 版に基づくクレームと紛争に関する試験（#1） 	<ul style="list-style-type: none"> DB の設置・運用・実施に関するテスト（#2:） 宿題のための仮想シナリオの説明 	仮想シナリオに基づいて潜在的契約問題の抽出（個人作業）（#3）
2 日目	<ul style="list-style-type: none"> 疑似ヒアリング形式での仮想シナリオに基づくケーススタディー（#4） 	<ul style="list-style-type: none"> ケーススタディー（#4：続） 宿題のための仮想シナリオに基づく付託された紛争の説明 	付託に対する DB の「裁定」（個人作業）（#3）
3 日目	<ul style="list-style-type: none"> APA による個人面接 	<ul style="list-style-type: none"> APA による個人面接（続） 閉会 	—

注:

#1: 多項選択試験

#2: 記述式回答

#3: 翌朝にレポートまたは「裁定」を提出

#4: 受験者は 3 人（議長：1 人）毎にいくつかの DB グループに分ける

- | | |
|---------------------------------------|-------|
| (1) APA が付託者、被付託者のロール・プレーを行う: | 10 分間 |
| (2) 受験者（仮想 DB メンバー）は付託者・被付託者への質問が許される | 10 分間 |
| (3) 受験者（仮想 DB メンバー）は内部での議論の時間が与えられる | 10 分間 |
| (4) APA が指名した 1 組の DB が「裁定」を下す | 10 分間 |

合計

40 分間

上記を全 DB チーム (7~8 組):が繰り返し実施する

パイロットプロジェクトにおける DB の費用見積

1. 費用見積のための前提条件

契約金額：100 億円

工期：4 年間

DB 形式：常設 DB

DB メンバー：3 人

現場訪問頻度：4 ヶ月毎

現場訪問日数：一訪問当たり 5 日間

月額報酬：3,000 米ドル

日額報酬：3,000 米ドル

2. 定常的コストの見積

費用項目	1 人分	3 人分
月額報酬	$\$3,000 \times 12 \times 4 = \$144,000$	\$432,000
欠陥通知期間の月額報酬	$\$2,000 \times 12 = \$24,000$	\$72,000
現場訪問の日額報酬	$\$3,000 \times 5 \times 3 \times 4 = \$180,000$	\$540,000
現場訪問時の実費	$\$5,000 \times 3 \times 4 = \$60,000$	\$180,000
合 計		\$1,224,000

3. DB へ紛争裁定の付託があった場合の追加コスト見積

年に一回付託があり、その都度それぞれの DB メンバーが自国で 3 日間書類を検討し、現場訪問の際に 2 日間ヒアリング等で滞在が伸びると仮定する。

費用項目	1 人分	3 人分
追加の日額報酬	$\$3,000 \times 5 \times 4 = \$60,000$	\$180,000
実費増	\$5,000	\$15,000
合 計		\$195,000